



---

IV 国民の文化活動

---



## ① 文化に対する国民の意識

＊ 総理府の調査によれば、「文化」のイメージとして「歴史的遺産が保存されていること」「美術・音楽などの芸術が盛んなこと」を挙げる者が多くそれぞれ1位、2位を占め、また「伝統的なお祭・行事・芸能などのこと」と答えた者も多い(①)。

日本の文化に対する国民の評価については概して高く、例えば「日本では文化が大切にされているか」との問いに「大切にされている」と答えた者が7割を超え、世界の中での日本の文化水準の位置については、6割を超える者が「高い方」と答えている。また、日本の誇りとして、「長い歴史と伝統」「すぐれた文化・芸術」を挙げた者が上位を占めている(②)。

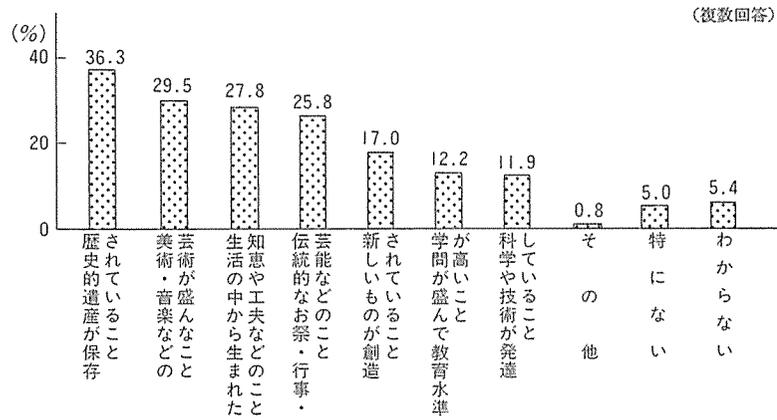
＊ このような文化に対する国民の意識を反映して、文化活動に対する国民の欲求は急速に高まっている。例えば、プロの公演の直接鑑賞においても自分で演じたり作ったりすることにおいても、今後活動を希望する者の割合は実際に活動を行った者の割合を大きく超えている。この傾向は特に鑑賞活動において著しい(③)。

一方、鑑賞活動を行わなかった理由としては、「時間がなかなかとれない」をトップに以下「あまり関心がない」「近くで公演をやっていない」「費用がかかりすぎる」などが上位に挙がっている(④)。

＊ また、国や地方公共団体の文化行政に対する要望では、「文化施設を整備・充実する」「芸術文化団体・サークルの育成・援助をする」「文化に関する情報を提供する」「指導者を養成・派遣する」などが多い(⑤)。

身近に必要な文化施設としては、3人に1人が文化会館(音楽会や劇の公演などができる市民会館・県民会館)を挙げている。以下、「公民館や地域の集会施設」「美術館」「図書館」「博物館」の順となっている(⑥)。

① 「文化」のイメージ



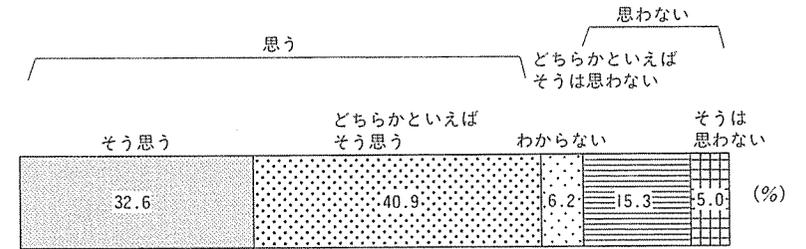
● 都市規模別、年齢別文化のイメージ (再掲)

	美術・音楽などの芸術が盛んなこと	歴史的遺産が保存されていること	新しいものが創造されていること	科学や技術が発達していること	学問が盛んで教育水準が高いこと	伝統的なお祭・行事・芸能などのこと	生活の中から生まれた知恵や工夫などのこと
総数	29.5	36.3	17.0	11.9	12.2	25.8	27.8
〔都市規模〕							
東京都部	30.1	39.9	14.7	10.5	11.2	20.3	23.1
10大市	40.1	39.7	13.4	11.9	12.6	27.8	25.3
人口10万以上の市	30.4	36.9	18.5	13.5	14.1	23.1	28.8
人口10万未満の市	24.9	38.7	19.2	10.8	11.4	28.1	30.2
町村	27.0	31.0	15.2	11.1	10.2	28.1	26.8
〔年齢〕							
15～19歳	32.9	29.9	29.3	13.8	9.6	31.7	35.9
20～29歳	33.6	35.1	24.3	14.6	9.7	23.9	32.8
30～39歳	33.5	36.9	20.0	12.7	14.1	27.2	30.2
40～49歳	33.1	36.8	15.8	11.7	12.6	26.5	30.0
50～59歳	26.3	36.1	13.2	11.8	13.7	23.1	24.4
60～69歳	21.0	42.4	11.7	9.7	13.4	23.8	21.0
70歳以上	20.4	29.9	5.4	8.2	4.8	27.9	18.4

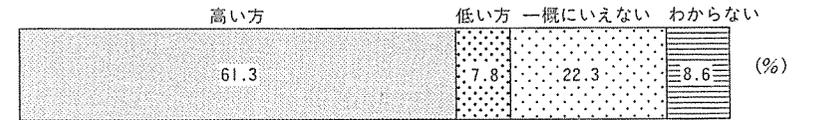
(資料) 総理府「文化に関する世論調査」62年7月

② 日本の文化に対する国民の評価

(ア) 文化が大切にされているか

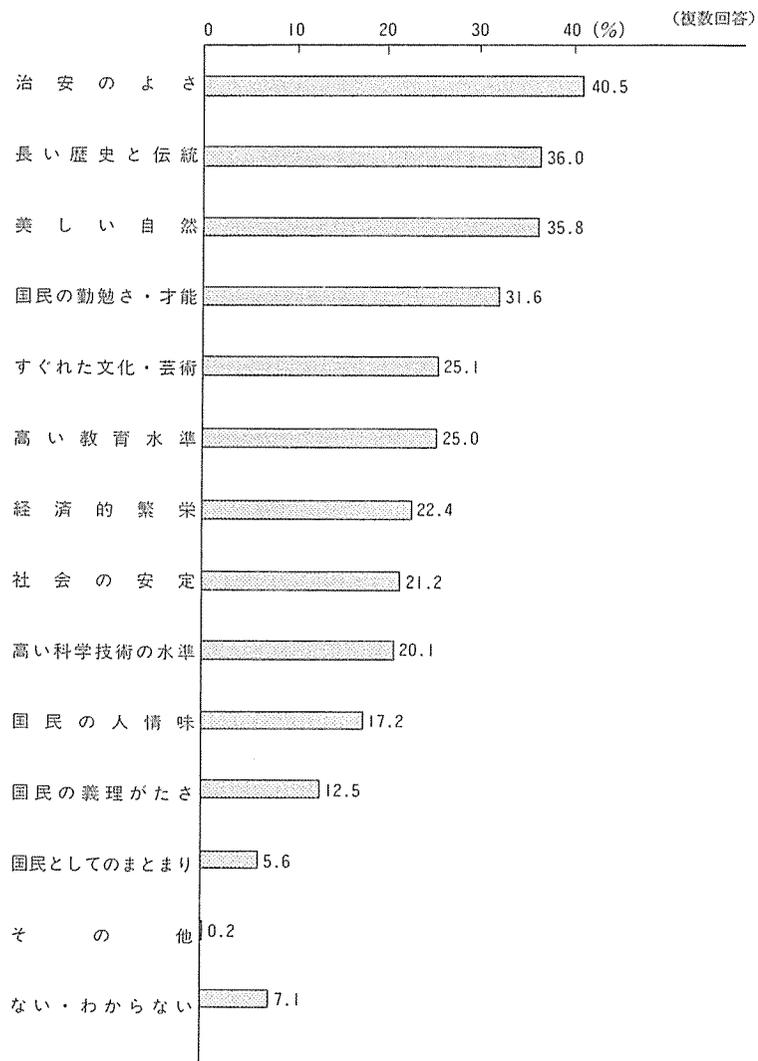


(イ) 世界の中での日本の文化水準の位置



(資料) 総理府「文化に関する世論調査」62年7月

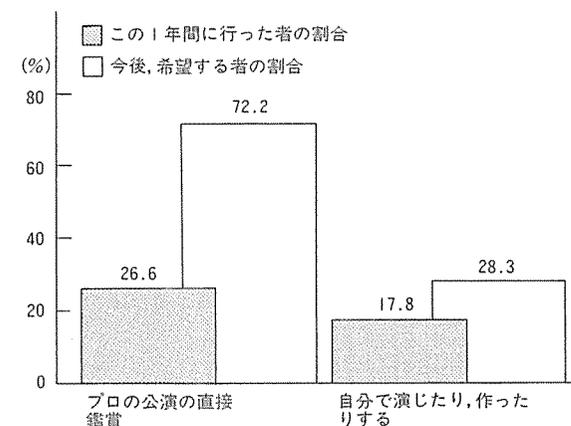
(ウ) 日本の誇り



(資料) 総理府「社会意識に関する世論調査」63年12月

③ 文化活動に対する国民の欲求

(ア) 1年間の活動と今後の希望

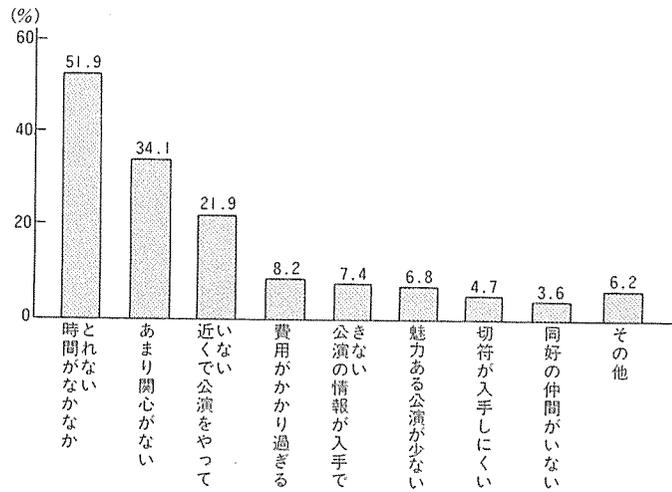


(イ) 都市規模別、年齢別文化活動に対する今後の希望 (再掲)

	プロの公演の直接鑑賞	自分で演じたり作ったりする
総数	72.2%	28.3%
[都市規模]		
11 大市	78.8	29.8
東京都区部	83.9	35.0
10 大市	76.2	27.1
人口10万以上の市	73.6	29.1
人口10万未満の市	73.6	29.6
町	64.5	25.0
村	64.5	25.0
[性]		
男	70.5	23.9
女	73.6	32.1
[年齢]		
15 ~ 19 歳	88.6	44.9
20 ~ 29 歳	82.8	33.6
30 ~ 39 歳	78.4	31.0
40 ~ 49 歳	73.7	29.8
50 ~ 59 歳	66.0	23.1
60 ~ 69 歳	60.3	21.7
70 歳以上	51.0	14.3

(資料) 総理府「文化に関する世論調査」62年7月

(ウ) この1年間にプロの公演を鑑賞しなかった理由



●都市規模別、年齢別の鑑賞しなかった理由（再掲）

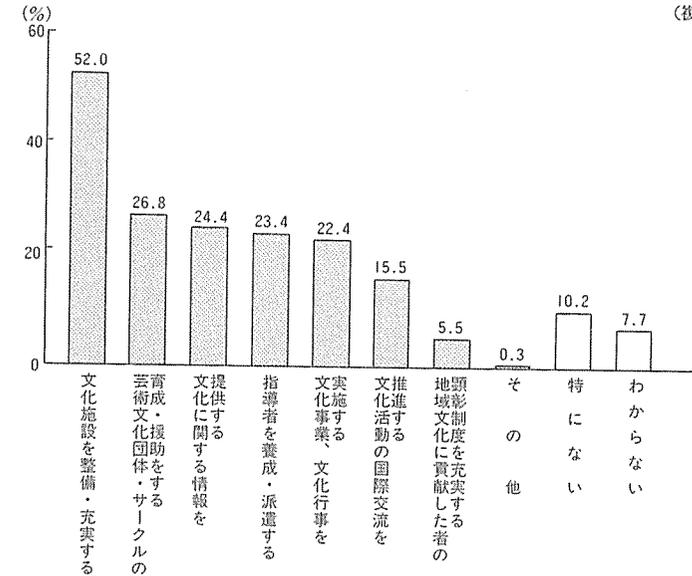
	費用がかかり過ぎる	魅力ある公演が少ない	近くで公演をやっていない	切符が入手しにくい	時間がない	同好の仲間がいない	公演の情報が入手できない	あまり関心がない	その他
総数	8.2	6.8	21.9	4.7	51.9	3.6	7.4	34.1	6.2
[都市規模]									
東京都区部	2.3	5.7	8.0	6.9	59.8	4.6	2.3	32.2	6.8
10大市	18.9	9.1	10.9	2.9	64.0	4.6	4.0	30.3	5.7
人口10万以上の市	7.9	8.3	16.1	5.3	54.5	3.8	7.1	34.8	6.2
人口10万未満の市	5.5	6.3	20.7	5.8	50.7	5.2	6.6	38.9	6.0
町	7.8	4.7	36.5	3.5	43.6	1.8	10.5	31.6	6.6
[性別]									
男	7.8	7.4	19.3	5.1	49.0	2.9	6.3	39.3	6.2
女	8.6	6.2	24.7	4.3	54.8	4.4	8.5	28.7	6.3
[年齢]									
15～19歳	14.3	11.0	26.4	7.7	50.5	5.5	8.8	27.5	2.2
20～29歳	7.1	13.2	24.7	8.8	63.2	3.8	10.4	26.4	3.2
30～39歳	8.4	8.1	20.8	4.9	60.6	4.0	10.0	27.8	3.2
40～49歳	8.7	6.1	22.3	5.8	57.7	3.5	6.4	31.6	4.3
50～59歳	7.5	5.5	24.0	3.3	54.7	2.5	5.8	37.0	4.7
60～69歳	7.0	4.0	18.5	2.6	34.8	3.5	5.7	44.9	11.0
70歳以上	8.1	1.6	17.1	0.8	16.3	4.9	4.9	48.0	23.6

(注) 1,701人に対する複数回答

(資料) 総理府「文化に関する世論調査」62年7月

④ 文化に対する国や地方公共団体に対する要望

(複数回答)

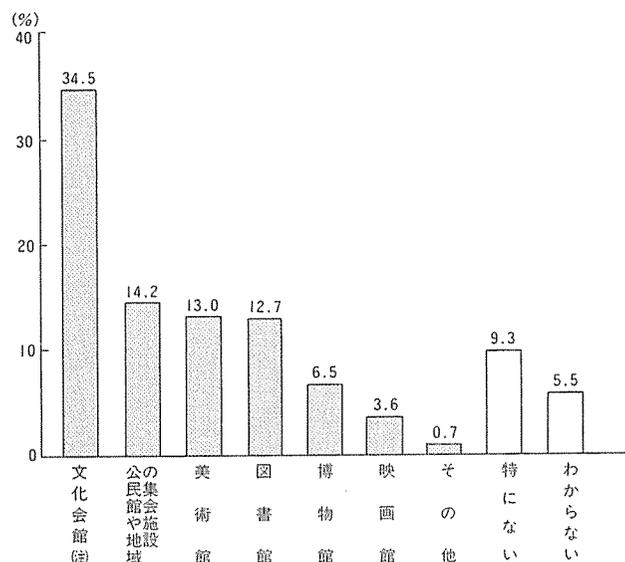


●男女別、年齢別目公共団体に対する要望（再掲）

	文・文化施設を整備	指導者を養成・派遣	文化事業を実施	文化活動を推進	芸術文化団体の育成	地域文化の顕彰	文化交流の推進
総数	52.0	23.4	22.4	24.4	26.8	5.5	15.5
[性別]							
男	54.4	22.9	23.4	26.7	25.3	5.8	16.6
女	50.0	23.9	21.5	22.3	28.1	5.3	14.4
[年齢]							
15～19歳	57.5	16.2	25.1	31.1	25.7	4.2	28.1
20～29歳	55.6	26.1	26.9	28.7	31.0	7.1	23.5
30～39歳	54.2	25.8	25.8	31.3	31.9	5.0	17.1
40～49歳	54.3	24.9	21.8	22.6	31.5	4.7	15.2
50～59歳	50.0	23.1	22.9	20.1	24.1	6.6	12.4
60～69歳	47.6	22.1	15.2	19.7	18.6	6.9	8.3
70歳以上	39.5	17.7	14.3	14.3	12.2	2.0	5.4

(資料) 総理府「文化に関する世論調査」62年7月

⑤ 身近に必要な文化施設



(注) 文化会館…音楽会や劇の公演などができる市民会館・県民会館

●男女別、年齢別身近に必要な文化施設 (再掲)

	文化会館	美術館	博物館	図書館	公民館や施設	映画館
総数	34.5%	13.0%	6.5%	12.7%	14.2%	3.6%
[性男]	32.3%	13.6%	8.2%	12.4%	14.7%	3.3%
[性女]	36.3%	12.4%	5.1%	13.1%	13.8%	3.8%
[年齢]						
15～19歳	39.5	12.6	8.4	19.8	4.8	11.4
20～29歳	38.1	15.3	5.2	13.4	9.7	6.7
30～39歳	35.9	13.1	7.3	16.1	12.9	4.2
40～49歳	36.8	14.6	7.2	11.9	12.6	2.9
50～59歳	31.6	14.7	6.4	9.8	17.5	1.1
60～69歳	31.4	7.6	4.8	12.8	19.3	1.7
70歳以上	24.5	8.2	6.1	4.1	22.4	0.7

(資料) 総理府「文化に関する世論調査」62年7月

② 国民の文化活動の現状

＊ 近年における国民の文化に対する志向が高まるにつれて、国民の文化活動も活発化している。総理府の調査によれば、プロの公演を直接鑑賞した者が約27%、自分で演じたり作ったりした者が約18%で、男女別ではいずれも女性の方が行動率は高い ((1)―①―(7))。

年齢別に見ると、「15～19歳」の行動率が最も高く、プロの公演を直接鑑賞した者は5割弱、自分で演じたり作ったりした者は3割を超えている。また、20～40歳代でも行動率は高く、50歳代以上では年齢層が高くなるにつれて行動率は低くなる ((1)―①―(4))。また、総務府の調査により、文化活動を含め「教養・娯楽」を行った者の割合を男女別に見ると、日曜日及び土曜日は女性より男性の行動率の方が高いのに対し、平日では逆に女性より男性の行動率の方が低くなっている ((1)―②)。

＊ 分野別の活動者数については、「レコード・テープ・テレビ・ラジオ等による音楽鑑賞」と「趣味としての読書」がそれぞれ4,000万人代にのぼっている ((2)―①, ②)。

年齢別では、概ね高齢層になるほど行動者率は低下する傾向にある。しかし、「囲碁」「将棋」「演劇鑑賞」「書道」「舞踊鑑賞」などのように40～60歳代で行動者率が上昇する傾向のあるものもある ((2)―③)。

また、文化活動を行った者の割合の大きさを都道府県単位で比較してみると、「映画鑑賞」「美術鑑賞」「演劇鑑賞」「クラシック音楽鑑賞」「ポピュラー・歌謡曲の鑑賞」などの鑑賞活動については、東京都、神奈川県、大阪府など人口の大きい都道府県において行動率が高い傾向にあり、また、都道府県の行動率の差異が比較的大きい。「書道」「華道」「茶道」「囲碁」「将棋」などでは、特に顕著な傾向は見られず都道府県の行動率の差異も小さい ((2)―④)。

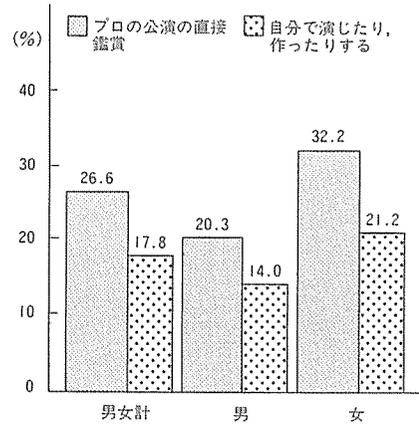
文化活動を行った者の男女別構成比を見てみると、特に、「茶道」「華道」「邦舞・おどり」では女性の活動者が8割以上を占めている ((2)―⑤)。

文化活動を行った者の1世帯収入額を見ると、全体として高収入者の占める割合が相対的に高いが、特に「茶道」「クラシック音楽鑑賞」「美術鑑賞」「演劇鑑賞」「舞踊鑑賞」などでその傾向が顕著である ((2)―⑥)。

(1) 国民の文化活動の現状

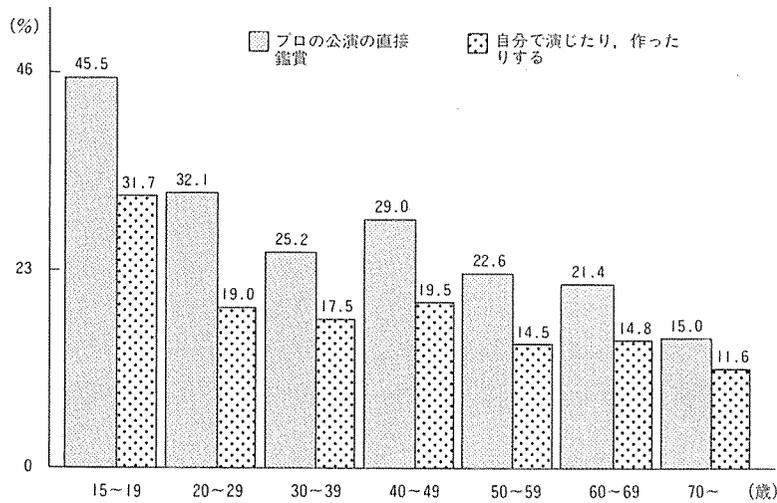
① 文化活動をした者の割合

(ア) 男女別



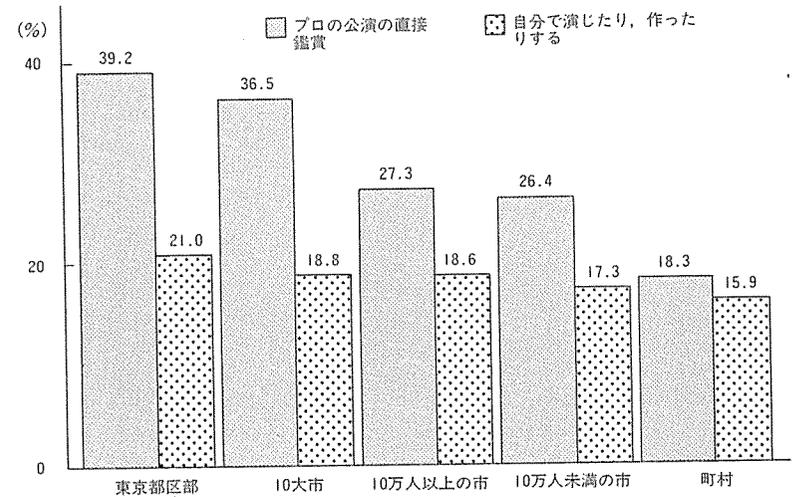
(資料) 総理府「文化に関する世論調査」62年7月

(イ) 年齢別



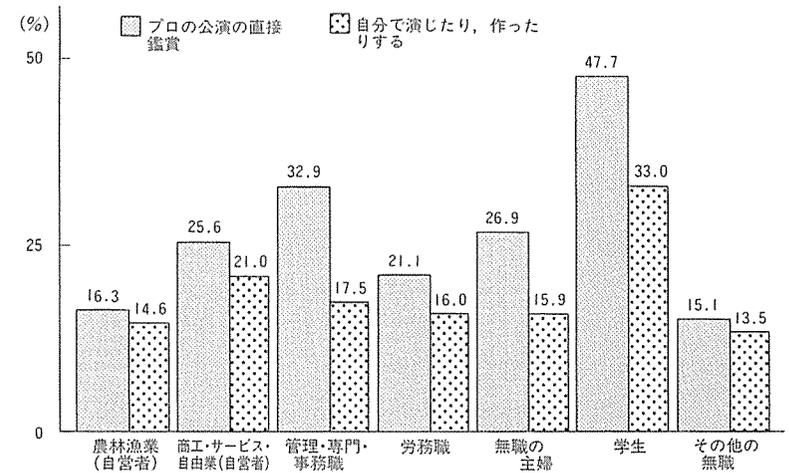
(資料) 総理府「文化に関する世論調査」62年7月

(ウ) 都市規模別



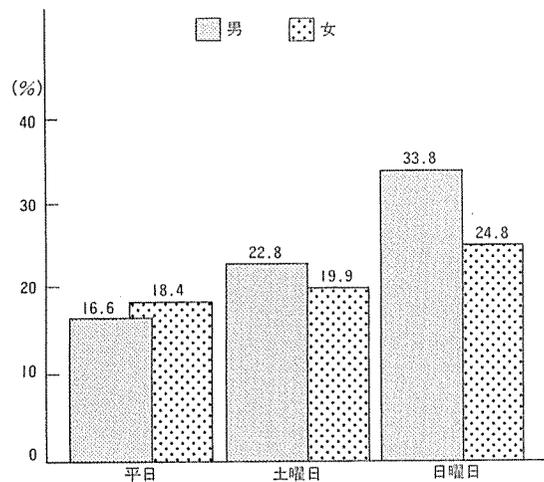
(資料) 総理府「文化に関する世論調査」62年7月

(エ) 職業別



(資料) 総理府「文化に関する世論調査」62年7月

② 趣味・娯楽を行った者の曜日別にみた割合

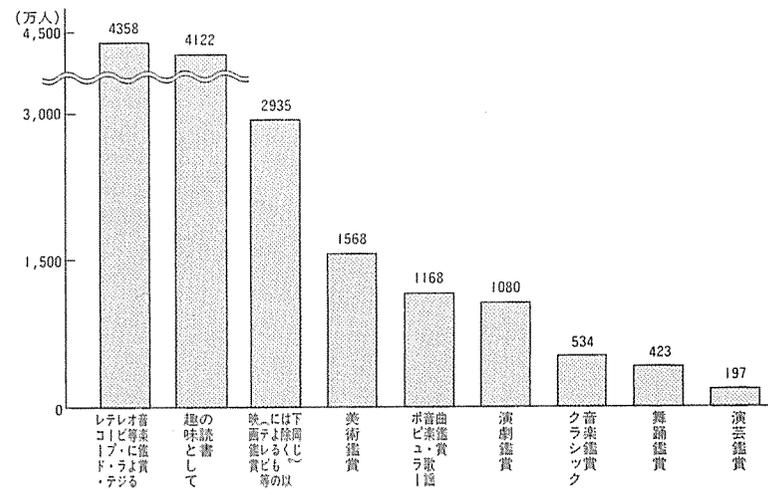


(注) 趣味……映画・美術・スポーツ等の観覧・鑑賞，楽器の演奏  
 娯楽……手芸，華道，庭いじり，ペット等の飼育，麻雀，ドライブ  
 観光地の見物，読書

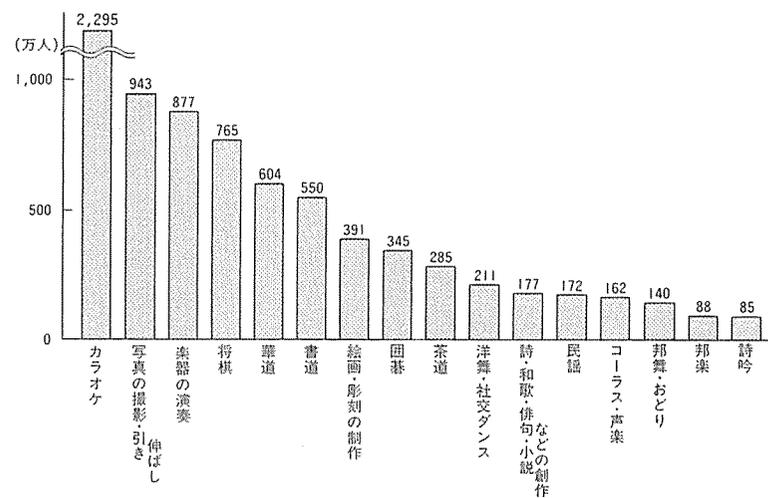
(資料) 総務庁「社会生活基本調査報告」昭和61年

② 分野別にみた国民の文化活動

① 鑑賞活動者数



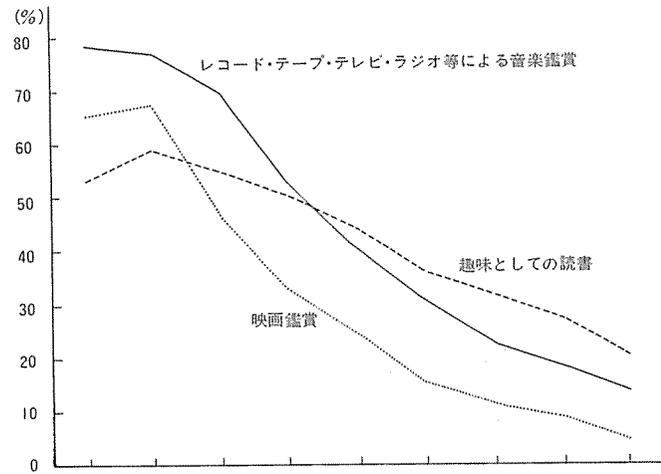
② 参加活動者数



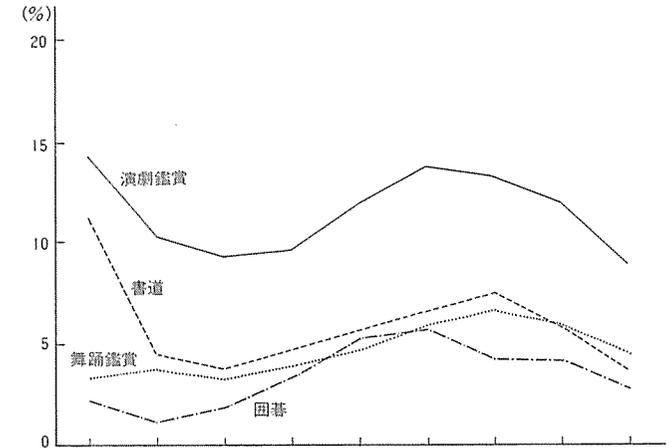
(注) この1年間に活動を行った者の数

(資料) 総務庁「社会生活基本調査報告」昭和61年

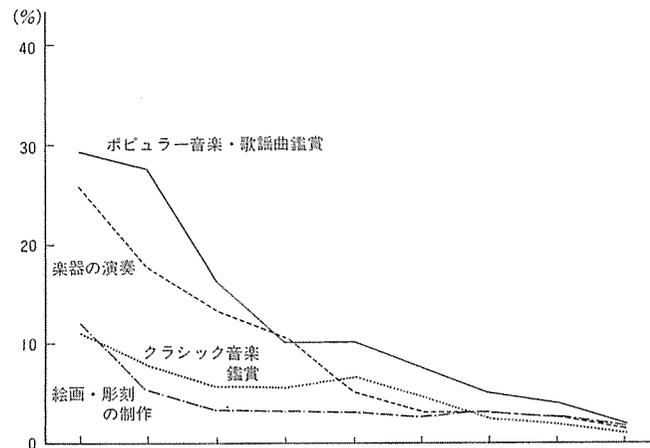
③ 文化活動をした者の年齢別、分野別の割合



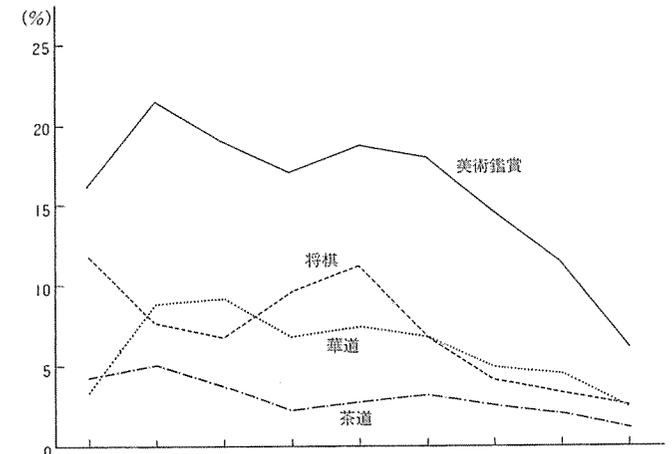
	15～	20～	25～	30～	40～	50～	60～	65～	70～
映画鑑賞	65.2	67.3	46.6	33.0	24.6	15.1	11.1	8.8	4.3
読書	53.1	58.7	54.8	50.3	44.1	36.1	31.9	27.5	20.6
レコード	78.4	76.9	69.4	52.0	40.1	30.6	22.6	18.3	13.6



	15～	20～	25～	30～	40～	50～	60～	65～	70～
囲碁	2.2	1.2	1.9	3.3	5.2	5.7	4.3	4.2	2.8
演劇鑑賞	14.4	10.3	9.3	9.6	11.9	13.8	13.3	12.0	8.8
書道	11.3	4.5	3.8	4.7	5.6	6.5	7.4	5.8	3.7
舞踊鑑賞	3.3	3.7	3.3	3.9	4.6	5.8	6.5	5.9	4.5



	15～	20～	25～	30～	40～	50～	60～	65～	70～
クラシック	10.9	8.0	5.9	5.7	6.4	4.8	2.5	1.9	1.0
ポピュラー	29.4	27.8	16.3	10.1	10.0	7.6	5.2	4.2	2.1
楽器の演奏	25.8	17.8	13.3	10.7	5.3	3.4	3.1	2.8	1.2
絵画制作	12.1	5.4	3.5	3.4	3.3	2.7	3.1	2.8	1.8



	15～	20～	25～	30～	40～	50～	60～	65～	70～
美術鑑賞	16.1	21.5	19.0	17.1	18.7	18.0	14.5	11.4	6.1
将棋	11.8	7.7	6.8	9.6	11.1	6.9	4.2	3.4	2.7
茶道	4.3	5.1	3.8	2.3	2.8	3.2	2.6	2.1	1.3
華道	3.4	8.9	9.2	6.8	7.4	6.9	5.0	4.6	2.5

(資料) 総務庁「社会生活基本調査報告」昭和61年

④ 文化活動をした者の割合が高い県、低い県

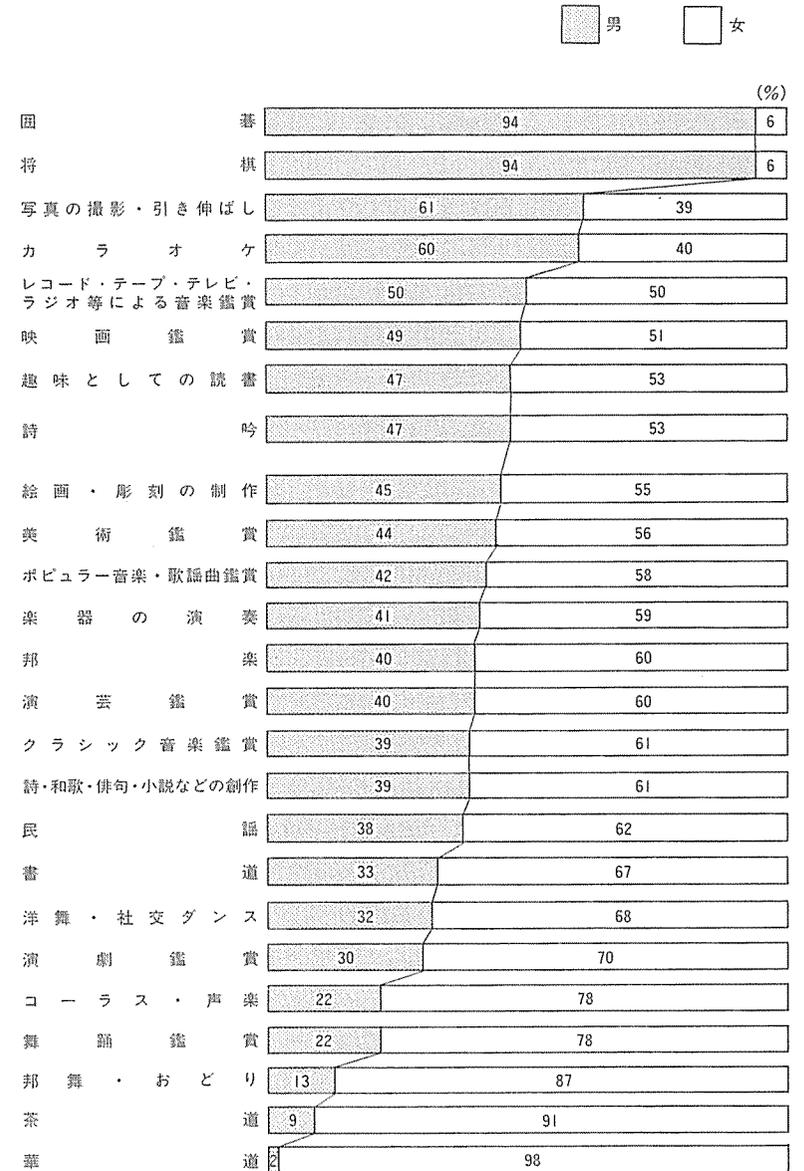
種別	映画鑑賞	美術鑑賞	演劇鑑賞	舞踊鑑賞	クラシック音楽鑑賞
上位5県	東京 44.9%	東京 23.6%	東京 19.9%	沖縄 9.8%	東京 8.3%
	神奈川 40.3	神奈川 21.2	大阪 16.3	岩手 8.4	神奈川 7.6
	大阪 38.3	山梨 21.1	愛知 16.2	宮崎 8.0	京都 7.4
	京都 36.4	長野 20.1	奈良 15.5	鹿児島 7.6	大阪 6.9
	埼玉 35.1	京都 20.0	神奈川 14.4	宮城 6.3	北海道 6.6
下位5県	島根 16.7%	沖縄 7.1%	高知 4.5%	島根 2.2%	青森 3.4%
	鹿児島 19.9	青森 9.4	愛媛 4.6	栃木 2.8	沖縄 3.5
	秋田 20.4	徳島 10.1	山口 5.1	茨城 3.0	島根 3.6
	福島 20.8	長崎 10.2	長崎 5.1	岡山 3.0	徳島 3.6
	新潟 20.9	和歌山 11.4	徳島 5.2	高知 3.0	福井・高知・長崎 3.7

種別	ポピュラー・歌謡曲の鑑賞	演芸鑑賞	書道	華道	茶道
上位5県	北海道 15.1%	大阪 3.1%	奈良 7.2%	奈良 9.8%	富山 5.0%
	東京 14.5	京都 3.0	島根 7.2	香川 9.5	石川 4.6
	神奈川 14.2	奈良 3.0	長野 7.1	鳥取 9.4	奈良 4.5
	宮城 13.5	東京 2.7	兵庫 6.7	広島 9.2	鳥取 4.5
	京都 13.5	神奈川・愛知・滋賀 2.5	群馬 6.6	島根 9.1	香川 4.5
下位5県	島根 8.5%	高知 0.9%	高知 3.3%	沖縄 3.4%	沖縄 0.8%
	徳島 8.8	山口 1.1	沖縄 3.9	東京 4.9	栃木 1.4
	長崎 8.9	茨城 1.2	青森 4.1	青森 5.0	福島 1.7
	大分 8.9	長崎 1.2	鳥取 4.5	茨城 5.0	宮崎 1.7
	沖縄 9.2	福島・愛媛 1.3	石川 4.6	栃木・埼玉 5.1	鹿児島 1.7

種別	囲碁	将棋	民謡	読書	カラオケ
上位5県	山口 4.9%	神奈川 10.1%	沖縄 3.9%	東京 53.8%	埼玉 28.3%
	富山 4.7	埼玉 9.6	富山 3.7	神奈川 52.7	山梨 28.3
	沖縄 4.5	兵庫 9.1	宮城 3.4	奈良 48.1	群馬 28.2
	神奈川 4.3	千葉 8.9	山形 3.3	京都 47.4	神奈川 27.9
	鳥取 4.3	京都 8.9	福島 3.3	大阪 47.2	大阪 26.4
下位5県	青森 2.1%	沖縄 4.5%	香川 0.9%	長崎 32.9%	高知 18.1%
	山形 2.3	栃木 5.9	高知 0.9	青森 33.3	山口 19.1
	高知 2.6	青森 6.0	滋賀 1.0	秋田 33.8	秋田 19.2
	茨城 2.7	長崎 6.0	和歌山 1.0	沖縄 33.8	青森 19.4
	滋賀 2.7	山梨・岐阜 6.3	山口 1.0	山形 34.8	長崎 19.8

(資料) 総務庁「社会生活基本調査報告」昭和61年

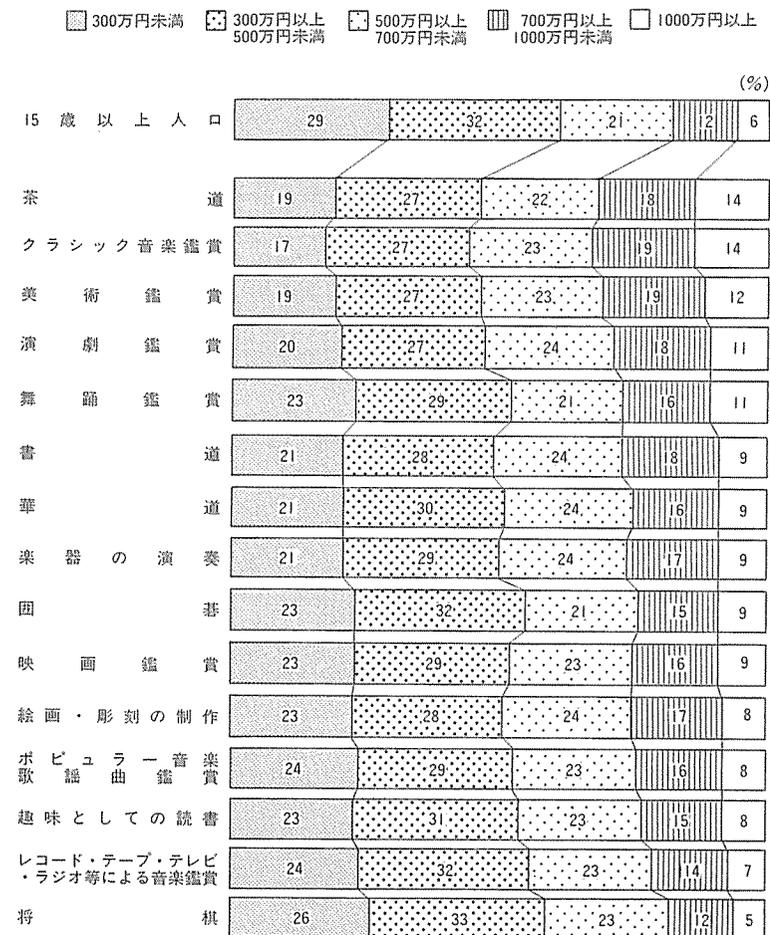
⑤ 文化活動別、男女別構成比



(資料) 総務庁「社会生活基本調査報告」昭和61年

Ⅳ 国民の文化活動

⑥ 文化活動をした者の1世帯収入額の構成比



(資料) 総務庁「社会生活基本調査報告」昭和61年

国民の文化活動

③ 教養娯楽関係費

＊ 国民の文化活動の活発化を反映して、文化活動に係る国民の支出も増大している。

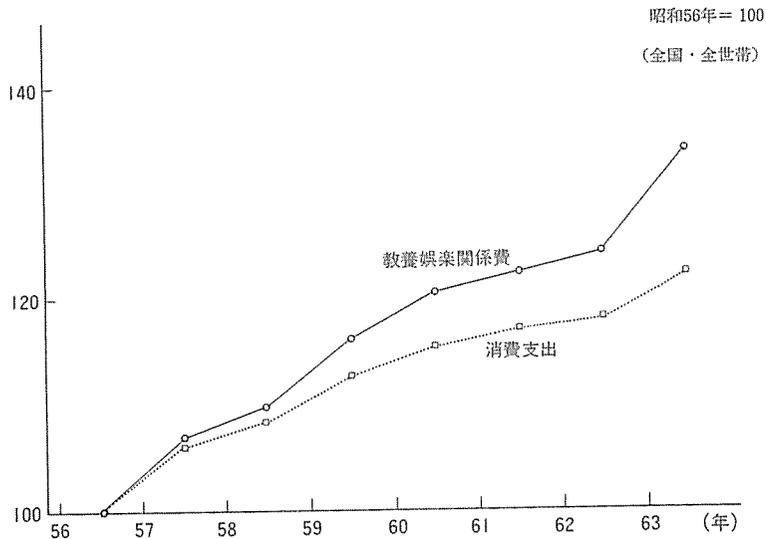
総務庁の調査によると、文化活動を含む「教養娯楽関係費」は大幅な増加傾向を示しており、ここ数年間の1世帯当たりの教養娯楽関係費の伸び率は消費支出全体の伸び率を上回っている(①)。

その結果、昭和63年度において1世帯当たりの教養娯楽関係費は約37万7千円で、消費支出全体の約11%を占めるに至っている。その内訳を見ると、「旅行」に要する支出が最も多く、次いで「読書」「耐久財」「月謝」「スポーツ」「会費・つきあい費」「聴視・観覧」などの順となっている(②)。

教養娯楽関係費の伸び率を項目別に比較してみると、「スポーツ」に係る支出の伸び率が最も高く、次いで「旅行」「耐久財」「聴視・観覧」などの順となっている。逆に「読書」に係る支出はあまり変化がない(③)。

また、日本銀行の調査によれば、各国の「教養娯楽費」の支出割合を比較してみると、日本は西ドイツと並んで他の諸国よりもその割合が高くなっているが、これは日本のレジャー関係の相対価格が他の国よりも高いことが一因であると考えられている(④)。

① 教養娯楽関係費指数の推移



② 教養娯楽関係費の内訳

(全国・全世帯 昭和63年)

項目	年間支出額(円)	備考
消費支出	3,493,464	
教養娯楽関係費	377,453	
耐久財	46,331	ステレオ 2,627 テープレコーダー 1,918 カメラ・同付属品 4,901 ピアノ 2,191 その他の楽器 2,791 ビデオテープレコーダー 5,869
読書	47,194	新聞 28,820 雑誌 3,283 週刊誌 535 書籍 11,257
聴視・視覧	14,063	映画・演劇等入場料 3,299 文化施設入場料 1,556
旅行	115,670	
スポーツ	27,467	
月謝	37,830	教育的月謝 9,976 教養的月謝 16,246
会費・つきあい費	18,945	
他の教養娯楽	69,952	レコード 730 テープ(録音済) 1,874

耐久財…室内装飾品, ラジオ, テレビ, ステレオ, テープレコーダー, カメラ・同付属品, ピアノ, 他の楽器, 子供用乗物用具, ビデオテープレコーダー, パソコン・ワープロ, 他の教養娯楽用耐久財

読書…書籍・他の印刷物

聴視・視覧…受信料, 映画・演劇等入場料, 文化施設入場料

旅行…電車汽車賃, バス代, 航空運賃, 宿泊料, バック旅行費, 旅行かばん

スポーツ…運動用具類, スポーツ視覧・ゲーム代

月謝…教育的月謝, 教養的月謝, スポーツ月謝, 家事月謝, 他の月謝類

会費・つきあい費…諸会費, つきあい費

他の教養娯楽…教養娯楽用耐久財修理代, がん具, フィルム, レコード, テープ(収録されていないもの), テープ(収録されているもの), 切花, 愛がん動物・園芸用品, 手芸材料, 他の教養娯楽用品, 教養娯楽用品修理代, 他の入場・ゲーム代, 現像焼付代, 複写機使用料, 教養娯楽賃借料, 他の教養娯楽サービスのその他

(資料) 総務庁「家計調査年報」昭和63年

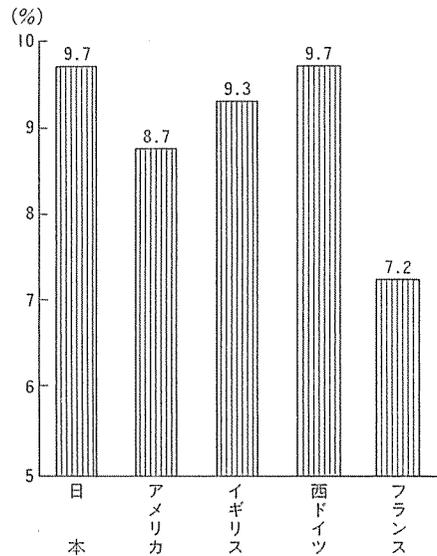
③ 項目別にみた教養娯楽関係費指数の推移

(昭和56年=100 全国・全世帯)

	56年	57年	58年	59年	60年	61年	62年	63年
教養娯楽関係費	100	107	110	116	120	122	124	134
耐久財	100	108	112	119	123	119	131	144
読書	100	102	100	102	99	102	105	106
聴視・視覚	100	103	107	120	127	124	127	132
旅行	100	107	108	120	125	128	129	145
スポーツ	100	116	124	129	139	139	140	154
月謝	100	106	111	112	117	116	110	117
会費・つきあい費	100	111	119	122	129	132	108	115
他の教養娯楽	100	108	111	114	121	125	136	143

(資料) 総務庁「家計調査年報」昭和63年

④ 各国の教養娯楽費の支出割合



(注) 日本の支出割合が大きいのは、レジャー関係の価格が高いことも一因となっている。

(資料) 日本銀行「国際比較統計」

④ 国民の文化活動の振興

＊ 近年、国民の間には心の豊かさを求めて、優れた芸術を鑑賞するだけでなく、自ら文化活動に参加し、実践する気運が盛り上がりつつある。

文化庁としてもこのような状況に対応するため、様々な施策を実施している。

国民文化祭は、全国各地で行われている、各種の文化活動を全国的な規模で一堂に会し、相互に競演、交流することにより、一層の文化活動の進展を図ろうとすることを狙いとされた新しい形の国民の祭典である。

昭和61年に第1回国民文化祭が東京で開かれて以来、年1回各県持ち回りの形で、開催されてきた。その規模、内容も、開催地の特色を生かしつつ年々充実され、平成元年度の埼玉の文化祭では、35種目の公演、シンポジウム等が行われ、参加者は全都道府県から722団体、15,960人であり、観客は46万5千人に達している。

開催地は、開催年度の5年前に内定され、開催にあたっては、文化庁と関係地方公共団体、文化団体等が協力して行うこととされている(①)。

＊ 全国高等学校総合文化祭は次代を担う高校生の芸術文化活動の振興に資するための全都道府県代表の高校生による芸術文化活動の発表の場である。

昭和52年に千葉県で第1回文化祭が開かれて以来、毎年1回、各県持ち回りの形で開催されてきた。その規模、内容とも年々充実され、平成元年度の岡山の文化祭では、13種目の公演、展示会等が行われ、出演校数1,391校、参加人員13,122人、鑑賞者数50,950人に達している。

文化祭は全国高等学校文化連盟、文化庁、関係地方公共団体等が協力して実施することとされている(②)。

＊ 芸術鑑賞の面では、地域によっては、優れた芸術に接する機会の少ないことを考慮して、文化庁では、オーケストラ、オペラ、バレエ、歌舞伎等の優れた舞台芸術を地域に巡回する移動芸術祭を実施している。

また、次代を担う青少年の情操教育のため、青少年芸術劇場、中学校芸術鑑賞教室、こども芸術劇場を実施している(③)。

① 国民文化祭

(ア) 国民文化祭の概要

1. 国民文化祭とは

全国各地で国民一般の行っている各種の文化活動を全国的な規模で一堂に会し、相互に競演、交流、発表することにより、国民の文化活動への参加の気運を高め、新しい芸術文化の創造を促すことを狙いとした新しい形の国民の祭典である。

各県持ち回りで、昭和61年度から文化庁、開催地都道府県、開催地関係市町村等の共催で開催している。

また、全国各地において、地方公共団体、文化団体等が行う文化事業で国民文化祭の趣旨に合致し、その目的に沿った事業を国民文化祭協賛事業として実施する。

2. 主催事業の内容

○総合フェスティバル

オープニング・パレード、開会式、閉会式等

内容は、アマチュア文化活動の新たな発展の方向性を示すものとする

○シンポジウム

講演、パネルディスカッション等

テーマは、アマチュア文化活動、地域文化活動等を含めた日本文化の動向について、広く国民の関心を喚起するとともに、その振興の在り方を探るものとする

○分野別フェスティバル

民俗芸能、民謡、オーケストラ、合唱、吹奏楽、演劇、文芸、美術、舞踊、邦楽、生活文化等の分野ごとに、都道府県から推薦された団体等を中心として行う公演、展覧会等

3. 開催実績及び開催県の内定状況

- 昭和61年度（第1回） 東京都（61.11.22～12.1開催）
- 62年度（第2回） 熊本県（62.10.2～10.11開催）
- 63年度（第3回） 兵庫県（63.10.22～11.3開催）
- 平成元年度（第4回） 埼玉県（1.11.2～11.12開催）
- 2年度（第5回） 愛媛県（2.10.19～10.28開催予定）
- 3年度（第6回） 千葉県（3.11.16～11.25開催予定）
- 4年度（第7回） 石川県（未定）
- 5年度（第8回） 岩手県（未定）
- 6年度（第9回） 三重県（未定）

4. 国民文化祭開催までの事務の流れ

時 期	内 容	摘 要
開催年の 5年前以 前	・国民文化祭の招致について文化庁に説明を行う 企画書の提出 事業計画書の提出 開催申請書の提出	文化庁は、開催を希望する都道府県の開催計画等を勘案のうえ概ね開催希望年の5年前の4月頃、開催県を内定する
5年前	・国民文化祭開催内定 ・国民文化祭準備検討委員会設置 ・県内文化施設等調査	
4年前	・都道府県基本構想策定委員会の設置 ・基本構想の素案策定（5月）*—中間報告	*（議事にかかる順序） 都道府県事業別委員会 ↓ 都部門別委員会 ↓ 県実行委員会 ↓ 国企画委員会 ↓ 国実行委員会
3年前	・基本構想決定（5月） ・国企画委員会、実行委員会において基本構想を報告（5月）	
2年前	・開催場所・実施種目・開催日程等を協議のうえ実施計画大綱を策定（5月）* ・事業別実施計画の策定（11月）*	
前 年	・募集要項の作成（5月）* ・事業別ポスターの作成等PRの実施 ・出演団体の推薦依頼 ・出演団体の決定（11月）*	
開催年	・国民文化祭開催 ・結果報告（11月）* ・報告書作成	

M 国民の文化活動

(イ) 国民文化祭実施概要

	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回
年 月 日 (会期)	61.11.22~12.1 (10)	62.10.2~10.11 (10)	63.10.22~11.3 (13)	元年11.2~11.12 (11)
開 催 地	東京都(5区)	熊本県(8市)	兵庫県(17市町)	埼玉県(21市町村)
会 場	9会場	18会場	37会場	41会場
実施事業数	12事業	21事業	43事業	35事業
参加人数	31都道府県	38都道府県	47都道府県	47都道府県
出演団体数	153団体	305団体	711団体	722団体
県外	84	164	344	343
県内	69	141	367	359
出演者数	6,438人	8,180人	14,107人	15,960人
県外	2,828	2,119	5,906	4,363
県内	3,610	6,061	8,201	11,597
応募者数	9,800点	6,954点	14,919点	19,466点
県外		4,624	8,929	7,656
県内		2,330	5,990	441
(短俳川美等)				
観 客 数 (パレード、 展示含む)	46,750人	205,780人	434,249人	464,514人
協 賛 事 業 実 施 県 数	19都道府県	17都道府県	16都道府県	15都道府県
協 賛 事 業 数	145事業	181事業	372事業	202事業
県外	128	69	138	23
県内	17	112	234	179

今後の開催年次計画

- 第 5 回(平成 2 年度) ……愛媛県
- 第 6 回(平成 3 年度) ……千葉県
- 第 7 回(平成 4 年度) ……石川県
- 第 8 回(平成 5 年度) ……岩手県
- 第 9 回(平成 6 年度) ……三重県

(ウ) 第 4 回国民文化祭さいたま89事業一覧

●主催事業 合計35

(平成元年11月12日)

事 業 名	日数	事 業 名	日数	
オープニングパレード	1	全国落語競演会	1	
開会式・総合フェスティバル	1	全国祭りばやし	1	
閉会式・グランドフィナーレ	1	邦楽・邦舞 さきたまの祭典	2	
文化フォーラム「道と文化」	1	吟詠剣詩舞道祭	1	
サラリーマン文化シンポジウム	1	埼玉国際舞踊祭89	埼玉会館 1	
まんがシンポジウム	1		熊谷会館 1	
国際食文化シンポジウム	1	さいたま大舞踏会	1	
全国絵画展	7	89 Jazz Dance Festival	1	
彫刻プロムナード	11	文芸大会	1	
全国書道展	7	日本の詩全国コンクール	1	
全国写真展	6	全国児童文学祭	1	
合唱・吹奏楽祭	1	SAITAMA 映像フェスティバル	2	
オーケストラ音楽祭	1	さいたま大茶会	稲荷山公園 1	
日本民謡フェスティバル	1		喜多院 1	
全国ヤング・ミュージック・フェスティバル	1	さいたま・盆栽大フェア	7	
現代童謡祭	1	生活文化フェスティバル	6	
オペラ名曲コンサート	1	創作ファッションショー	1	
さきたま演劇祭	民話劇	1	まんがフェスティバル	3
	人形劇	1	アバンギャルド・ベージェント	2
	現代劇	1		

●記念事業 合計 3

事 業 名	日数	事 業 名	日数
ふれあいコンサート	2	秩父舞台囃子大集合	1
さきたま郷土芸能大会	2		

② 全国高等学校総合文化祭

(7) 概要

全国高等学校総合文化祭は、芸術文化の振興に資するため、全国都道府県代表の高等学校に相互の交流を深めることを目的として、昭和52年度から発足したもので、平成2年度で第13回は定着するとともに、新しい分野も活発な展開を見せている。

回数	年	開催県	期 日	参加校数 参加人員数 (観覧を含む)	テ ー マ
第 1 回	52	千葉県	7月31日 ～8月3日 (4日間)	93校 9,000人	—
第 2 回	53	兵庫県	8月2日 ～8月8日 (7日間)	475 20,450	—
第 3 回	54	大分県	8月1日 ～8月7日 (7日間)	494 33,588	友愛、質朴、 清楚
第 4 回	55	石川県	8月5日 ～8月10日 (6日間)	597 30,773	清纯、友愛、 創造
第 5 回	56	秋田県	7月29日 ～8月2日 (5日間)	527 35,553	明朗、友愛、 向上
第 6 回	57	栃木県	7月29日 ～8月3日 (6日間)	653 55,070	つくる喜び ふれあう心 ひろがる未来
第 7 回	58	山口県	8月2日 ～8月4日 (3日間)	654 44,126	友情 創造 かがやけ青春
第 8 回	59	岐阜県	7月31日 ～8月3日 (4日間)	909 73,558	かたろう友情 つくろう文化 ひらこう未来
第 9 回	60	岩手県	8月2日 ～8月7日 (6日間)	756 49,272	創造—いまここ に青春のあかし を
第 10 回	61	大阪府	8月5日 ～8月8日 (4日間)	1,129 71,729	全国から大阪へ —そして未来へ
第 11 回	62	愛知県	8月4日 ～8月7日 (4日間)	1,399 75,963	今、愛知につど う創造の心
第 12 回	63	熊本県	8月3日 ～8月7日 (5日間)	1,081 91,588	熊本で 未来へ放とう 文化の矢
第 13 回	元	岡山県	8月2日 ～8月8日 (7日間)	1,391 50,590	創造のかけ橋 岡山から未来へ

今後の開催年次計画

第14回(平成2年度)……山梨県  
第15回(平成3年度)……香川県

第16回(平成4年度)……沖縄県  
第17回(平成5年度)……埼玉県

校生徒による芸術文化活動の発表を総合的に開催し、創造文化活動の向上を図るととも  
14回を迎える。この間、高等学校総合文化祭は年々充実し、当初12種目でスタートした

部	門
6種目	(演劇,合唱,吹奏楽,邦楽,マーチングバンド・バトントワリング,吟詠)
8種目	(演劇,合唱,吹奏楽,邦楽,マーチングバンド・バトントワリング,吟詠, 美術工芸,書道)
8種目	(演劇,合唱,吹奏楽,邦楽,マーチングバンド・バトントワリング,吟詠, 美術工芸,書道)
9種目	(演劇,合唱,吹奏楽,邦楽,マーチングバンド・バトントワリング,吟詠, 美術工芸,書道,写真)
10種目	(演劇,合唱,吹奏楽・管弦楽,邦楽,郷土芸能,マーチングバンド・バト ントワリング,吟詠,美術工芸,書道,写真)
10種目	(演劇,合唱,吹奏楽,管弦楽,邦楽,郷土芸能,マーチングバンド・バト ントワリング,吟詠,剣詩舞,美術工芸,書道,写真)
9種目	(演劇,合唱,吹奏楽・管弦楽,邦楽,マーチングバンド・バトントワリ ング,吟詠,剣詩舞,美術工芸,書道,写真)
9種目	(演劇,合唱,吹奏楽・管弦楽,邦楽,マーチングバンド・バトントワリ ング,吟詠,剣詩舞,美術工芸,書道,写真)
11種目	(演劇,合唱,吹奏楽・管弦楽,邦楽,郷土芸能,マーチングバンド・バト ントワリング,吟詠,剣詩舞,美術工芸,書道,写真,文芸)
11種目	(演劇,合唱,吹奏楽,器楽・管弦楽,邦楽,マーチングバンド・バトント ワリング,吟詠,剣詩舞,美術・工芸,書道,写真,映像)
12種目	(演劇,合唱,吹奏楽,器楽・管弦楽,邦楽,マーチングバンド・バトント ワリング,吟詠,剣詩舞,美術・工芸,書道,写真,郷土芸能,放送文化)
12種目	(演劇,合唱,吹奏楽,器楽・管弦楽,邦楽,マーチングバンド・バトント ワリング,吟詠,剣詩舞,美術・工芸,書道,写真,郷土芸能,放送文化)
13種目	(演劇,合唱,吹奏楽,器楽・管弦楽,日本音楽,マーチングバンド・バ トントワリング,吟詠,剣詩舞,美術・工芸,書道,写真,郷土芸能,放送文化, ダンス)

(イ) 第13回岡山大会概況

(平成元年 8月)

開催部門	出演・出品数 全国(岡山県)	生徒係員数 教職員等係員数	観覧者数
総合開會式 8/2 岡山市民会館	91校(50校) 869人(759人)	113人 105人	2454
バレー 8/2 県庁通り約1.3m	47校(15校) 1,875人(808人)	258人 115人	中止
合唱 8/3 岡山市民会館	53校(19校) 1,941人(479人)	147人 31人	3069
吹奏楽 8/3 倉敷市民会館	75校(42校) 2,249人(412人)	371人 51人	4000
器楽・管弦楽 8/6 津山文化センター	59校(24校) 1,100人(228人)	124人 54人	2175
マーチングバンド・バトントワリング 8/3 岡山市総合文化体育館	44校(8校) 1,631人(352人)	126人 62人	4966
日本音楽 8/5 岡山市民会館	76校(13校) 724人(68人)	54人 58人	1727
吟詠 剣詩舞 8/4 岡山市立市民文化ホール	101校(25校) 410人(56人)	84人 24人	1178
演劇 8/6~8 倉敷市民会館	11校(3校) 423人(43人)	178人 85人	2610

部門の内容(概略)
第一部は式典・三県交流・海外交流(韓国・現代高校)などをスマートに展開。第二部はダンス・合唱・演劇・郷土芸能・オーケストラ・映像を総合して「飛翔」への憧れをステージ・ボニムとして熱演。アンコールの拍手が鳴り止まなかった。TV中継も好評。
台風12号の余波による雨のため、8月2日午前9時20分中止を決定。出場校の大半と全係員は持場につき、多くの観客も心待ちしていたため、決定予定時刻から2時間以上も天候の回復を待ったが、雨の止む気配もなく、涙をのんで中止した。
各校が演奏時間8分以内で美しい旋律とハーモニーを披露。岡山県からは、この大会のために編成された225名の混声合唱と174名の女声合唱、80名の女声合唱が出演。フィナーレでは次々に手を組み肩を組んだ感動の大合唱が1時間余り続いた。
前日の交流会に参加した2000名の盛り上がり、そのまま当日の発表につながり、バンドカラーの魅力も存分に発揮され、つめかけた観客も十分に堪能。フィナーレでは就実高校が本大会委嘱作品「下津井節変奏曲」を演奏、満員の会場は感動で包まれた。
ギター・マンドリン、管弦楽、ハンドベルなどの水準の高い演奏と迫力あるステージが満員の聴衆を魅了した。岡山からの、この大会のために編成された選抜オーケストラや清心女子、作陽、岡山城東の演奏も絶賛の拍手をあげた。
ダイナミックなサウンドと軽やかなリズム・華やかな演技で観客の目と耳を魅了した。特に1600本のペンライトの揺れる大合唱による閉会式、1300人による前夜の交流会など、数々の演出と係員の努力が全国から集まった参加者に感銘を与えた。
1団体7~8分、箏曲中心ながら古典から現代曲までの幅広いプログラム。岡山県からの管・弦・打の全パート和楽器による邦楽アンサンブルの他、今大会初登場の奈良県・天理高校の雅楽「蘭陵王」などが多くの観客の耳目をあつめた。
吟詠・詩舞・剣舞・構成吟などにすばらしい喉と鮮やかな舞を披露。岡山からはフィナーレを飾る構成吟「岡山県中世人物風土記」を40分にわたり力強く演じ好評を博した。会場は、高校生からお年寄りまで幅広い層の観客に恵まれ大盛況のうちに閉幕した。
全国二千数百校から選ばれた9ブロック代表11校が高校演劇日本一をかけて競演し、中部日本代表の椋山女学園高校が文部大臣賞を獲得。専門家による講習会、劇作家の別役実氏による記念講演、700人の大合唱がわきあがる交流会も大会を盛り上げた。

開催部門	出演・出品数 全国（岡山県）	生徒係員数 教職員等係員数	観覧者数
郷土芸能 8/4 津山文化センター	19校（8校） 302人（127人）	108人 55人	1707
美術・工芸 8/2～6 岡山県立美術館	257校（49校） 476点（246点）	71人 31人	4532
書道 8/2～6 県総合文化センター	202校（54校） 383点（232点）	129人 50人	3846
写真 8/2～6 倉敷市立美術館	201校（31校） 271点（76点）	108人 29人	2050
放送文化 8/5・6 三木記念ホール	132校（17校） 174点（28点）	67人 40人	2070
ダンス 8/6 岡山市立市民文化ホール	23校（20校） 284人（259人）	57人 28人	1084
合計	1,391校（376校） 13,122人（4,173人）	2,057人 848人	37468

- (注) 1 「出演・出品数」欄の（ ）内の数は、内数。  
 2 参加校数は、延べ校数。実参加校数は、393校（内、岡山県96校）  
 3 係員数は、実数。なお、救護係は各部門の集計に含むが、総合案内所係の教職員30人と  
 4 総合開会式の観覧者数は、前日の公開リハーサルの観客を含む。

部門の内容（概略）
大鼓・神楽・民謡踊り・人形浄瑠璃・「横仙歌舞伎」などの郷土芸能・伝統芸能を北は岩手から南は沖縄までの高校生が演じ、幅広い年齢層でうまった客席は拍手でつつまれ、終了後の会場前広場の「ハイヤ節」の踊りの輪に引き継がれる盛会ぶりだった。
絵画・デザイン・彫刻・工芸など476点を、従来とは異なりジャンル別・傾向別に展示。岡山からの42枚による共同制作の巨大壁画も好評。京都国立近代美術館長小倉忠夫先生の講演「美術と人生」もホールを埋め尽くした聴衆に深い感銘を与えた。
383点の作品を展示。岡山県からは、「生活に生きる書」として、扇子・団扇なども出品。浅野貞雄先生の説得力に富んだ講評やグループ別に「部活動のあるべき姿」などの熱心な討議を行った交流会も内容も濃いもので、超満員の会場に感動が広がった。
若い視点がとらえた271点を展示。撮影会は、倉敷・美観地区と高校生の演じる「備中神楽」を被写体に中村昭夫先生などの指導のもと、400名が参加。英伸三先生の講演「写真部活動のあり方」も満席の会場に発見と共感の渦を巻き起こした。
アナウンス・郷土ゆかりの作家の作品の朗読・映像の便りビデオレター・ビデオ作品の技術的にもハイレベルの発表が満員の会場で行われた。交流会の「お国自慢を方言で」に大いに沸き、岡山盲学校の朗読発表が奨励賞に輝いたのも特筆すべきことである。
全国高校総合文化祭では、協賛種目として初登場。舞台いっぱい、各校独自のテーマを追求した創作ダンスが20ステージ繰り広げられた。他県では体育系の活動となっているため県外からの参加は少なかったが、今後の発展に大きな一石を投じた。
アイディアの斬新さ、手作り主義、観覧者の多さ、きめ細やかな運営、広報活動の充実、デザイン委員会の活躍、参加候補校制度により取り組んだ岡山からの発表の完成度の高き等が評価された。大会期間中の宿泊者数は、岡山7382人、倉敷5119人、津山1455人。

生徒61人は各部門の集計には含めず、合計欄のみに追加した。

③ 巡回公演

(7) 事業概要 (昭和63年度実績)

(1) こども芸術劇場

こども(10歳~13歳)の豊かな情操の涵養と健全な成長に資することを目的として、昭和49年度から実施

予 算 額 144,197 千円  
 公演回数 50回  
 公演種目 オーケストラ, 音楽劇, バレエ, 児童劇, 合唱 計5種目

(2) 青少年芸術劇場

青少年(14歳~19歳)の健全な育成と地域芸術文化活動の推進を図ることを目的として、昭和42年度から実施

予 算 額 262,584 千円  
 公演回数 51回  
 公演種目 オペラ, 新劇, 能楽, 文楽, オーケストラ, バレエ, 歌舞伎, 邦楽・邦舞, 寄席芸能 計9種目

(3) 中学校芸術鑑賞教室

中学生に対し優れた芸術を鑑賞する機会を確保し、豊かな創造性、情操の涵養に資するとともに、その芸術文化活動に充実向上を図ることを目的として、昭和59年度から実施

予 算 額 147,367 千円  
 公演回数 58回  
 公演種目 合唱, オーケストラ, ミュージカル, 演劇, 邦楽・邦舞, 文楽 計6種目

(4) 移動芸術祭

地域に質の高い舞台芸術鑑賞の機会を提供することにより、芸術の普及と向上を図り、芸術文化の調和ある発展に寄与することを目的として、昭和39年度から実施

予 算 額 328,627 千円  
 公演回数 143回  
 公演種目 文楽, 歌舞伎, 新劇, オーケストラ, 邦楽・邦舞, オペラ, バレエ, 能楽, モダンダンス, ミュージカル, 寄席芸能 計11種目

(参考: 4事業合計)

予 算 額 882,775 千円  
 公演回数 302回  
 公演種目 31種目

(イ) 事業実績

1 公演種目 (平成元年度)

- |             |            |             |             |
|-------------|------------|-------------|-------------|
| (移動芸術祭)     | (こども芸術劇場)  | (青少年芸術劇場)   | (中学校芸術鑑賞教室) |
| (1)能 楽      | (1) オーケストラ | (1) オペラ     | (1) 合唱      |
| (2)文 楽      | (2) 音楽劇    | (2) 新 劇     | (2) オーケストラ  |
| (3)歌 舞 伎    | (3) バレエ    | (3) 能 楽     | (3) ミュージカル  |
| (4)新 劇      | (4) 児童劇    | (4) 文 楽     | (4) 演 劇     |
| (5)オーケストラ   | (5) 合 唱    | (5) オーケストラ  | (5) 邦楽・邦舞   |
| (6)オ ペ ラ    |            | (6) バレエ     | (6) 文 楽     |
| (7)邦 舞      |            | (7) 歌 舞 伎   |             |
| (8)バ レ エ    |            | (8) 邦楽・邦舞   |             |
| (9)モダンダンス   |            | (9) 寄 席 芸 能 |             |
| (10)ミュージカル  |            |             |             |
| (11)寄 席 芸 能 |            |             |             |

2 巡回公演実績 (過去4年間)

区分	年度	60	61	62	63
移動芸術祭		15団体 150公演	15団体 151公演	15団体 144公演	15団体 143公演
こども芸術劇場		5団体 64公演	6団体 58公演	5団体 56公演	6団体 50公演
青少年芸術劇場		12団体 63公演	12団体 60公演	11団体 56公演	9団体 51公演
中学校芸術鑑賞教室		6団体 30公演	8団体 44公演	6団体 46公演	7団体 58公演

3 昭和63年度巡回公演事業観客数調

- (1) 移動芸術祭巡回事業 104,089人 (1公演当たり728人)  
 (2) こども芸術劇場 47,535人 (1公演当たり951人)  
 (3) 青少年芸術劇場 48,447人 (1公演当たり950人)  
 (4) 中学校芸術鑑賞教室 55,145人 (1公演当たり951人)

4 事業にかかる観客総数

255,216人 (1公演当たり845人)  
 (31種目 37団体 302公演)

(ウ) 制作団体等一覧

(a) 移動芸術祭・同巡回公演（春季公演）制作団体

(平成元年度)

種 目	制 作 団 体 名	演 目	摘 要
新 劇	(財) 現代演劇協会	「セールスマンの死」 作 : アーサー・ミラー 翻訳 : 沼澤浩治	公演 劇団 品 スタッフ 16名 キャスト 14名
オーケストラ	(財) 東京フィルハーモニー交響楽団	ロッシェニ: 「どろぼうかささぎ」序曲 ベートーベン: ピアノ協奏曲第5番 変ホ長調「皇帝」 ベートーベン: 交響曲第2番ニ長調	指揮 尾高忠明 ピアノ 花房晴美 スタッフ 5名
	(財) 東京交響楽団	モーツァルト: 歌劇「フィガロの結婚」序曲 ラロ: スペイン交響曲 ベートーベン: 交響曲第6番ヘ長調「田園」	指揮 秋山和慶 バイオリン 前橋汀子 演奏者 74名 スタッフ 6名

(b) 移動芸術祭・同巡回公演（秋季公演）制作団体

(平成元年度)

種 目	制 作 団 体 名	演 目	摘 要
能 楽	(財) 能楽協会	能 (親世流) 「羽衣-和合之舞」 狂言 (大藏流) 「萩大名」	出演者 26名 スタッフ 4名
文 楽	(財) 文楽協会	傾城反魂香 土佐将監閑居の段 新版歌祭文 野崎村の段	人形浄瑠璃 文楽座 出演者 33名 スタッフ 17名
歌 舞 伎	松竹株式会社		松竹大歌舞伎 出演者 松本幸四郎他 55名 スタッフ 27名
新 劇	(財) 文学座	「愛と偶然の戯れ」 作 マリポー 訳 鷗山 仁	スタッフ 20名 キャスト 7名
オーケストラ	(財) 読売日本交響楽団	グリーンカ: 歌劇「ルスランと リュドミーラ」序曲 グリーグ: ピアノ協奏曲イ短調 チャイコフスキー: 交響曲第5番ホ短調	指揮 外山雄三 ピアノ 伊藤 恵 演奏者 81名 スタッフ 5名
	大阪フィルハーモニー交響楽団	ロッシェニ: 歌劇「絹のはしご」 序曲 メンデルスゾーン: バイオリン協奏曲作品64 チャイコフスキー: 交響曲第6番「悲愴」	指揮 手塚幸紀 バイオリン 千住真理子 演奏者 85名 スタッフ 5名

種 目	制 作 団 体 名	演 目	摘 要
オ ペ ラ	(財) 二期会オペラ振興会	オペラ「カルメン」全4幕 作曲 ビゼー 訳詞 宗近 昭 補筆 村田健司	指揮 佐藤功太郎 演出 栗山昌良 管弦楽 東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団 関西フィルハーモニー管弦楽団 合唱 二期会合唱団 バレエ(スペイン舞踊) スタッフ 140名 キャスト 10名
邦 舞	(財) 日本舞踊協会	長唄「都風流」 長唄「二人枕久」 地唄「珠取海女」 長唄「五月雨」 長唄「俄獅子」	出演者 24名 スタッフ 26名
バ レ エ	(財) 日本舞台芸術振興会	チャイコフスキー: 「くるみ割り人形」全幕 (ワシリー・ワイノノン版)	チャイコフスキー記念 東京バレエ団 指揮 ミッシェル・ケバル 演奏 東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団 スタッフ 85名 キャスト 60名
モダンダンス	(財) 現代舞踊協会	アキコ・カンダ作品 「バルバラを踊る」(音楽: バルバラ) 小島章司作品 「ア・レ・グ・リ・ア」(フラメンコ音楽) 金井美三枝作品 「嵐が丘-恋と激と幽-」 (ロッセム及びパッハの曲使用)	スタッフ 21名 キャスト 41名
ミュージカル	(財) コマ・プロダクション	「アニーよ銃をとれ」 音楽・台詞 アーウィン・バーリン 台本 ハーバート・フォーリーズ ドロシィ・フォーリーズ 翻訳 倉橋 健 歌詞 大場公之	スタッフ 24名 キャスト 島田歌穂他35名
寄 席 芸 能	(財) 落語芸術協会	落語 桂米丸 桂文治 ものまね 江戸家猫八 奇術 松旭齋八重子・美江子 漫才 新山ひでや・えつや 他	出演者 12名 スタッフ 1名

(c) こども芸術劇場制作団体

(平成元年度)

種 目	制 作 団 体 名	演 目	摘 要
オーケストラ	(財)名古屋フィルハーモニー交響楽団	スッペ：喜歌劇「軽騎兵」序曲 ベートーベン：交響曲第5番ハ短調 （「運命」）第1楽章 グリーグ：「ペールギュント」 第8組曲 ムソルグスキー：交響詩 「禿山の一夜」 ヨハン・シュトラウス： ポルカ「狩り」・「皇帝円舞曲」 ヨーゼフ・シュトラウス： 「かじやのポルカ」	解説講師 飯守泰次郎 指揮 飯守泰次郎 演奏者 72名 スタッフ 4名
音楽劇	(財)二期会オペラ振興会	「ヘンゼルとグレーテル」 （グリム童話より）ペッチ台本 フンパーディング 作曲 田中信昭・中山裕一 共訳 栗山昌良 台詞	東京室内歌劇場 スタッフ 53名 キャスト 7名
合唱	企業組合 東京混声合唱団	〈第1部〉（世界の名曲） ヘンデル：ハレルヤ、ラッソ；山びこ パッサ：主よ人の望みの喜びよ 〈第2部〉（日本の歌） 滝廉太郎：花 山田耕筰；この道 成田為三：浜辺の歌 柴田南雄：追分節考 〈第3部〉（全員合唱） ミュラー：ゆかいに歩けば 〈第4部〉（みんなの歌） リチャード・ロジャース：エーデル ルワイス 山本直純：歌えバンバン アメリカ カ民謡：峠のわが家、線路は続く よどこまでも、佐藤真；大地讃頌	指揮：八尋和美 ピアノ：坂井和子
バレエ	牧阿佐美バレエ団	「コッペリア」(全幕)ドリーブ作曲	スタッフ 76名 キャスト 43名
児童劇	企業組合 劇団仲間	「パンピ」(森の生活の物語)2幕 原作：フェリクス・ザルテン 脚色：L. ダニエリカ 訳：大井敦雄 台本・演出：篠崎光正	スタッフ 11名 キャスト 18名

(d) 青少年芸術劇場制作団体

(平成元年度)

種 目	制 作 団 体 名	演 目	摘 要
能 楽	(財)能楽協会	能 (喜多流)「黒塚」 狂言 (大歳流)「神鳴」	派遣人員 34名
文 楽	(財)文楽協会	(解説)義太夫節について 人形について 「曾根崎心中」 近松門左衛門 作 野澤松之輔 脚色・作曲	人形浄瑠璃 文楽座 出演者 32名 スタッフ 18名
歌 舞 伎	松竹株式会社	歌舞伎のみかた 汐波 世話情浄名横橋 源氏店	出演者 市川團十郎外39名 スタッフ 25名
邦楽・邦舞	(財)日本舞踊協会	清元「三社祭」 箏曲「六段の調」 地唄「八千代獅子」 清元「手守」 清元「吉野山」	派遣人員 50名
寄席芸能	(財)落語協会	(出演者)古今亭圓菊、入船亭扇橋、 入船亭扇遊、林家小正楽、 ふじゆきえ、はなこほか	出演者 9名 スタッフ 2名
新 劇	(財)演劇集団 門	「リア王」 原作：シェイクスピア	スタッフ 14名 キャスト 22名
オペラ	(財)日本オペラ振興会	オペラ「蝶々夫人」全3幕 (字幕スーパー付き原語上演) 作曲：プッチーニ	解説講師：南条年章 スタッフ 40名 キャスト 46名 管弦楽：新皇日本交響楽団
バレエ	(財)日本バレエ協会	アダン作曲「ジゼル」全2幕	解説講師：粕谷辰雄 スタッフ 101名 キャスト 48名 演奏：東京交響楽団
オーケストラ	(財)新星日本交響楽団	リスト：交響詩「前奏曲」 グリーグ：ピアノ協奏曲イ短調 ドボルザーク：交響曲第9番 ホ短調「新世界より」	指揮：大友直人 ピアノ：迫 昭嘉 演奏者 77名 スタッフ 5名
	財札幌交響楽団	スッペ：喜歌劇「詩人と農夫」序曲 モーツァルト： オーボエ協奏曲ハ長調 外山雄三：日本民謡による管弦楽入門 チャイコフスキー： 幻想序曲「ロメオとジュリエット」	指揮 三石精一 オーボエ 岩崎弘昌 演奏者 74名 スタッフ 7名

Ⅳ 国民の文化活動

(e) 中学校芸術鑑賞教室制作団体

(平成元年度)

種 目	制 作 団 体 名	演 目	摘 要
合 唱	(財)二期会オペラ振興会	日本の名曲 〔荒城の月〕〔浜辺の歌〕など 世界の名曲 〔美しく青きドナウ〕〔アベ・マリア〕など オペラハイライト「カルメン」 声の紹介、合同演奏ほか	キャスト及びスタッフ 38名
ミュージカル	(財)劇団手織座	ミュージカルによる民話 「星になった竜のきば」	スタッフ 11名 キャスト 12名
演 劇	(財)東京演劇 アンサンブル	「走れメロス」	スタッフ 10名 キャスト 18名
オーケストラ	(財)新日本フィルハー モニー交響楽団	スッペ：喜歌劇「軽騎兵」序曲 モーツァルト： 「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」 より第一楽章 ブラームス：ハンガリア舞曲第5番 スメタナ：交響詩「わが祖国」より 「モルダウ」ほか 生徒との合同演奏など 開校校の校歌	指揮と話： 手塚幸紀 演奏者 66名 スタッフ 7名
文 楽	(財)文楽協会	(解説) 義太夫節について 三味線について 人形について 「釣女」初代鶴澤道八 作曲 模茂郡陸平 振付	人形浄瑠璃 文楽座 出演者 26名 スタッフ 12名
邦楽・邦舞	(財)日本舞踊協会	長唄「勅進頼」(演奏) 長唄「越後獅子」(舞踊) 長唄「藤娘」(舞踊) 長唄「五條橋」(舞踊) (実習と解説)長唄の楽器紹介 時代と衣装 扇子の使い方 おじぎのしかたほか	出演者 26名 スタッフ 24名

V 生活文化

生活文化とは、簡単に言えば、衣・食・住など生活に係る文化を言うと考えられている。現在、我が国社会では、着実な経済発展を背景として、技術革新、国際化、情報化の進展に加え、長寿化、自由時間の増大等大きな構造的変化が生じてきている。これらの変化は、生活様式、あるいは価値観の面でも若年層を中心に種々の変化を引き起こしてきており、新しい生活文化の創造への引きがねにもなりうるものである。また、国民の文化活動は、服飾、デザイン、食文化など幅広い範囲に及んでおり、その内容も多彩なものとなりつつある。

---

## 生活文化

### ① 余暇活動

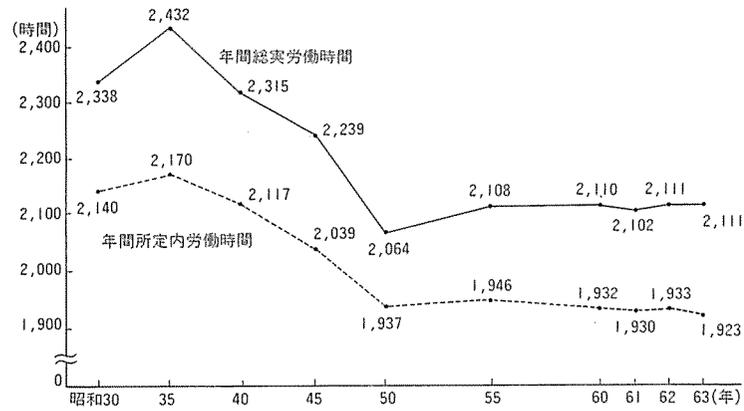
---

#### (1) 労働時間

＊ 労働者 1 人平均年間労働時間は、高度成長期には着実な減少をみたが、昭和50年代以降はほぼ2,100時間前後で推移している ((1)―①)。週休 2 日制普及率をみても同様の傾向がみられるが、昭和62年実績では約 4 分の 3 の労働者が何らかの週休 2 日制の適用を受けている ((1)―②)。我が国の労働時間を諸外国と比較してみると、年間労働時間で 200～500 時間、労働日数で 20～30 日程度我が国の方が長い ((1)―③)。経済企画庁の調査によれば、仕事とレジャーに関し、「仕事が第一」と考える者の割合は、長時間労働者の方が短時間労働者よりかなり多くなっている ((1)―④)。

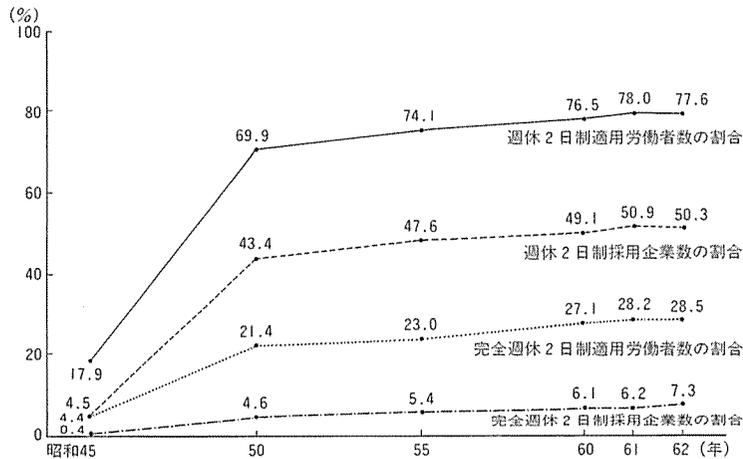
政府では、平均年間労働時間 1,800 時間程度を実現するべく、施策の充実に努めているところであるが、参議院国民生活に関する調査会においても、労働と余暇に関し、中高年勤労者余暇対策の確立、連続休暇の取得促進、特別有給休暇制度の導入等の提言を行っている ((1)―⑤)。

① 労働者1人平均年間実労働時間の推移



(注) 1 調査産業計，事業所規模30人以上。  
 2 昭和30，35，40年はサービス業を除く。  
 3 年平均月間実労働時間を12倍したものである。  
 (資料) 労働省「毎月勤労統計調査」

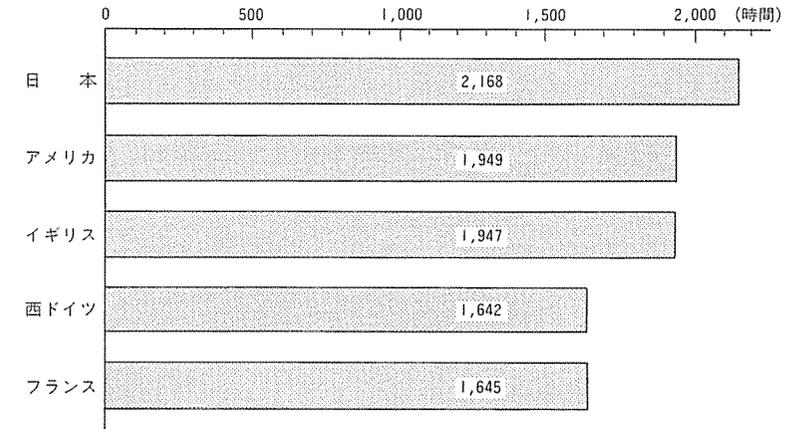
② 週休2日制普及率の推移



(注) 1 調査産業計，企業規模30人以上。  
 2 昭和58年以前は各年9月末，59年以降は各年12月末現在。  
 (資料) 労働省「賃金労働時間制度等総合調査」

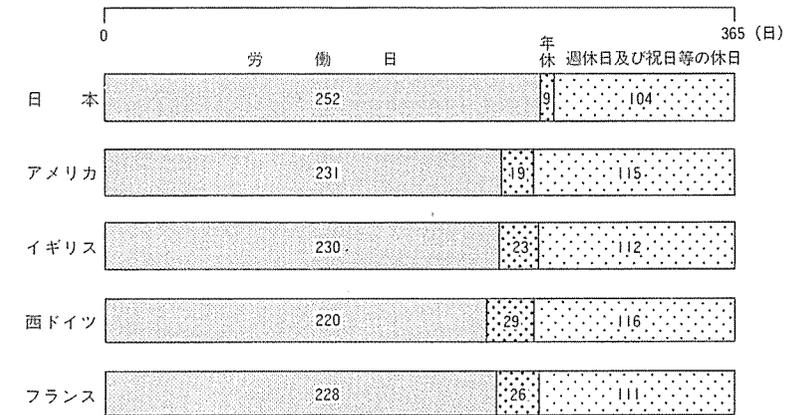
③ 労働時間等の国際比較

(7) 労働時間の国際比較



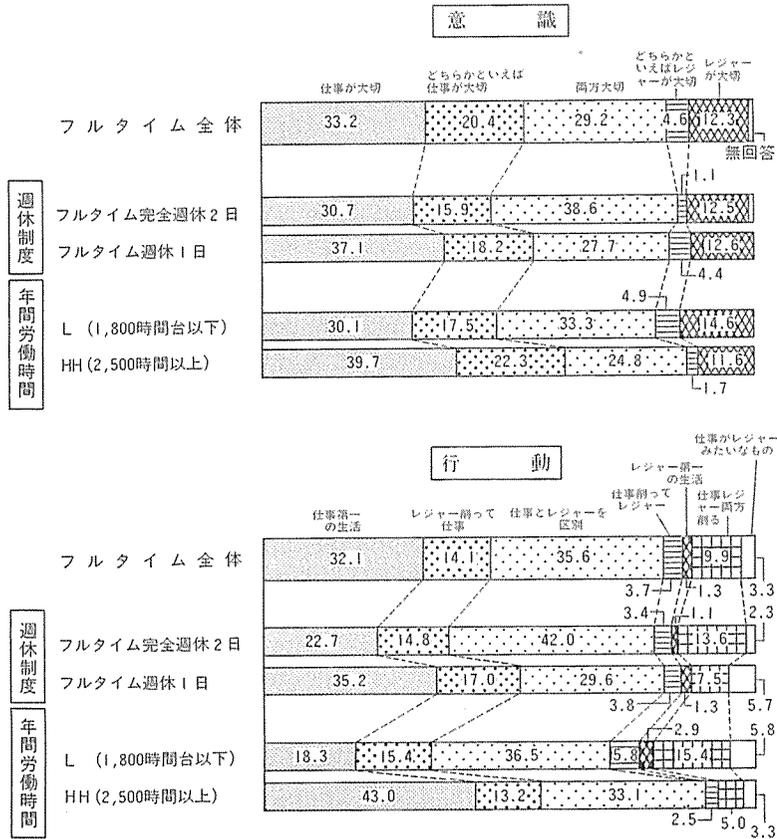
(注) 原則として製造業生産労働者についての，1987年の数字である。  
 (資料) EC及び各国資料  
 労働省労働基準局賃金時間部企画課推計による。

(i) 年間休日等の国際比較



(注) 1 原則として製造業生産労働者についての数字である。  
 2 欧米の年休は，付与日数である。  
 3 アメリカ，イギリス，西ドイツについては，完全週休2日制とした。  
 (資料) EC及び各国資料  
 労働省労働基準局賃金時間部企画課推計による。

④ 仕事とレジャーについての意識と行動



(資料) 経済企画庁「労働時間短縮がライフスタイルに及ぼす影響について」元年4月

⑤ 国民生活に関する調査報告〔抜粋〕

一労働と余暇一

平成元年六月  
参議院国民生活に関する調査会

四 提言

余暇問題は、すぐれて個人の自由裁量に属するものであるが、国を初めとする行政の役割も大きく、人々が主体的に自らの余暇を開発・創造していくことを支援することが必要である。

当調査会は、このような余暇の本質の上に立って、「労働と余暇」に関し、特に重要と思われるものについてここに提言する。

(1) 中高年勤労者余暇対策の確立

30～50歳台の中高年勤労者は、自由時間、余暇享受能力等の点で、最も余暇機会に恵まれない層である。そのため、健康促進、充実した老後生活の実現を目的とした学習機会の提供等中高年勤労者を特に対象とした余暇対策を確立し、余暇意識の高揚と、余暇活動の活発化が促進されるようにすべきである。

(2) 連続休暇の取得促進

我が国では年次有給休暇の消化率が極めて低く、労働時間短縮のためには、年次有給休暇の完全消化の定着を図ることが重要である。労働者、特に壮年層の心身両面における疲労の回復、自己啓発のための自由時間の確保、家族そろって余暇活動に親しむことによる家庭生活の充実を図っていくためには、労働者が希望する時季に年次有給休暇の一部を連続して取得できることが望ましい。このような職場環境の気運を醸成していくため、あらかじめ労働者の休暇予定を踏まえた業務計画を作成するなど、連続休暇の取得を促進するための指導を強化すべきである。

(3) 特別有給休暇制度の積極的導入

労働時間の短縮は、労働による肉体的疲労の回復のためだけでなく、労働者の社会的、文化的活動への参加を保障し、また自らの能力を啓発する機会を与え、精神的に豊かな生活を保障するための重要な方策である。このような労働者の生活の質的向上という観点からは、学習休暇制度やリフレッシュ休暇制度など勤続年数に応じた特別有給休暇制度の積極的導入が図られるべきである。

(4) 有給病気休暇の普及促進

我が国の社会においては、年次有給休暇を病気時に備えて留保しておく慣行があり、これが年次有給休暇の完全消化を妨げている面がある。このため、今後、年次有給休暇を積

## V 生活文化

極的に余暇活動に振り向けていくことができるよう、有給病気休暇の普及促進を図るべきである。

## (5) 週休2日制の導入拡充

労働時間短縮の基本となるのは完全週休二日制の確立である。特に中小企業では、経営基盤の弱さ、同業他社との競争や取引先との関係などが、週休二日制導入等の妨げとなっていることが多く、個別企業の努力だけでは労働時間短縮を進めにくい状況にある。このため、生産性向上、経営基盤の拡充がこれまで以上に図られるとともに、大企業、発注元の特別の配慮や、業界ぐるみ、地域ぐるみで一斉に労働時間短縮を進める努力が必要であり、国としても各種の支援措置を強化すべきである。

## (2) 自由時間

＊ 余暇活動の重要性については、余暇憲章等により国際的にも広く認められているところである ((2)―①)。

我が国において余暇活動の阻害要因として大きいものは、平日の自由時間の不足、費用がかかり過ぎる点であるが、何の妨げもないが余暇活動を行っていない層も多い ((2)―②)。費用の点を諸外国と比べてみると、我が国は、余暇活動が高価なものとなっている ((2)―③)。

国の自由時間充実対策関係予算の推移をみると、近年着実な伸びを示している ((2)―④)。

＊ 雇用者の生活行動時間の近年の変化をみると、余暇活動を行っている時間がかなり増えているが、男子有業者についてその内容をみると、新聞、雑誌や付き合いに費やす時間が多いのが分かる ((2)―⑤、⑥)。

自由時間の過ごし方に関し、現在やっている人が比較的少ないが、これからやりたい人が多いものとしては、海外旅行、書道、華道等のけいごと、などが挙げられている ((2)―⑦)。

また、ビジネスマンについて、自由時間が増えた場合の行いたいことは、日本人では、旅行、滞在型レジャーの希望が特に強く、次いでスポーツ、読書等、芸術鑑賞の順である。在日外国人では旅行、滞在型レジャー、スポーツ、芸術鑑賞の順となっているが、日本人ほど、旅行と芸術鑑賞の差はない。

さらに、自由になるお金が増えた場合の行いたいことは、日本人では旅行、貯蓄、リゾートマンション等、スポーツの順であり、在日外国人では、旅行、リゾートマンション等、スポーツ、芸術鑑賞の順である ((2)―⑧)。

## V 生活文化

## ① 余暇憲章〔要旨〕

1976年4月ベルギーのブリュッセルで開催された世界余暇憲章会議にて採択

## (前文)

人の活動は、社会の創造的かつ調和ある発展と人類の進歩に寄与すべきものである。

労働と余暇の関係は調和のとれたものでなければならない。このためには、余暇においても、労働においても、社会的な公平が保たれ、また、それぞれの場において個性の発揮が可能となる必要がある。

たとえ、働く権利、労働の人間化、満足しうる生活水準という3条件が与えられても、それは人間として最小限度の意義を与えるものにすぎず、それだけでは個人の自己実現を保障するのに十分とはなりえない。

## (条項)

第1条 人は自由時間を持つ権利を有する。人はまた、社会関係を創り、構成し、動かす者として、自らの自由な選択の下に余暇活動を行う資格を付与されている。

第2条 自由時間は怠惰な時間であってはならない。余暇活動を明確に特徴付けるものは、その活動において、自発的な熱意により自己実現を図ることが可能であり、また、創造的な方法で個性を発現できるところにある。

第3条 自由時間の用途はそれぞれの社会で異なっている。しかしながら、何れの社会にも共通していえることは、自由時間が、特に、心身の発達、自然や文化との触れ合い、社会生活の強化、社会参加や奉仕活動や祝祭の奨励、自己発見的な旅行の評価や国際的な理解のために使われることが重要である。

第4条 家族、学校及びすべての教育者は、子供が遊びという積極的な余暇活動を始める際に決定的な役割を果たさなければならない。

第5条 病気、年齢、失業、臨時雇用により生じる自由時間は、社会保障が整備されることによって、有意義な余暇活動に使うことができる。活動能力の全部又は一部を失っている人も皆、社会生活に参加するため自らの創造的能力を発揮する権利を有する。これを実現できるような社会が作られなければならない。

第6条 公的機関は、個人の自由かつ効果的な余暇活動を保障しなければならない。公的機関は、立法、予算、投資、適切な施設の供給、余暇活動の活性化及び人的組織の形成を通じてこれに貢献する。

公的機関は、余暇活動の開発が創造の自由及び人間の尊厳と両立しない虚偽の需要や娯楽に向けられる場合には、その開発を抑制させることを保証する。

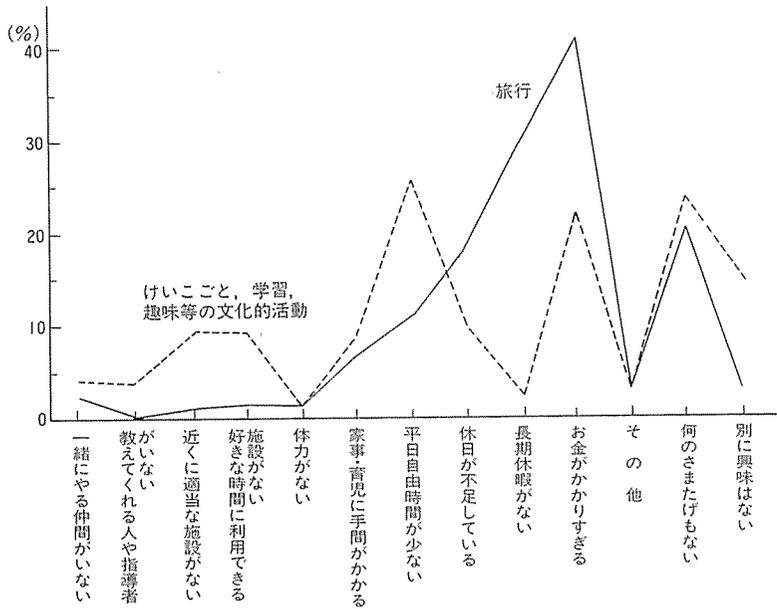
第7条 余暇活動の法的及び物的諸条件を実現することが国家及びすべての公共団体の任務であるとしても、これら公共部門は余暇に関する組織を独占するものであってはならない。政治的、社会的及び宗教的な諸団体のほか、主として市民自身が民主主

義の下で彼ら自身の参加によりその責任を履行する権利を有する。

第8条 コミュニケーション手段については、余暇活動に関するあらゆる政策の中で十分に考慮されなければならない。また、コミュニケーション手段はこの憲章に含まれる基本原則に適合するよう行使されなければならない。

V 生活文化

② 余暇活動の阻害要因



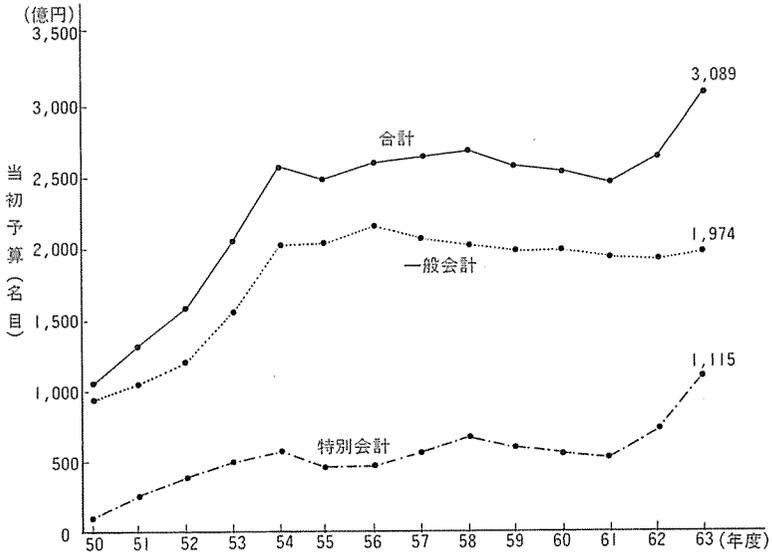
(資料) 余暇開発センター「余暇活動についての調査」昭和62年  
(出典) 労働省「61年労働白書」

③ バカンス、旅行に要する費用

国名	バカンス、旅行に要する費用	内容	1日当たり支出する費用の全家庭平均(試算)
フランス	2,306フラン 118,800円	バカンス27.4日(全家庭平均)に支出する費用の全家庭平均(1979年)	4,300円
西ドイツ	1,383マルク 128,600円	バカンス6週間(最も一般的な勤労者のバカンス旅行)を過ごすための中流家庭が支出する費用の平均(1983年)	3,100円
日本	39,300円	国内旅行(平均宿泊日数2.2日)に支出される1人当たり費用(1984年)	(注) 17,900円

(注) 1日当たりに支出する費用の1人当たり平均である。  
(資料) 通商産業省資料

④ 自由時間充実対策関係予算の推移



(資料) 経済企画庁資料

V 生活文化

⑤ 雇用者の生活行動時間の変化（週平均1日当たり）

（単位：時間、分）

区 分	男 子			女 子		
	昭和56年	61年	増減差	昭和56年	61年	増減差
1 次 活 動	10.32	10.04	-0.28	10.28	10.10	-0.18
睡眠	7.58	7.45	-0.13	7.35	7.26	-0.09
身の回りの用事	0.49	0.49	0.00	1.07	1.12	0.05
食 事	1.45	1.29	-0.16	1.46	1.32	-0.14
2 次 活 動	8.34	8.45	0.11	9.38	9.33	-0.05
仕 事	7.14	7.25	0.11	6.08	5.55	-0.53
通 勤	1.05	1.01	-0.04	0.51	0.47	-0.04
家事・育児	0.07	0.10	0.03	2.09	2.19	0.10
その他	0.08	0.11	0.03	0.30	0.32	0.02
3 次 活 動	4.54	5.11	0.57	3.54	4.17	0.63
積極的余暇	0.55	0.51	-0.04	0.32	0.33	0.01
休養型余暇	3.10	3.13	0.03	2.42	2.46	0.04
交際・付き合い	0.25	0.31	0.06	0.19	0.25	0.06
その他	0.25	0.35	0.10	0.22	0.33	0.11

（注） 三次活動の区分は次のとおりである。

積極的余暇：「学習・研究」、「趣味・娯楽」、「スポーツ」、「社会奉仕」

休養型余暇：「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」、「休養・くつろぎ」

その他：「通勤・通学以外の移動」、「受診・療養」、「その他」

（資料） 総務庁「社会生活基本調査」

⑥ 年齢階級別男子有業者の余暇活動等の内訳別構成比（週平均1日当たり）

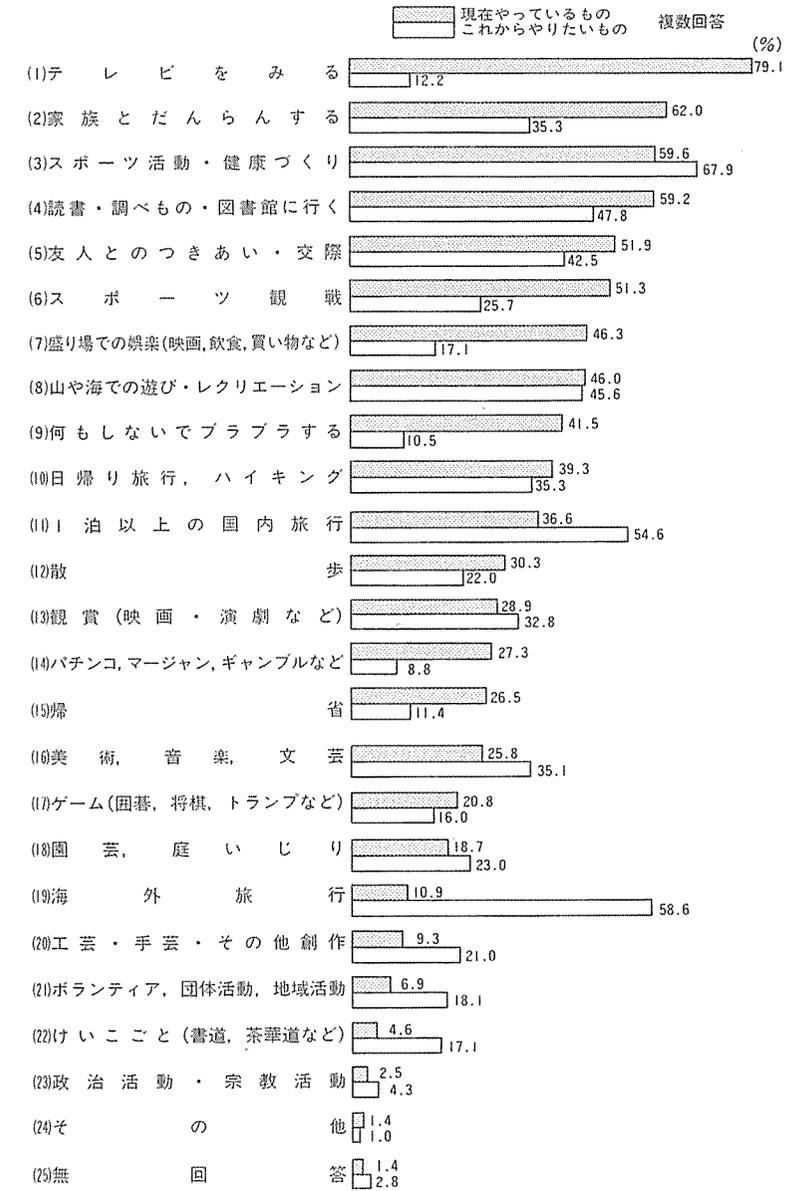
（単位：％）

	年齢階級	テレビ・ラ ジオ・新聞 ・雑誌	移 動	趣 味・ 娯 楽	ス ポー ツ	交 際・ 付 き 合 い	そ の 他
日 本 1986年	20～24歳	45.0	9.5	13.0	4.6	19.5	8.4
	25～29	47.5	10.7	13.2	5.0	15.7	7.8
	30～39	50.6	9.9	12.0	4.7	13.3	9.5
	40～49	52.3	8.9	11.8	4.6	12.7	9.7
	50～59	57.1	7.9	10.8	2.9	10.8	10.5
60～64	57.6	7.4	10.8	3.0	9.3	11.9	
フ ラ ン ス 1985年	18～24	40.1	16.8	14.1	7.9	18.1	3.0
	25～54	42.9	14.9	14.5	9.1	13.8	4.8
	55～64	46.6	10.9	15.0	8.3	14.3	4.9

（注） 余暇活動等とは余暇、交際・付き合い、その他の自由時間のことである（総務庁「社会生活基本調査」）。

（資料） 労働省「昭和62年労働経済の分析」

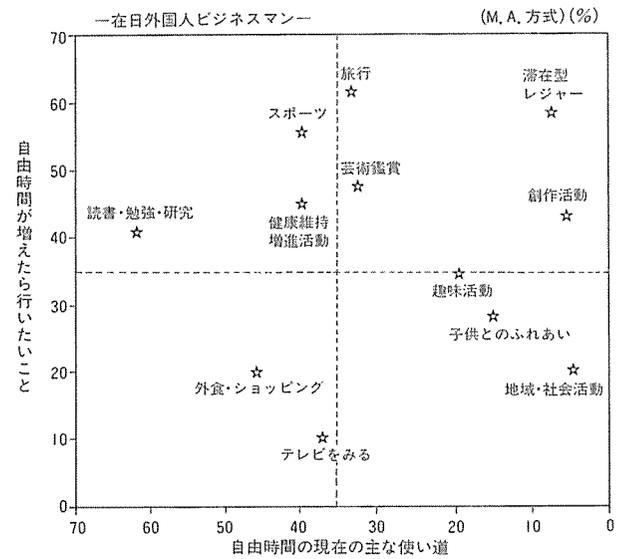
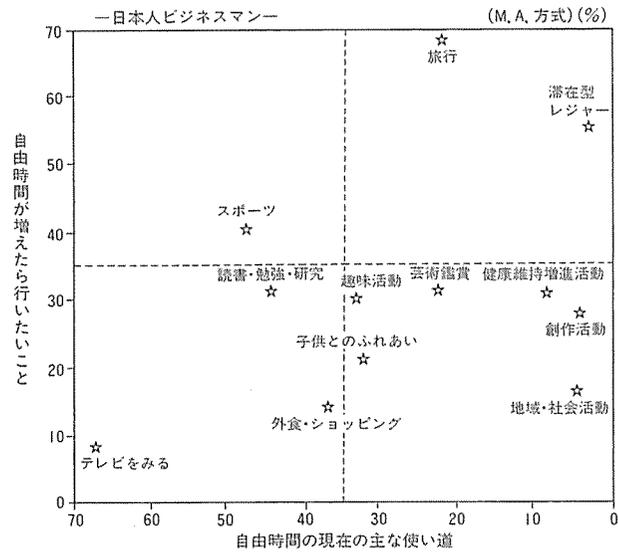
⑦ 自由な時間の過ごし方に関する世論調査



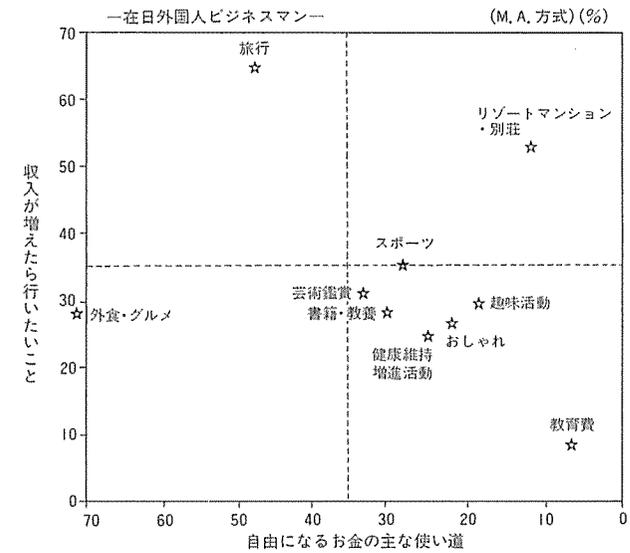
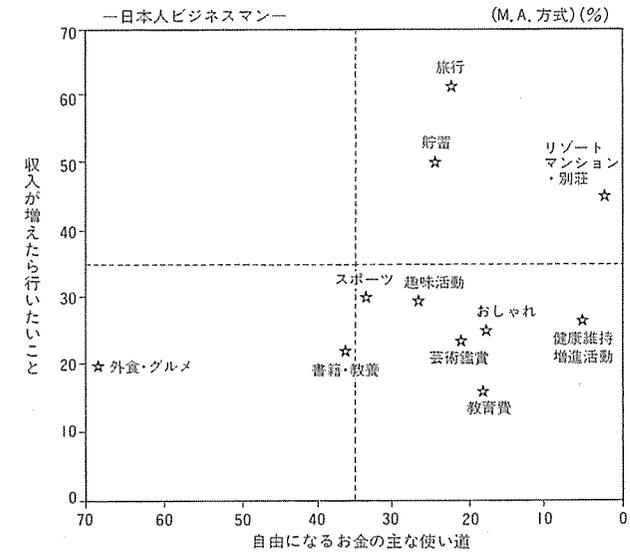
（資料） 経済企画庁「人生80年時代における労働と余暇」昭和61年5月

⑧ ビジネスマンの自由時間と収入の使い方についての現状と今後の希望

(ア) 自由時間の主な使い道と今後行いたいこと (主要項目)



(イ) 自由になるお金の使い道と収入が増えたら行いたいこと (主要項目)



(資料) ニッセイ基礎研究所「アンケート結果にみるビジネスマンの消費生活—可処分所得と可処分時間の使い方の現状と今後」(「調査月報」昭和63年12月)

## ② 食文化

＊ 食生活について、健康に気をつけて食事をしている者の割合は7割を超えており、食生活を重視している者の割合も約8割に及んでいる(①, ②)。食生活に関する情報源については、テレビ番組、一般雑誌から情報を得ている者の割合が多い(③)。

夕食を家族と一緒に食べる回数は、1週間で平均約3.7回となっている(④)。

飲酒については、男性の場合、ビール、ウイスキー、日本酒の順で、女性の場合、ビール、ワイン、ウイスキーの順でよく飲まれている(⑤)。年齢別にみると、年齢層が上がるに従い日本酒を好む割合が増えている(⑥)。

子供の食物の嗜好についてみると、好きなものでは、カレーライス、ハンバーグ、ラーメン、嫌いなものでは、ピーマン、にんじん、魚が上位を占めている(⑦)。

＊ 飲食店数は、ここ数年増える傾向にあり、昭和62年で約144万の施設がある(⑧)。栄養士、調理師の免許の交付数は、漸減傾向にあったが、昭和60年以降やや増加している(⑨)。栄養、調理関係の課程を置く専修学校、各種学校数は近年横ばいであるが、生徒数は増える傾向にある(⑩)。

＊ 厚生省の調査によると、全国平均の食品摂取量は、米類、果実類がここ数年来減少傾向にある(⑪)。栄養素等摂取量については、炭水化物がやはり数年来減少傾向にある(⑫)。

学校給食実施状況をみると、昭和63年現在、小学校では約98%、中学校では約85%の学校で実施されており、そのうち、米飯給食は小、中学校とも約98%の学校で実施されている(⑬, ⑭)。また、全国で郷土食を生かした学校給食の実施が試みられており、近年、多彩な献立が目につくようになっていく(⑮)。

V 生活文化

① 食生活についての意識

(%)

		サン ブル 数	健康に 気をつけて いる	自分 はグル メだ	食品 表示に 安心 する	季節 産地 購入 を意 識する	花 1等 の器 を 用 意 する
全	体	2000	72.1	20.9	49.2	49.3	14.8
性 別	男	1029	63.0	21.0	36.4	40.4	9.1
	女	971	81.7	20.8	62.6	58.7	20.8
男性年齢別	10代	105	49.5	21.0	36.2	31.4	4.8
	20代	231	49.4	16.9	33.3	31.6	7.8
	30代	203	58.6	19.2	37.4	37.4	10.3
	40代	226	68.1	20.4	34.5	42.9	9.3
	50代	171	80.1	26.3	45.0	53.2	11.7
女性年齢別	10代	100	63.0	21.0	55.0	40.0	14.0
	20代	196	76.0	17.3	61.7	47.4	15.3
	30代	187	79.1	16.0	59.4	58.3	20.9
	40代	220	81.8	21.4	61.8	60.9	23.6
	50代	162	93.8	27.8	66.0	72.2	25.9
年 収 別	500万円未満	693	69.0	17.0	49.4	45.9	11.7
	900万円未満	624	75.3	23.4	49.2	52.9	16.0
	900万円以上	365	74.2	27.4	48.8	55.9	22.5

(資料) 博報堂「ライフボリューム調査」

② 食生活の重視度合い

(%)

		サン ブル 数	内 訳					
			重 視 す る + や 小 計	重 視 あ り し な い + 小 計	重 視 し て い る (+2)	や し 重 て い る (+1)	あ ま り 重 な い (-1)	重 視 し て な い (-2)
全	体	2000	79.1	20.9	24.6	54.5	19.7	1.2
性 別	男	1029	74.0	26.0	20.3	53.6	24.6	1.5
	女	971	84.4	15.3	29.0	55.4	14.5	0.8
職業別	男性 勤め人	530	77.2	22.8	18.1	59.1	22.3	0.6
	女性フルタイム勤め人	129	77.5	22.5	26.4	51.2	20.2	2.3
	女性 パート	120	81.7	18.3	25.8	55.8	17.5	0.8
	専業主婦	443	89.6	10.4	33.0	56.7	9.9	0.5
	学生	240	61.3	37.9	17.9	43.3	35.4	2.5
年収別	自営業・自由業	388	79.9	20.1	28.9	51.0	19.1	1.0
	500万円未満	693	76.3	23.7	20.6	55.7	21.5	2.2
	900万円未満	624	84.1	15.7	25.2	59.0	15.5	0.2
	900万円以上	365	84.1	15.6	33.4	50.7	15.3	0.3

(資料) 博報堂「ライフボリューム調査」

③ 食生活の情報源

(%)

		新 聞 の 食 情 報	食 関 連 雑 誌	一 関 連 雑 記 誌 の 食	テ レ ビ 組 の グ ル	ラ ジ オ 組 の グ ル	食 生 活 に 関 心 の 割 合 に わ
全	体	39.2	27.4	49.2	66.0	3.5	33.9
性 別	男	35.9	25.0	40.7	62.5	5.2	24.8
	女	40.8	23.9	59.3	68.1	2.2	43.6
男性年齢別	20代	17.8	41.3	53.0	52.0	3.7	24.2
	30代	32.8	27.0	50.0	60.0	5.9	25.6
	40代	45.7	18.1	38.3	74.5	5.3	24.3
	50代	57.0	18.7	30.3	62.3	9.4	31.0
女性年齢別	20代	20.5	35.4	62.2	61.0	1.2	41.8
	30代	44.7	39.7	63.9	70.3	—	43.3
	40代	51.0	20.0	58.0	64.8	2.0	45.5
	50代	47.6	30.1	49.9	79.1	2.3	53.1

(資料) 博報堂「ライフボリューム調査」

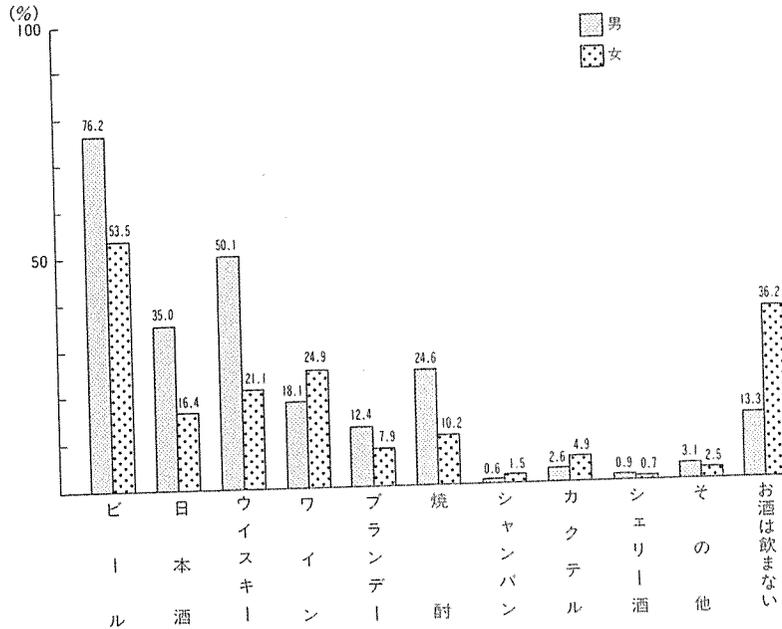
V 生活文化

④ 夕食を家族と一緒に食べる回数（1週間） (%)

夕食		サンプル数	0回	1回	3回	5回	7回	不明	平均
全体		2000	7.2	30.3	22.2	19.7	19.1	1.6	3.66
職業別	男性勤め人	530	6.4	36.6	24.6	18.5	12.5	1.5	3.31
	女性フルタイム勤め人	129	10.1	31.0	34.0	18.6	13.2	3.1	3.31
	女性パート	120	5.8	26.8	29.2	19.2	16.7	2.5	3.64
	専業主婦	443	1.6	32.3	21.9	18.3	25.5	0.5	4.04
	学生	240	13.8	33.7	22.1	16.7	12.1	1.7	3.04
自営業・自由業		388	7.2	23.0	17.5	26.0	24.7	1.5	4.13

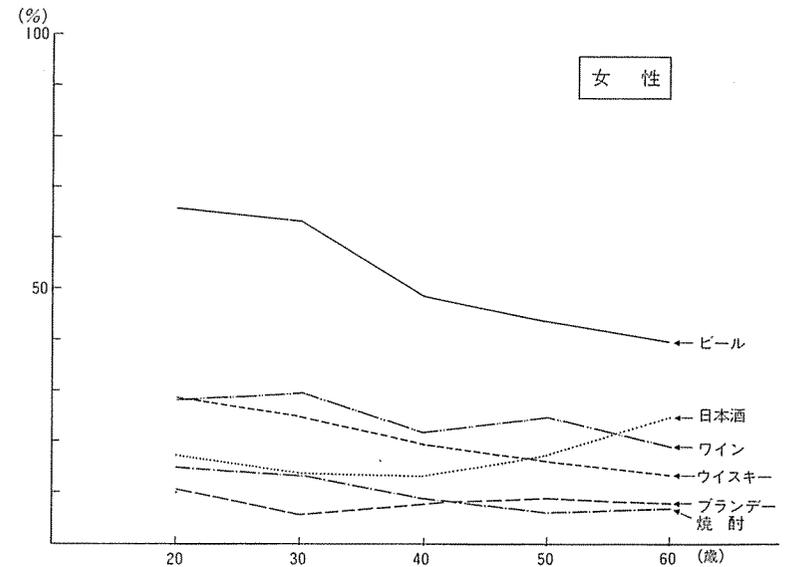
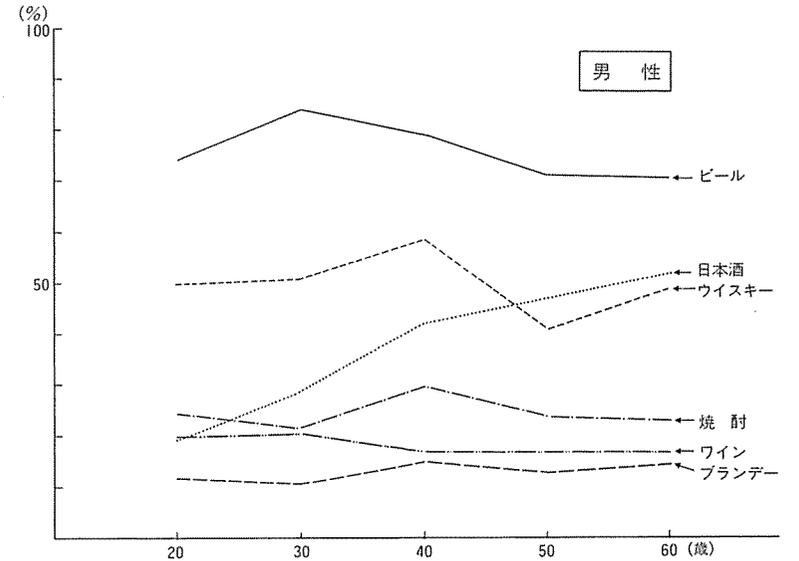
(資料) 博報堂「ライフボリューム調査」

⑤ ふだんよく飲む酒の種類



(注) サンプル数 男性 924, 女性 371  
(資料) 博報堂「ライフボリューム調査」

⑥ 酒の年齢別しこう度



(資料) 博報堂「ライフボリューム調査」

V 生活文化

⑦ 子どもの好きな食物、きれいな食物

子どもの好きな食物（3種自由記入）							
	全体	3・4年男 (112人)	3・4年女 (109人)	5・6年男 (112人)	5・6年女 (107人)	中学男 (143人)	中学女 (111人)
1 カレーライス	194	42	30	49	29	24	20
2 ハンバーグ	148	27	37	23	21	19	21
3 ラーメン	147	42	36	16	23	22	8
4 スパゲッティ	119	9	14	19	25	14	38
5 にぎり寿司	82	13	11	6	2	34	16
6 焼き肉	78	13	3	12	8	28	14
7 肉	53	6	5	9	12	17	4
8 グラタン	51	2	4	7	11	2	25
9 うどん	43	7	9	9	5	4	9
10 とりのから揚げ	41	8	2	6	10	7	8
11 刺身	36	1	3	7	3	12	10
12 すきやき	33	1	6	5	7	9	5
13 ビーフステーキ	31	7	1	4	3	14	2
14 チャーハン	30	4	11	3	5	4	3
15 焼きそば	28	7	7	3	3	4	4

子どものきれいな食物（3種自由記入）							
	全体	3・4年男	3・4年女	5・6年男	5・6年女	中学男	中学女
1 ビーマン	131	25	26	32	11	16	21
2 にんじん	69	14	18	5	7	11	14
3 魚	59	12	12	5	8	16	6
4 しいたけ	37	5	4	5	3	10	10
5 なす	35	6	5	5	4	11	4
6 ねぎ	35	4	6	5	9	6	5
7 野菜	34	10	8	4	3	7	2
8 玉ねぎ	33	4	7	6	7	4	5
9 肉の脂身	31	2	7	2	10	4	6
10 納豆	27	2	3	4	5	5	8
11 肉	25	3	10	2	6	—	4
12 野菜いため	24	2	5	4	9	—	4
13 セロリ	22	2	2	—	6	5	7
14 トマト	22	5	2	3	3	6	3
15 らっきょう	21	2	1	5	3	8	2

(注) 首都圏の小学生3～6年，中学生1，2年，694人対象，質問紙法，1978年3月調査

(資料) 子ども調査研究所

⑧ 飲食店の営業施設数

	62年	60年	58年	50年	45年
一般食堂，レストラン	790,307	791,002	779,086		
仕出し屋・弁当屋	72,725	70,492	67,012		
旅館	93,446	95,992	97,390		
その他	484,032	463,345	441,389		
合計	1,440,510	1,420,831	1,384,877	1,050,429	829,984

(資料) 厚生省「衛生行政業務報告」

⑨ 栄養士，調理師の免許交付数

	62年	60年	55年	50年	45年
栄養士	17,401	19,259	19,197	17,506	16,603
調理師	66,775	62,804	82,621	107,990	63,902
合計	84,176	82,063	101,818	125,496	80,505

(資料) 厚生省「衛生行政業務報告」

⑩ 専修学校，各種学校で栄養，調理関係の課程を置く学校数，生徒数

	元年度		60年度		55年度	
	学校数	生徒数	学校数	生徒数	学校数	生徒数
専修学校	261	31,741	259	27,712	188	22,411
各種学校	10	434	15	1,553	27	2,716
合計	271	32,175	274	29,265	215	25,127

(資料) 文部省「学校基本調査」

## V 生活文化

## ① 食品群別摂取量の年次推移（全国平均1人1日当たり：g）

		昭和 50年	昭和 55年	昭和 58年	昭和 59年	昭和 60年	昭和 61年	昭和 62年
穀類	米類	248.3	225.8	217.9	214.3	216.1	212.1	208.8
	小麦類	90.2	91.8	95.3	93.8	91.3	93.7	91.9
いも類		60.9	63.4	63.1	60.6	63.2	62.5	61.3
油脂類		15.8	16.9	18.0	18.4	17.7	16.8	17.4
豆類		70.0	65.4	69.9	66.2	66.6	65.3	64.4
緑黄色野菜		48.2	51.0	61.1	73.1	73.9	70.9	71.1
その他の野菜		198.5	200.4	198.0	189.8	187.8	189.2	183.5
果実類		193.5	155.2	166.4	145.0	140.6	137.0	137.9
海藻類		4.9	5.1	5.7	5.3	5.6	5.5	5.5
調味嗜好飲料		119.7	109.4	113.3	117.4	113.4	113.3	121.2
魚介類		94.0	92.5	93.4	91.5	90.0	90.5	92.7
肉類		64.2	67.9	70.7	71.3	71.7	70.8	69.1
卵類		41.5	37.7	40.4	40.3	40.3	41.2	40.1
乳・乳製品		103.5	115.2	129.4	124.0	116.7	117.9	121.5

(資料) 厚生省「国民栄養調査成績の概要」昭和62年

## ② 栄養素等摂取量の年次推移（全国平均1人1日当たり）

		昭和 50年	昭和 55年	昭和 58年	昭和 59年	昭和 60年	昭和 61年	昭和 62年
エネルギー	Kcal	2,226	2,119	2,147	2,107	2,088	2,075	2,053
たん白質	g	81.0	78.7	80.9	79.3	79.0	78.9	78.5
うち動物性	g	38.9	39.2	40.9	40.4	40.1	40.1	40.1
脂質	g	55.2	55.6	58.6	58.0	56.9	56.6	56.6
うち動物性	g	26.2	26.9	28.3	28.1	27.6	27.9	27.6
炭水化物	g	335	309	307	299	298	295	291
カルシウム	mg	552	539	580	562	553	551	551
鉄	mg	10.8	10.4	10.9	10.7	10.7	10.7	10.5
ナトリウム (食塩換算)	g	13.5	12.9	12.4	12.2	12.1	12.1	11.7
ビタミンA	IU	1,889	1,986	2,190	2,177	2,188	2,169	2,119
ビタミンB <sub>1</sub>	mg	1.39	1.37	1.37	1.34	1.34	1.35	1.34
ビタミンB <sub>2</sub>	mg	1.23	1.21	1.29	1.26	1.25	1.26	1.25
ビタミンC	mg	138	123	134	130	128	124	122

(資料) 厚生省「国民栄養調査成績の概要」昭和62年

⑬ 学校給食実施状況

(昭和63年5月1日現在)

区 分		全国総数	完全給食		
			実施数	百分比	
小学校	学校数	24,901	23,546	94.6	
	児童数	9,872,520	9,688,210	98.2	
中学校	学校数	11,266	7,484	66.4	
	生徒数	5,896,080	3,539,097	60.0	
特殊教育諸学校	学校数	931	708	76.1	
	幼児・児童・生徒数	95,825	76,599	79.9	
夜間定時制高等学校	学校数	856	543	63.4	
	生徒数	133,211	88,834	66.7	
計	学校数	37,954	32,281	85.1	
	幼児・児童・生徒数	15,997,636	13,392,740	83.7	
特校 ( 教再 育掲 諸 学 )	小学部	学部数	884	672	76.0
		児童数	32,131	23,210	72.2
	中学部	学部数	877	666	76.0
		生徒数	26,756	19,953	74.6
	高等部	学部数	580	506	87.2
		生徒数	34,925	31,685	90.7
	幼稚部	学部数	175	151	86.3
		幼児数	2,013	1,751	87.0
(参考)	園数	15,115	4,020	26.6	
幼稚園	幼児数	2,041,820	579,067	28.4	

(資料) 文部省体育局調べ

補食給食		ミルク給食		計	
実施数	百分比	実施数	百分比	実施数	百分比
201	0.8	674	2.7	24,421	98.1
32,169	0.3	99,801	1.0	9,820,180	99.5
128	1.2	2,015	17.9	9,627	85.5
39,646	0.7	1,286,664	21.8	4,865,407	82.5
2	0.2	30	3.2	740	79.5
207	0.2	1,884	2.0	78,690	82.1
295	34.5	7	0.8	845	98.7
32,225	24.2	263	0.2	121,322	91.1
626	1.6	2,726	7.2	35,633	93.9
104,247	0.6	1,388,612	8.7	14,885,599	93.0
3	0.4	25	2.8	700	79.2
116	0.4	757	2.4	24,083	75.0
1	0.1	23	2.6	690	78.7
52	0.2	561	2.1	20,566	76.9
1	0.2	8	1.4	515	88.8
39	0.1	471	1.4	32,195	92.2
—	—	4	2.3	155	88.6
—	—	95	4.7	1,846	91.7
1,054	7.0	1,361	9.0	6,435	42.6
142,199	7.0	158,010	7.7	879,276	43.1

⑭ 米飯給食実施状況

区分	昭和63年5月現在				昭和62年5月現在			
	学校数	実施率	児童・生徒数	実施率	学校数	実施率	児童・生徒数	実施率
小学校	22,941校 (23,546校)	97.4%	9,489,914人 (9,688,216人)	98.0%	22,900校 (23,526校)	97.3%	9,821,552人 (10,033,951人)	97.9%
中学校	7,349 (7,484)	98.2	3,493,888 (3,539,097)	98.7	7,294 (7,438)	98.1	3,581,849 (3,632,295)	98.6
夜間定時制 高等学校	537 (43)	98.9	88,064 (88,834)	99.1	534 (542)	98.5	84,855 (86,003)	98.7
特殊教育 諸学校	704 (708)	99.4	76,369 (76,599)	99.7	691 (697)	99.1	75,837 (76,197)	99.5
計	31,531 (32,281)	97.7	13,148,235 (13,392,746)	98.2	31,419 (32,203)	97.6	13,564,093 (13,828,446)	98.1

(注) ( ) 内は、同年5月1日現在の完全給食実施状況の数であり、実施率は完全給食に対する比率である。

(資料) 文部省体育局調べ

⑮ 郷土食を生かした学校給食献立例

都道府県名	献立例
北海道 岩手県	パン、牛乳、さけのグラタン、コーンソテー、果実 くりごはん、牛乳、さけのくるみみそソースかけ、すきこんぶ煮付け、とろろ汁、果物
宮城県	ごはん、牛乳、焼き魚、ひき昆布煮付け、かきなます、果物
山形県	ごはん、牛乳、すいとん、魚の風味揚げ、おひたし
福島県	赤飯、牛乳、おくずかけ、赤魚のかすづけ焼き、菊とわかめの酢のもの、白玉もちあえもの
茨城県	ごはん、牛乳、つみれ汁、納豆、さらしねぎ、和風サラダ
群馬県	パン、牛乳、シューマイ、塩もみ、煮ほうと、果実
埼玉県	ごはん、牛乳、ますの塩焼き、呉汁、おひたし
千葉県	ごはん、牛乳、肉パウズ、野菜のピーナツあえ、つみれ汁、つぼ漬け、みかん
東京都	深川めし、牛乳、みそ汁、おひたし、ささかまのうま煮、みかん
神奈川県	コッペパン、牛乳、いちごジャム、豆腐のクリーム煮、フレンチサラダ
新潟県	高原菜めし、牛乳、さけフライ、梅肉あえ、かき卵汁、果物
富山県	菜めし、牛乳、だいごんのそぼろ煮、魚の変わりソースかけ、浅漬け、果実
石川県	ごはん、牛乳、さばのみそ炊き、合いませ、もずく汁、梅干し、フルーツ
福井県	ごはん、牛乳、こに物、ぜんまいのしらあえ、みかん、たくわん
山梨県	かぼちゃのほうとう、牛乳、わかさぎのごまあげ、うめサラダ、くだもの、にぼし
長野県	せりごはん、牛乳、かきフライ、せんきゃべつ、みかん、けんちん煮、まゆ玉
岐阜県	麦ごはん、牛乳、虹ますの甘露煮、ほうれんそうのあぶらえあえ、ずいきのかす汁、果実
静岡県	五目寿司、牛乳、ぶどう豆、かきたま汁、ぼんかん
三重県	ごはん、牛乳、こぶ汁、茶わんむし、潮熊こな漬け
滋賀県	減量フルーツパン、牛乳、七草すいとん、白身魚きのこソースかけ、ヨーグルト
大阪府	てまきごはん、牛乳、けんちん汁、ブロッコリーのおかかあえ、魚フライ
兵庫県	ごはん、牛乳、ひじき豆腐、かす汁、果実
奈良県	ごはん、牛乳、さわらのたつた揚げ、かす汁、そくせき漬け
和歌山県	麦ごはん、牛乳、高野煮、きゅうりもみ、金山寺みそ
鳥取県	きんにくまんどんぶり、いかり揚げ、牛乳、じねんじょ梅肉あえ、牛乳かん
島根県	ごはん、牛乳、わかさぎの南蛮漬け、みそ汁、磯香あえ
岡山県	麦ごはん、牛乳、虹ますの甘露煮、お浸し、きのこのおろしあえ、さぶ煮、みかん
山口県	ふぐ雑炊、牛乳、むしカステラ、ちしゃなます、みかん
徳島県	ごはん、牛乳、ちくわのチーズ揚げ、甘酢あえ、みそ汁、果実
香川県	いなかずし、牛乳、だいごんサラダ、豆腐汁、果実
愛媛県	山菜寿司、牛乳、みそ田楽、すまし汁
高知県	ぎんぶろうずし、牛乳、ぶりのてり焼き、お浸し、果実
福岡県	ごはん、牛乳、水炊き、あさりの佃煮、みかん
佐賀県	ごはん、牛乳、ガメ煮、手巻きのり、ひきわり納豆
長崎県	かきごはん、牛乳、ぬっぺ、なます
熊本県	たこめし、牛乳、けんちん煮、すまし汁、がね揚げ
鹿児島県	しめじごはん、牛乳、豚汁、いりなます風、みかん
沖縄県	ごはん、加工乳、イナムドチ、昆布いため、田菜、つけもの、ヒラミレモン

(資料) 社団法人全国学校栄養士協議会「郷土食を生かした学校給食献立集(第5集)一昭和62年度一」

### ③ デザイン，ファッション

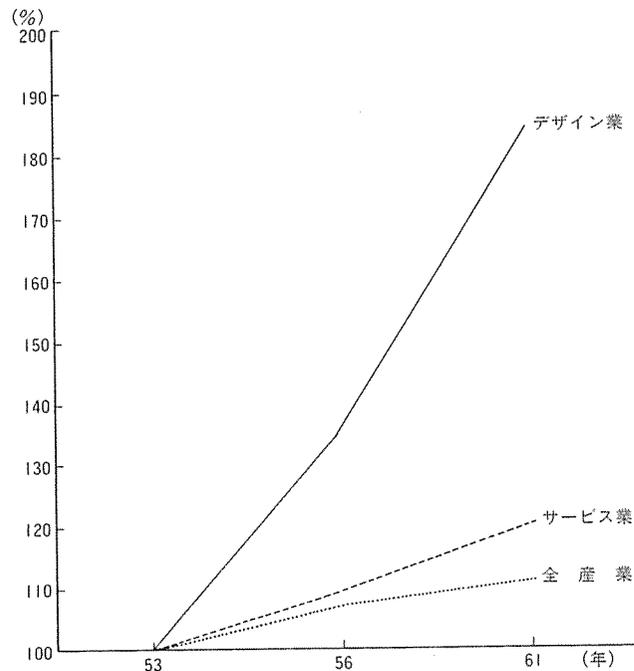
＊ デザイン業に係る事業所数，従業者数は，近年急速に増え，昭和61年実績で約7,800事業所，従業者数約37,000人となっている（①，②）。また，年間売上高も急上昇しており，昭和60年実績で約1,100億円となっている（③）。

デザインの分野別の年間売上高では，グラフィックデザインの占める割合が大きく，その割合も増加してきている（④）。

衣類別の平均保有枚数では，スーツ7.5枚，セーター10.4枚，下着15.5枚などとなっている（⑤）。

また，衣類に関する意識をみると，服装は個性発揮の手段のひとつと思う者の割合は8割を超えており，特に女性では9割がそう思っている（⑥）。衣生活の項目別の重視度は，仕事着，遊び着，アクセサリーの重視度が高く，部屋着，寝着の重視度は低い。下着の重視度は部屋着，寝着の重視度より高くなっている（⑦）。

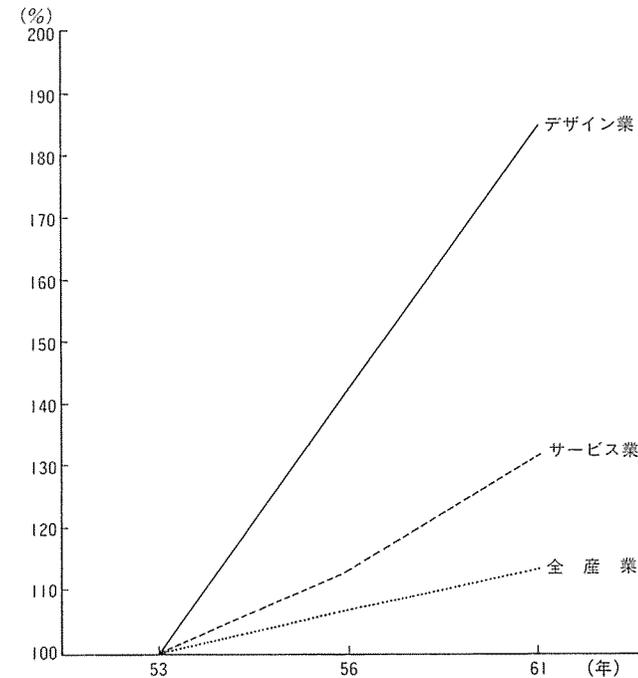
① 事業所数の推移



	事業所数		
	53年	56年	61年
全産業	6,060,183	6,488,329	6,708,759
サービス業	1,335,228	1,463,788	1,604,408
デザイン業	4,231	5,718	7,801

(資料) 総務庁統計局「事業所統計調査報告」

② 従業者数の推移



	従業者数		
	53年	56年	61年
全産業	47,948,691	51,545,087	54,370,454
サービス業	9,275,083	10,547,841	12,162,500
デザイン業	19,874	28,053	36,719

(資料) 総務庁統計局「事業所統計調査報告」

③ 年間売上高

	48年	49年	54年	57年	60年
売上高(百万円)	30,597	62,271	73,172	86,420	110,579
前回は (%)	—	203.5	117.5	118.1	128.0

(資料) 通商産業省調査統計部「特定サービス産業実態調査：デザイン業」

④ デザイン分野別年間売上高

(単位：百万円、%)

	49年		54年		57年		60年	
	売上	構成比	売上	構成比	売上	構成比	売上	構成比
インダストリアル デザイン	3,923	6.3	4,231	5.8	3,801	4.4	7,076	6.4
クラフトデザイン	810	1.3	233	0.3	623	0.7	454	0.4
パッケージデザイン	2,179	3.5	3,485	4.8	4,821	5.6	9,065	8.2
グラフィック デザイン	32,319	51.9	44,880	61.4	52,266	60.4	69,085	62.6
ディスプレイ デザイン	4,234	6.8	4,645	6.3	6,182	7.2	4,895	4.4
インテリアデザイン	8,095	13.0	6,764	9.2	5,594	6.5	7,440	6.7
テキスタイル デザイン	2,491	4.0	3,254	4.4	2,387	2.8	2,594	2.3
ファッション デザイン	2,429	3.9	1,356	1.9	3,437	4.0	1,221	1.1
その他のデザイン	4,608	7.4	3,143	4.3	6,148	7.1	5,744	5.2
デザイン コンサルタント	1,183	1.9	1,180	1.6	1,161	1.3	3,005	2.7
計	62,271	100.0	73,172	100.0	86,420	100.0	110,579	100.0

(資料) 通商産業省調査統計部「特定サービス産業実態調査：デザイン業」

⑤ 衣類別保有枚数

(単位：人、%)

区 分	サンプル 数	ス ー ツ	セーター	遊びに出 かける時の ジャケット (上着)		
				下 着 (パンツ のみ)		
全 体	2000	7.46	10.37	4.43	15.49	
性 別	男 性	1029	7.56	7.83	4.12	13.01
	女 性	971	7.35	13.02	4.75	18.12
男性年齢別	10代	105	3.63	5.09	3.47	11.29
	20代	231	4.73	6.93	4.00	13.49
	30代	203	7.95	9.36	4.14	13.53
	40代	226	9.04	8.54	4.39	13.24
	50代	171	8.98	8.07	4.22	12.32
	60代	93	9.23	7.43	4.18	13.34
女性年齢別	10代	100	3.89	6.27	3.87	16.14
	20代	196	8.05	12.26	5.38	23.19
	30代	187	7.22	13.10	4.29	19.19
	40代	220	8.53	15.36	4.78	16.63
	50代	162	7.06	15.20	4.92	16.19
	60代	106	6.34	12.29	4.89	14.67
職 業 別	男性勤め人	530	8.45	8.08	4.13	13.45
	女性フルタイム勤め人	129	10.41	13.94	5.15	23.15
	女性パート	120	6.79	13.92	4.66	19.44
	専業主婦	443	6.81	13.14	4.58	17.02
	学 生	240	3.23	5.90	3.94	12.50
	自営業・自由業	388	7.79	11.50	4.73	15.68

(資料) 博報堂「ライフボリューム調査」



⑦ 「衣生活」のジャンル別現在の重視度

次の衣生活の項目について、現在どの程度重視し、また、どの程度満足していますか。  
(各項目ごとにひとつずつ回答)

(単位：人、%)

	サ ン プ ル 数	普 段 着 (部 屋 着)		学校や仕事などの外 出着(スーツ、フォー マルウェア)		
		重 視	重 視 せ ず	重 視	重 視 せ ず	
全 体	2000	31.0	69.0	76.2	23.4	
性 別	男 性	1029	24.1	75.8	71.3	28.3
	女 性	971	38.3	61.7	81.4	18.2
男性年齢別	10 代	105	25.7	74.3	64.8	35.2
	20 代	231	26.0	74.0	69.7	30.3
	30 代	203	26.1	73.9	76.4	23.2
	40 代	226	19.5	80.1	77.4	22.6
	50 代	171	25.7	74.3	67.8	31.6
	60 代	93	21.5	78.5	63.4	34.4
女性年齢別	10 代	100	35.0	65.0	82.0	18.0
	20 代	196	37.2	62.8	85.7	14.3
	30 代	187	40.1	59.9	83.4	16.6
	40 代	220	36.4	63.6	85.0	15.0
	50 代	162	42.0	58.0	75.3	23.5
	60 代	106	38.7	61.3	70.8	27.4
職 業 別	男 性 勤 め 人	530	22.5	77.4	77.5	22.1
	女 性 フルタイム勤め人	129	25.6	74.4	84.5	15.5
	女 性 パ ー ト	120	42.5	57.5	85.0	15.0
	専 業 主 婦	443	41.1	58.9	80.8	18.5
	学 生	240	29.6	70.4	74.2	25.8
自 営 業 ・ 自 由 業	388	31.7	68.3	71.6	28.4	

(資料) 博報堂「ライフボリューム調査」

遊びに行く時の外出着 (レジャーウェア)		インナーウェア (下 着)		ナ イ ト ウ ェ ア (パジャマ・ガウン)		アクセサリー、小物 (靴、バッグ、ネクタイなど)	
重 視	重 視 せ ず	重 視	重 視 せ ず	重 視	重 視 せ ず	重 視	重 視 せ ず
69.5	30.1	45.5	54.3	24.6	75.1	61.2	38.7
63.4	36.4	35.3	64.5	17.2	82.6	53.0	46.9
76.0	23.4	56.2	43.5	32.3	67.0	69.8	30.0
81.0	19.0	26.7	73.3	12.4	87.6	33.3	66.7
71.0	29.0	32.0	67.5	14.7	85.3	55.4	44.6
64.0	35.5	33.0	67.0	15.8	83.7	61.6	38.4
58.0	42.0	38.9	60.6	17.3	82.7	58.0	41.6
53.2	46.2	40.4	59.6	22.2	77.2	49.1	50.9
54.8	45.2	39.8	60.2	22.6	77.4	45.2	54.8
95.0	5.0	55.0	45.0	33.0	66.0	80.0	19.0
84.2	15.8	61.2	38.3	33.2	66.8	71.4	28.6
72.7	26.7	52.9	46.5	33.2	66.3	68.4	31.6
73.2	25.9	57.7	41.8	28.6	70.0	66.4	33.2
67.9	30.2	59.3	40.7	31.5	67.9	71.0	29.0
67.0	33.0	46.2	53.8	37.7	62.3	65.1	34.9
62.5	37.2	35.1	64.5	18.5	81.3	60.4	39.4
79.1	20.9	66.7	33.3	30.2	69.8	72.1	27.9
78.3	20.8	56.7	43.3	31.7	67.5	70.0	30.0
71.8	27.5	54.0	45.4	31.4	68.2	65.2	34.8
83.8	16.3	38.8	61.3	20.4	79.2	57.9	41.7
65.7	33.8	45.4	54.6	23.5	75.8	56.7	43.3



---

VI 地域活動

---



## ① イベント，まつり

＊ 国民の文化活動の盛り上がりに対応して各地域においても次第に，現代舞台芸術を中心としたイベントが盛んになってきている（①）。

これら現代舞台芸術を中心としたイベントは，毎年または定期的に行われ，地域の恒例行事として定着化しつつあるものが多い。

また，共通的な特徴としては，それぞれの分野，地域で優れた指導者が積極的に活動していること，必ずしもその地域の歴史，在来の文化に由来しないものも多いこと，地方公共団体が財政，人的な面で支援を行っていることがあげられる。

例えば，富山県利賀村は，かつてはいわゆる寒村であったが，その地に優れた演劇指導者が世界各国から劇団等を集め，利賀フェスティバルを始めたところ，利賀村等の支援もあって，次第に盛んになり，1万人を超える観客を集めるようになった。

福井市の，ふくい国際ビデオ・ビエンナーレは，市民と市が中心となって，福井市に新しい文化を育てようと努力した結果である。

このように，大都市または外国からの派遣公演を見るというような受身の形ではなく，各地で地域に適した特色ある文化を自ら育て，発展させるという動きが起きており，今後の文化振興の一つの柱となるものと考えられている。

＊ 我が国には，各地の伝統的文化的公開の場でもある「おまつり」が，数多く行われている（②）。中には，観光化を図り，多くの観光客を集めているものもあるし，人口減または地域の社会構造の変化等により，衰退しつつあるものもあり，態様は様々である。

文化庁においても，文化財保護の観点から，価値あるものについて重要無形民俗文化財に指定し，また，衰退のおそれのあるものについて，記録作成等の措置を講じている。

いずれにしても「おまつり」の存続，発展は地域の住民等の支持，参加が重要な要素となっていると考えられ，衰退しつつあるものについては，単なる保存ではなく，地域住民の支持を得られるようその活性化を図ることも今後の課題であろう。

## M 地域活動

## ① 地域文化活動の事例

## 〈音楽〉

- 大分県 「大分県民オペラ」  
市民参加によるオペラを上演。
- 大分県湯布院町 「音楽祭」  
各地から著名な音楽家やオーケストラ等を招へいして音楽祭を開催。
- 岩手県花巻市 「花巻市民音楽祭」  
合唱を中心に児童劇や郷土芸能をおりませながら、宮沢賢治の音楽や詩の世界を市民の手で再現。
- 神奈川県藤沢市 「藤沢市民オペラ」  
市民参加のオペラを上演。「市民オペラ」の全国的先駆け。
- 兵庫県 「神戸国際フルーツコンクール」  
フルーツ単独の本格的国際コンクール
- 長野県 「アスペン・ミュージック・フェスティバル」  
アスペン音楽協会の全面的協力により、「自然と人と音楽との調和」を目指した国際的音楽祭。公開スクーリングや、国内一流演奏家によるコンサートを行っている。
- 福岡県 「北九州国際音楽祭」  
フィンランド・クフモ室内楽音楽祭をモデルとし、世界一流のアーティストを招いて開かれるクラシック（特に室内楽）音楽祭。
- 岡山県 「倉敷音楽祭」  
倉敷市民会館をメイン会場に、一流アーティストによる公演と倉敷美観地区における市民参加の街角コンサートが一体的に繰り広げられる。
- 新潟県大島村 「チロル音楽村（ギター中心）」  
心のふる里づくりと、芸術の里づくりを目指し、「新堀芸術学院」と一体となって、活発な音楽・芸術文化活動を展開。
- 愛知県 「名古屋国際音楽祭」

## 〈舞踊〉

- 埼玉県（浦和市） 「埼玉国際創作舞踊コンクール」  
国内外からのバレエ・モダンダンスの創作舞踊コンクールを実施。
- 秋田県秋田市 「現代舞踊フェスティバル（含コンクール）」  
全国からモダンダンスの祭典を実施。
- 秋田県 「あきた全国舞踊祭」  
秋田県芸術舞踊協会主催による舞踊コンクール

## 〈演劇〉

- 富山県利賀村 「世界演劇祭一利賀フェスティバル」  
プロ・アマを問わず、世界各地の劇団を招待して公演。辺地でありながら、観客は1万人を超える。

- 岩手県遠野市 「遠野物語ファンタジー」  
「遠野物語」を題材に、市民の手により演劇化して公演。
- 青森県黒石市 「児童劇団公演」  
市民による児童劇団活動を公演。
- 愛知県名古屋市 「むすめ歌舞伎公演」  
むすめ歌舞伎の保存、育成のための公演。

## 〈映像〉

- 大分県湯布院町 「映画祭」  
優れた映画あるいはユニークな映画を数日間にわたり上映。
- 広島県広島市 「ヒロシマ国際アマチュア映画祭」  
「平和と生きる尊さ」を追求した映像作品を募り、公開する。
- 北海道夕張市 ゆうばり国際冒険ファンタスティック映画祭  
過疎振興策として始められた国際映画祭。SF、ロマン、ホラー、アクション、及びサスペンスをテーマとした劇場映画及びビデオ作品を上映。
- 熊本県 くまもと映画祭  
毎年2～3月、熊本市で行われる大規模な映画祭。なお、平成2年度は同時期にアジア映像祭を計画している。

## 〈美術〉

- 兵庫県神戸市 「神戸須磨離宮公園現代彫刻展」  
都市における彫刻のあり方を追及し、ビエンナーレ方式で開催。コンクール入選作品と招待作品とで構成される。
- 名古屋市 「国際パブリックデザイン」
- 福井県 「ふくい国際ビデオ・ビエンナーレ」  
ビデオアートを中心とした国際的展覧会、フェルティバル。国内外のビデオアートの傑作を上映、公開するほか、世界的評価の高いビデオアーティストを招待。
- 岐阜県高山市 「飛騨高山ビデオ映像祭」  
全国のビデオカメラ愛好者を対象に、飛騨高山を始め、全国各地の文化と生活を映像で綴ったビデオ作品を公募、表彰。

## 〈その他〉

- 山形県天童市 「天童市民創作劇場」  
市民が参加し、製作した手作りのオペラ、演劇舞踊、合唱を公演。
- 北海道東川町 「国際写真フェスティバル」  
「写真の町」をキャッチフレーズに、世界に開かれた町づくりを目指して毎年、写真展、シンポジウム、撮影会等を開催。東川賞を設置し、優れた写真作品（作家）に対し授与。
- 滋賀県 「陶芸の森（世界陶芸祭）」  
信楽焼を素材に、陶芸館、産業展示館、創作研修館、多目的広場、野外展示場、遊歩道を備えた公園の整備。1991年には「世界陶芸祭」を計画。

② 日本のまつり

(◎=重要無形民俗文化財 ○=記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財)

	名 称	所 在 地	実 施 時 期	備 考
北 海 道	◎アイヌ古式舞踊(ま りも祭り)	旭川市, 白老郡白老町, 沙流 郡平取町, 静内郡静内町, 浦 河郡浦川町, 帯広市, 釧路市 及び阿寒郡阿寒町	10月第2日曜(まり も祭り)	は阿寒郡阿 寒町
	オロチヨンの火祭り (モヨロ祭) 上川神社祭 北海道神宮祭典	網走市  旭川市 札幌	7月第4土曜  7月21日 6月14(～16日)	
青 森 県	◎青森のねぶた ◎岩木山の登拝行事	青森市 東津軽郡・西津軽郡・中津軽 郡・南津軽郡及び北津軽郡他	8月2日～7日 7月末～8月15日 (旧) (10月3日)	
	◎下北の能舞 ◎八戸のえんぶり ◎弘前のねぶた	青森県下北郡東通村 八戸市, 新羅神社 弘前市	1月3日(～5日) 2月17日(～20日) 8月1日(～7日)	
	○南部駒踊 ○平内の鶏舞	十和田市洞内 三戸郡階上村	9月2日 8月13日(～15日)	
岩 手 県	恐山大祭(地藏会, いたこ祭) 川倉地藏祭り(賽の 川原) 三戸祭 八戸祭	むつ市門通寺 北津軽郡金木町 三戸郡三戸町三戸, 大神宮 八戸市, 新羅神社	7月20日(～24日) 6月23日(旧) 9月11日(～13日) 8月20日(～23日)	
	◎永井の大念仏剣舞 ◎早池峰神楽	岩手県紫波郡南村 種貫郡大迫町, 早池峰神社(例 大祭)	8月13日 8月1日	
	◎毛越寺の延年(摩多 羅神祭) ◎室根神社祭のマツリ パ行事  ◎山屋の田植踊	西磐井郡平泉町 東磐井郡室根村, 同大東町, 同千厩町, 同川崎村, 大船戸 市, 宮城県気仙沼市及び本吉 郡唐桑町 紫波郡紫波町山屋	1月20日 9月17日～19日(旧) 1月15日に近い日 曜日	
岩 手 県	○青笹のしし踊  〃 ○円万寺神楽  ○川西の念仏剣舞 ○古契式三番	遠野市, 八幡神社  遠野市, 六神石神社 花巻市藤立  胆沢郡衣川村大字下衣川 西磐井郡平泉町平泉字衣岡	8月15日(～17日・ 9月15日) 8月18日(旧) 9月25日・1月1日 他 5月, 8月盆 5月1日～5日の1 日	
	○煤孫の大乗神楽 ○チャグチャグ馬っこ 蘇民祭り(蘇民将太)	和賀郡和賀町煤孫 岩手郡滝沢村, 蒼前神社 水沢市, 黒石寺	1月1日・9月15日 5月5日(旧) 1月7日(～8日)	

岩 手 県	釜石まつり 駒形神社祭 花巻まつり 平泉秋の藤原祭	釜石市, 尾崎神社, 山神社 水沢市 花巻市 西磐井郡平泉町, 中尊寺・毛 越寺 西磐井郡平泉町, 中尊寺・毛 越寺	(旧) 10月15日(～19日) 9月19日 9月5日(～7日) 11月1日(～3日) 5月1日(～5日)	
	◎秋保の田植踊	仙台市秋保町湯元 " 長袋 " 馬場 栗原郡金成町, 勝大寺・白山 神社	4月15日(旧) 8月14日(～16日) 4月28日(～29日) 3月3日(旧)	
宮 城 県	◎小迫の延年			
	○杜鹿法印神楽 ○能神楽 ○川前鹿踊・川前剣舞	石巻市漢字牧山 仙台, 大崎八幡神社 宮城県宮城町字芋沢	夏 9月14日 7月7日(旧)	
宮 城 県	青葉神社祭	仙台	5月24日(～25日)・ 10月9日	
	塩釜神社例祭 塩釜みなと祭 七夕祭 どんと祭(松焚祭) 花祭り 帆手祭り 松島燈籠流し	塩釜市 塩釜市, 志波彦神社 仙台 仙台, 大崎八幡神社 塩釜市, 塩釜神社 塩釜市, 塩釜神社 宮城県松島町	7月10日 8月5日 8月6日(～8日) 1月14日(15日) 4月25日 3月10日 8月16日	
秋 田 県	◎秋田の竿灯 ◎男鹿のナマハゲ	秋田市 男鹿市, 赤神社, 南秋田郡 若美町	8月5日(～7日) 12月31日・1月16日	
	◎刈野の大綱引き ◎大日堂舞楽 ◎東潮八坂神社祭のト ウニン行事 ◎西馬音内の盆踊 ◎保呂羽山霜月神楽 ◎六郷のカマクラ行事	仙北郡西仙北町刈野 鹿角市八幡平, 大日靈貴神社 南秋田郡天王町, 同男鹿市船 越 雄勝郡羽後町 平鹿郡大森町, 波字志別神社 仙北郡六郷町	1月15日(旧) 1月2日 1月6日, 7月7日 他 8月16日(～18日) 11月7日 2月11日(～15日)	
秋 田 県	○秋田万歳 ○おやま囃子 ○毛馬内の盆踊り ○小滝のチョウクライ ロ舞 ○綴子の大太鼓 ○中里のカンデッコあ げ行事 ○根子番楽 ○能代のナゴメハギ ○荒越の沼入り梵天行 事	秋田市 仙北郡角館町, 神明社薬師堂 鹿角市十和田毛馬内 由利郡象潟町小滝  北秋田郡鷹巣町, 綴子神社 仙北郡西木村  北秋田郡阿仁町 能代市宇茂内, 中浅内, 黒岡 平鹿郡平鹿町醍醐字荒越	不定 9月7日(～9日) 8月21日(～25日) 6月15日  7月14日(15日) 1月15日(旧)  不定 12月31日 5月1日	
	花輪ばやし 梵天祭 横手の梵天	鹿角市花輪町 秋田, 三吉神社 横手市, 旭岡山神社	8月19日(20日) 1月17日 2月17日	

山	◎黒川能(王祇祭)	東田川郡御引町黒川, 春日神社	2月1日(2日)		
	◎杉沢比山	飽海郡遊佐町, 熊野神社	8月6日(15日・20日)		
形	◎林家舞楽	寒河江市, 慈恩寺 西村山郡河北町, 谷地八幡宮	5月5日 9月14日(15日)		
	○新山の延年 ○高寺八講	飽海郡平田町, 新山神社 東田川郡羽黒町高寺, 雷電神社	9月3日 5月8日		
	○萩野仁田山獅子踊 ○遊佐のアマハゲ 上杉神社祭	新庄市大字萩野字仁田山 飽海郡遊佐町 米沢市	8月26日 1月6日 4月29日(～5月3日)		
	黒森歌舞伎 酒田山王祭 さくらんぼ祭り 新庄まつり(囃子) 鶴岡化物祭り 天童桜まつり 羽黒社田植祭 羽黒山松例祭	酒田市, 日吉神社 酒田市, 日枝神社 寒河江市 新庄市, 最上公園 鶴岡市, 太宰府神社 天童市, 舞鶴公園 東田川郡羽黒町 東田川郡羽黒町, 羽黒山神社	2月15日(～17日) 5月20日 6月10日(～30日) 8月23日(～26日) 6月5日 4月15日 5月8日 12月30日(～1月1日)		
	羽黒山花祭	東田川郡羽黒町, 出羽三山神社	7月15日		
	花笠祭り 山形まつり	山形 山形市内	8月6日(～8日) 11月1日(～3日)		
	福	◎金沢の羽山ごもり	福島市松川町	11月16日～18日(旧)	
		◎御宝殿の稚児田楽と風流	いわき市, 熊野神社	7月31日(8月1日)	
		◎相馬野馬追	相馬市・原町市・相馬郡小高町他	7月23日(～25日)	
		◎田島祇園祭のおとうや行事	南会津郡田島町	7月18日(～21日)	
○石井の七福神と田植踊		二本松市	1月14日(～16日)		
○御田植		東白川郡棚倉町, 都々古別神社	1月6日		
○鹿島日吉神社のお浜下り		相馬郡鹿島町	申年4月21・22に近い日曜		
○小浜長折の三匹獅子舞		安達郡岩代町, 諏訪神社	4月27日		
○古寺山自奉楽		須賀川市大字上小山田	1月2日(旧)3日		
○津島の田植踊		双葉郡浪江町津島・南津島・赤字木	1月14日(～17日)	小正月	
島	○広瀬熊野神社の御田植	安達郡岩代町	1月6日		
	○南須釜の念仏踊	石川郡玉川村	4月8日(東福寺)・8月14日		
	安積園造神社祭	郡山市	9月27日(～29日)		

福島県	空也念仏踊り 相馬盆踊 二本松提燈祭 三春だるま市	河沼郡河東村広野, 八華寺 河沼郡河東村広野, 八葉寺 相馬市 二本松市, 二本松神社 田村郡三春町	8月5日 9月11日 8月14日(～16日) 10月4日(～6日)	
	◎綱火(高岡) ◎綱火(小張) ◎日立風流物(日立祭)	筑波郡伊奈町, 愛宕神社 筑波郡伊奈町, 愛宕神社 日立市, 神峰神社	8月第1土曜日 8月24日 5月3日(～5日)	
茨城	○あんば雛子 ○大串のさきらと大野のみろく ○大畑のからかさ万灯 ○金砂田楽	稲敷郡桜川村河波, 大杉神社 東茨城郡常澄村, 大串稲荷神社 新治郡新治村大字大畑 久慈郡金砂郷村	10月26日(～27日) 11月21日(～23日) 8月17日 1月3日(旧)・3月1日 6月13日(～15日)(旧)	
	○五所駒滝神社の祭事	真壁郡真壁町	3月9日 5月2日・3日 8月2日(～4日)	
	○祭頭祭 ○常陸大津のお船祭 ○那珂湊の獅子とみろく ○真家のみたま踊	鹿島郡鹿島町, 鹿島神宮 北茨城市大津町 茨城県那珂湊市 新治郡八郷町真家	8月15日	
	悪たれ祭 潮来あやめ祭 貴門祭 神幸祭 提燈竿もみ祭り 筑波山がま祭 常磐神社例祭	西茨城郡岩間町, 愛宕神社 行方郡潮来町 水戸 鹿島郡鹿島町, 鹿島神宮 古河市 筑波郡筑波町, 筑波山神社 水戸	12月14日 6月1日(～30日) 8月第1金・土・日 9月1日・2日 12月3日 8月1日・2日 5月13日	
	◎烏山の山あげ行事 ◎川俣の元服式 ○栃窪の天念仏	那須郡烏山町 塩谷郡栗山村 鹿沼市栃窪	7月25日(～27日) 1月21日 4月7日～9日(旧)	
	○奈佐原文楽 ○塙の天祭 ○百村の百堂念仏舞	鹿沼市奈佐原町 那須郡南那須町 黒磯市百村	不定 9月1日 4月23日	
	○秋季渡御祭 強飯式 泣き相撲 日光東照宮渡御祭 〔百物揃, 千人行列, 輪王寺の延年舞〕 日光和楽踊り	日光市, 東照宮 日光市, 輪王寺三仏堂 鹿沼市, 生子神社 日光市 日光市, 古河電気工業株式会社 日光市, 二荒山神社	10月17日 4月2日 9月19日以後の日曜 5月17日(18日) 8月5日・6日 4月16日(～17日)	
	○片島の猿祭 ○下長磯の式三番 ○尻高人形	群馬県 前橋市長磯町 吾妻郡高山村尻高	4月15日 不定	
	○草津温泉祭 だるま市	吾妻郡草津町 高崎市, 少林山達磨寺	8月1日(～3日) 1月6日・7日	
	◎猪俣の百八燈	鬼玉郡美里町	8月15日	

埼	◎秩父祭の屋台行事と神楽(秩父夜まつり)	秩父市, 秩父神社	12月3日(～6日)
	◎鷲宮催馬楽神楽(春季祭)	北葛飾郡鷲宮町, 鷲宮神社	4月10日
	◎ " (夏越祭)	"	7月31日
玉	◎ " (秋季祭)	"	10月10日
	○関戸の式三番	蓮田市, 愛宕神社	10月14日
	○白久の串人形	秩父郡荒川村	4月第3日曜
県	○玉敷神社神楽	北埼玉郡騎西町	2月1日・5月5日・7月14・15日・12月1・2日
	大湯祭り	大宮市, 氷川神社	12月10日
	川越観音祭(ささら獅子舞)	川越市, 高沢山観音寺	4月18日
千	川越祭	川越市, 氷川神社	10月14日(15日)
	川瀬祭	秩父市, 秩父神社	7月19日(20日)
	熊谷団扇祭	熊谷市, 八坂神社	7月20日(～22日)
葉	毛呂の流籠馬	入間郡毛呂山町, 出雲伊波比神社	11月3日
	氷川神社祭	大宮市	8月1日
	ほろかけ祭	川越市, 古尾谷八幡神社	9月15日
千	◎鬼来迎	匝瑳郡光町虫生, 広濟寺	8月16日
	○おどり花見	成田市, 三宮菅生神社	4月3日
	○加茂の三番叟と花踊	安房郡丸山町加茂, 賀茂神社	8月1日(2日)
葉	○白間津ささら踊	安房郡千倉町白間津	7月14日(～16日)
	○洲崎踊	千葉県館山市洲崎	5年毎 6月13日・8月20日(～22日)
	○多古のしいかご舞	香取郡多古町多古	7月25日(26日)
県	○六座念仏の称念仏踊	印旛郡印西町武西	1月16日・2月15日・3月他
	御田植祭	佐原市, 香取神宮	4月第1土・日曜
	成田不動尊祇園会	成田市, 新勝寺	7月7日～9日
東	◎板橋の田遊び(徳丸)	板橋区, 北野神社	2月11日
	◎板橋の田遊び(下赤塚)	板橋区, 諏訪神社	2月13日
	◎小河内の鹿島踊	西多摩郡奥多摩町川内	9月15日・4月
京	○江戸の里神楽	台東区蔵前4-3-8・品川区東大井2-16-7・荒川区西日暮里6-15-6・稲城市矢野口2434	不定
	○檜原村の式三番	西多摩郡檜原村	9月第1土曜・9月14日
	○鳳凰の舞	西多摩郡日の出町平井	9月末の日曜
部	浅草お富士さま植木市	台東区, 富士浅間神社	5月31日(6月1日)
	浅草観音, 四万六千日(ほおずき市)	台東区	7月9日(10日)
	浅草三社祭	東京都台東区, 浅草神社	5月第3日曜を中心とする金曜～月曜

東	浅草鳥越祭り	台東区, 鳥越神社	6月第2日曜
	入谷朝顔市	台東区, 真源寺	7月6日(～8日)
	うそかえ神事	江東区, 亀戸天神社	1月24日(25日)
京	大国魂神社	府中	5月5日(6日)
	御会式	大田区, 池上本門寺	10月12日
	亀戸天神祭	江東区	8月25日
都	神田祭	千代田区, 神田神社	5月14日(～15日)
	鬼子母神会式	豊島区	10月12日(～18日)
	義士祭	港区, 泉岳寺	12月14日
部	くらやみ祭(六所祭)	東京都府中市	5月5日
	孔子祭	文京区, 湯島聖堂	4月第4日曜
	山王祭	千代田区, 日枝神社	6月10日(～16日)
京	芝神明祭(だらだら祭)(生薑市)	港区, 芝大神宮	9月11日(～21日)
	白鷺の舞	台東区, 浅草寺	11月3日
	浅草寺亡者送り	台東区	1月18日
都	大東京祭	八王子市, 高尾山有喜寺薬王院	10月1日
	高尾山春季大祭	八王子市, 高尾山有喜寺薬王院	4月21日
	だるま市	調布市, 深大寺	3月3日(4日)
部	年の市(羽子板市)	台東区, 浅草観音	12月17日(～19日)
	根津権現祭り	文京区, 根津神社	9月21日(22日)
	梅若忌	墨田区, 木母寺	4月15日
京	八王子天王祭	八王子市, 八雲神社	11月23日(24日)
	火渡り祭	八王子市, 高尾山有喜寺薬王院	3月第2日曜
	深川祭	江東区, 深川八幡宮	8月15日
都	べったら市	中央区, 宝田恵比寿神社附近	10月19日(20日)
	ぼろ市	世田谷区	1・12月15・16日
	狙開	台東区, 報恩寺	1月12日
神	明治神宮祭	渋谷区	11月3日
	湯島天神大祭	文京区	5月下旬の土・日曜
	◎チャッキラコ	三浦市, 海南神社	1月15日
奈	◎山北のお縁入り	足柄上郡山北町皆瀬川	10月16日
	○足柄ささら踊	南足柄市	8月14日(～16日)
	○鹿島踊	足柄下郡湯河原町吉浜, 素鷲神社	8月2日
川	○湯立獅子舞	足柄下郡箱根町仙石原, 金時神社	5月5日
	"	足柄下郡箱根町宮城野, 諏訪神社	7月15日
	芦の湖湖上祭	足柄下郡箱根町	7月31日
県	江の島天王祭	藤沢市, 江の島神社	7月14日
	大山夏祭	伊勢原市	7月27日
	面掛行列	鎌倉市, 御霊神社	9月18日
部	鎌倉まつり	鎌倉市	4月第2日曜～第3日曜
	貴船神社給祭(貴船祭)	足柄下郡真鶴町, 貴船神社	7月27日(28日)

神奈川	国府祭 鶴岡祭(流鏝馬・宵宮祭)	中郡大磯町, 六所神社 鎌倉市, 鶴岡八幡宮	5月5日 9月15日(16日)	
	箱根大行列 箱根大文字焼 浜降祭 平塚七夕祭 横浜みなとまつり	足柄下郡箱根町 足柄下郡 高座郡寒川町, 寒川神社 平塚市	11月3日 8月16日 7月15日 7月7日 5月3日	
新潟	◎青梅の竹のからかい ◎綾子舞 ◎糸魚川の舞楽(喧嘩祭)	西頸城郡青海町 柏崎市, 黒姫神社 糸魚川市, 天津神社	1月15日 9月15日 4月10日(11日)	
	◎根知山寺の延年 ◎能生の舞楽 ◎弥彦神社燈籠おしと舞楽 ◎佐渡の人形芝居	糸魚川市, 日吉神社 西頸城郡能生町, 白山神社 西蒲原郡弥彦村 両津市, 佐渡郡	9月1日 4月24日 7月25日 不定	
新潟	○大の阪 ○五所神社の御田植神事 ○白山神社の田遊び神事 ○山北のボタモチ祭	北魚沼郡猫之内町 佐渡郡赤泊村下川茂 佐渡郡畑野町大字大久保, 白山神社 岩船郡山北町中浜・杉平・岩石	8月14日(～16日) 2月6日 2月3日 12月2日	
	石船神社例祭 押合祭り 謙信公祭 新穂の鬼太鼓 鎮魂祭	村上市 南魚沼郡大和町, 浦佐毘沙門堂 上越市, 春日神社 佐渡郡新穂村 西蒲原郡弥彦村, 弥彦神社	10月18日 3月3日 9月16日 6月24日 11月1日	
富山	◎越中の稚児舞(熊野神社) " (加茂神社) " (越中の舞楽(明日)) ◎高岡御車山祭の御車山行事	婦負郡婦中町中名 射水郡下村加茂 下新川郡宇奈月町 高岡市, 関野神社	8月25日 9月4日 4月18日 5月1日・(9月3・4日)	
	○魚津浦のタテモン行事 ○五箇所山の歌と踊 ○利賀のはつりま行事	魚津市 東礪波郡 東礪波郡利賀村	8月7日(8日) 4月23・24日, 8月15日ほか 1月15日	
富山	おわら風の盆 八尾曳山祭	婦負郡八尾町, 町営グラウンド 婦負郡八尾町, 八幡社	9月1日(～3日) 5月5日	
	◎青柏祭の曳山行事 ◎奥能登のあえのこと	七尾市, 大地主神社 珠洲市, 同輪島市, 同珠洲郡内浦町, 同鳳至郡能都町, 穴水町, 門前町及び柳田村	5月13日(～15日) 2月9日・12月5日	
石川	◎尾口のでくまわし ◎熊甲二十日祭の仲旗行事	石川郡尾口村, 鶴来町 鹿島郡中島町	2月上～中旬 9月20日	

石川	◎能登のアマメハギ " " ○鶴川省原神社のイドリ祭り ○加賀万才 ○白峰のかんこ踊(白山開山祭)	珠洲郡内浦町 鳳至郡門前町 輪島市 鳳至郡能都町・穴水町 金沢市油車 石川郡白峰町	節分(2/3) 1月6日 1月14日(20日) 11月1日(～8日) 不定期 7月17日	
	加賀百万石祭 九谷茶碗まつり 九谷祭り 御陣乗大放 竹割り祭り(竹割神事) 蛸島早船狂言 平国祭(おいで祭) 富来八朔祭(くじり祭) 蓮如忌	金沢市 能美郡寺井町, 狹野神社・九谷神社 能美郡寺井町寺井, 九谷神社 輪島市, 奥津姫神社 加賀市, 石部神社 珠洲市, 高倉彦神社 羽咋市, 気多大社 羽咋郡富来町, 八幡神社・住吉神社 鳳至郡能都町, 光誓寺	6月12日(～14日) 5月3日 6月4日(5日) 7月31日(8月1日) 2月10日 9月10日 3月18日(～23日) 8月31日 4月23日(～26日)	
福井	◎敦賀西町の綱引き ◎水海の田楽・能舞 ◎睦月行事 ○宇波西神社の神事芸能 ○糸崎の仏舞 ○国山の神事 ○野大坪万歳 ○日向の綱引き行事 ○六斎念仏	敦賀市 今立郡池田町, 鷺甘神社 丹生郡清水町 三方郡三方町気山 福井市糸崎町 福井市国山町 武生市味真野町 三方郡美浜町 遠敷郡上中町三宅・瓜生	1月15日 2月15日 2月14日 4月8日 4月18日 1月3日 正月 1月15日 8月13日(14日)	
	勝山左義長 気比神宮祭 神明神社祭 放生会 三国祭 若狭のお水送り	勝山市 敦賀市 福井 小浜市, 八幡神社 坂井郡三国町桜谷, 三国神社 小浜市(八幡社, 神宮寺, 若狭神宮)	2月24日(25日) 9月4日 5月9日 9月14日 5月19日(～21日) 3月2日	
山梨	◎天津司舞 ○一之瀬高橋の春駒 ○無生野の大念仏 信玄公まつり 吉田の火祭	甲府, 諏訪神社・天津司神社 塩山市 南都留郡秋山村 甲府市 富士吉田市, 富士浅間神社	4月10日に近い日曜 1月14日 1月16日・8月16日 4月12日前後の土・日 8月26日	
	◎雨宮の神事芸能 ◎天竜村の霜月神楽(お潔め祭) " (冬祭) " (大河内の例祭) ◎遠山の霜月神楽 ◎雪祭	更埴市, 雨宮坐日吉神社 下伊那郡天竜村, 天照皇大神社 下伊那郡天竜村, 諏訪神社 下伊那郡天竜村, 池大神社 下伊那郡上村・南信濃村 下伊那郡阿南町新野, 伊豆神	4月29日 1月3日 1月4日(5日) 1月5日 12月上旬～中旬 1月14日(15日)	





京 都	あがた祭り(県祭り)	宇治市, 県神社・宇治神社	6月5日	(嵯峨大念 仏狂言)
	愛宕千日詣り	京都, 愛宕神社	7月31日(8月1日)	
	嵐山三船祭	京都, 車折神社	5月第3日曜	
	嵐山の万燈流し	京都, 臨川寺	8月16日	
	嵐山もみじ祭	京都, 渡月橋畔	11月第2日曜	
	石清水八幡宮祭 (石清水祭)	綴喜郡八幡町, 石清水八幡宮	9月15日	
	牛祭	京都, 広隆寺	10月12日	
	御神楽祭	京都, 石清水八幡宮	12月15日	
	おけらまいり	京都, 八坂神社	12月31日	
	お松明(涅槃会)	京都, 清凉寺(嵯峨釈迦堂)	3月15日	
	御田植祭	京都, 松尾大社	7月23日	
	祇園祭	京都, 八坂神社	7月1日(～29日)	
	北野瑞儀祭	京都, 北野天満宮	10月4日	
	吉祥天開扉	相楽郡, 浄瑠璃寺	10月1日(～11月30日)	
	北野祭	京都, 北野天満宮	8月4日	
	京都蕨能	京都, 平安神宮	6月1日(2日)	
	鞍馬の火祭	京都, 由岐神社	10月22日	
	競馬(賀茂競馬)	京都, 上賀茂神社	5月5日	
	虚空蔵十三詣り	京都, 嵯峨法輪寺	4月13日	
	五大力尊仁王会	京都, 醍醐寺	2月23日	
時代祭	京都, 平安神宮	10月22日		
白川女花行列	京都, 北白川天神宮	4月6日		
千燈供養(虫供養)	京都, 化野念仏寺	8月23日(24日)		
千日詣り	京都, 清水寺	8月10日		
梅花祭	京都, 北野天満宮	2月25日		
竹伐り祭り (竹伐り会)	京都, 鞍馬寺	6月20日		
大文字送り火	京都	8月16日		
大根焚き (鳴滝大根焚き)	京都, 了徳寺	12月9日(10日)		
裸踊	京都, 法界寺	1月14日		
花供養	京都, 鞍馬寺	4月18日(～24日)		
東本願寺報恩講	京都市	11月22日(～28日)		
伏見稲荷火焚祭	京都	11月8日		
報恩講	京都, 西本願寺	1月9日(～16日)		
松尾大社神幸祭	京都	4月第4日曜		
松尾大社例大祭	京都	4月2日		
万燈会	京都, 六波羅蜜寺	8月8日(～10日)		
宮津燈籠流し	京都府宮津市	8月16日		
妙法写経会	京都, 鞍馬寺	8月1日(～3日)		
八瀬赦面地踊り	京都, 秋元神社	10月11日		
◎御田植祭	大阪, 住吉大社	6月14日		
◎聖霊会の舞楽	大阪, 四天王寺	4月22日		
◎上神谷のおどり	堺市, 櫻井神社	10月5日		
愛染祭(ゆかた祭)	大阪, 四天王寺	6月30日(～7月2日)		
生国魂神社夏祭	大阪	7月12日		

大 阪 府	今宮十日戎 呉服祭 四天王寺彼岸会 住吉祭 千日詣り 天満宮天神祭 どやどや(修正会) 彼岸会 火渡祭 踏歌神事 枚岡神社秋祭 水無瀬祭	大阪, 今宮戎神社 池田市, 呉服神社 大阪 大阪, 住吉大社 大阪, 四天王寺 大阪 大阪, 四天王寺 大阪, 四天王寺 堺市, 石津戎神社 大阪, 住吉大社 東大阪市 三島郡島本町広瀬, 水無瀬神宮	1月9日(～11日) 10月17日(18日) 9月21日 7月31日(8月1日) 8月9日 7月24日(25日) 1月14日 3月18日(～24日) 12月14日 1月4日 10月14日 12月7日	
	◎上鴨川住吉神社の神事舞 ◎但馬久谷の菫浦綱引き	加東郡社町 美方郡浜坂町	10月4日(5日) 6月5日	
	○青垣の翁三番叟 ○阿万の風流大踊・小踊 ○大杉のざんざこ踊 ○車大蔵神社の翁舞	氷上郡青垣町沢野, 八幡神社 三原郡南淡町阿万上町 養父郡大屋町 神戸	10月9日(10日) 1月・5月・9月の第1日曜 8月16日 1月14日	
	尻ひねり祭 湊川神社例祭(楠公祭) みなと祭	西宮市, 西宮神社 神戸 神戸	6月14日 5月24日(～26日) 10月21日(～22日)	
	◎春日若宮おん祭の神事芸能 ◎題目立	奈良, 春日大社 山辺郡都祁村大字上深川, 八柱神社	12月16日(～18日) 10月12日	
	◎十津川の大踊	吉野郡十津川村	8月13日(15日)	
	○翁舞 ○茅野のとんど ○阪本踊	奈良, 奈良豆比古神社 御所市, 吉祥草寺 吉野郡大塔村	10月8日 1月14日 4月29日・8月15・23日	
	○篠原踊 ○当麻寺練供養	吉野郡大塔村篠原, 天神社 北葛城郡当麻町	1月25日 5月14日	
	甘茶会 石上神宮祭(渡御祭) うちわまき 大茶盛り	奈良, 興福寺 天理市 奈良, 唐招提寺 奈良, 西大寺	4月3日 10月15日 5月19日 4月第2土・日/10月第2日曜	
	御田植式 鬼追式 鬼走り(修正会) 蛙飛び行事(蓮華会)	奈良, 春日大社 奈良, 興福寺西門堂 五条市, 念仏寺陀々堂 吉野郡吉野町, 金峰山寺蔵王堂 桜井市, 談山神社	3月15日 2月3日(節分) 1月14日 7月7日 10月11日	
嘉吉祭 春日祭(申祭) 春日万燈籠	奈良, 春日大社 奈良, 春日大社 "	3月13日 8月15日		

奈	吉祥会〔吉祥天開扉〕 御神火まつり(竊道祭)	奈良, 薬師寺 桜井市, 大神神社	1月1日(～15日) 元日
	神楽始め	奈良, 春日大社	1月3日
	笹酒まつり(光仁会)	奈良, 大安寺	1月23日
	聖武天皇祭 (聖武さん)	奈良, 東大寺大仏殿	5月2日
	神武さん	橿原市, 橿原神宮	4月3日
	聖霊会(お太子さま)	生駒郡, 法隆寺	3月22日(～24日)
	僧形八幡神座像開扉	奈良, 東大寺	10月5日
	薪能	奈良, 興福寺(12日)	5月11日(12日)
	談山神社幸祭	桜井市	4月15日
	奈良遷都祭	奈良, 奈良県庁前	3月21日(春分の日)
奈良西九条頭屋祭 (蛇まつり)	奈良, 倭文神社	10月16日	
二月堂修二会	奈良, 東大寺	3月1日(～14日)	
裸詣	桜井市, 長谷寺	1月9日	
花会式	奈良, 薬師寺	3月10日(～4月5日)	
良	橿原祭り(紀元祭)	橿原市, 橿原神宮	2月11日
	饗会式	奈良, 法華寺	4月1日(～7日)
	法会式と鬼追い	奈良, 薬師寺	4月5日
	牡丹まつり	桜井市, 長谷寺	4月20日(～5月19日)
	万燈籠	奈良, 春日大社	2月3日節分(8月15日)
	文殊院会式	桜井市, 安倍文殊院	3月25日(26日)
	文殊会	奈良, 興福寺	4月25日
	山焼き	奈良, 若草山	1月15日
	夢殿本尊開扉	生駒郡, 法隆寺	4月11日(～5月5日)
	夢殿本尊(救世観音)開扉	〃	10月22日(～11月3日)
吉野蔵王堂花供会式	吉野郡吉野町	4月11日(12日)	
吉野神宮祭	吉野郡吉野町	9月27日	
采女祭り	奈良, 猿沢池, 采女神社	8月15日(旧)	
開山忌(鑑真像開扉)	奈良, 唐招提寺	6月5日(～7日)	
吉祥天開扉	奈良, 薬師寺	10月20日(～11月10日)	
三枝まつり (ゆりまつり)	奈良, 率川神社	6月17日	
執金剛神開扉	奈良, 東大寺三月堂	12月16日	
だだ押し	桜井市, 長谷寺	2月14日	
多武峰談山神社秋祭り(けまり祭)	桜井市, 談山神社	11月2日 日曜	
二月堂お水取り	奈良, 東大寺	3月11日(13日の午前1時半すぎ)	
和歌山県	◎杉野原の御田舞	有田郡清水町杉野原	2月(隔年)
	◎那智の田楽	東牟婁郡那智勝浦町, 熊野那智大社	7月14日

和歌山県	◎花園の御田舞	伊都郡花園村	1月8日・1月18日(旧)
	○大瀬の太鼓踊	東牟婁郡本宮町	8月13日(～15日)
	○御坊の奇風祭 〔※戯風踊〕	御坊市, 小竹八幡神社	10月4日(5日)
	○古座の御舟祭	東牟婁郡古座町, 河内神社	7月23日(～25日)
	○田楽	有田郡広川町上中野, 広八幡神社	10月1日
	神倉神社御灯祭 (火祭り)	新宮市	2月6日
	鐘供養	日高郡川辺町鐘巻, 道成寺	4月27日
	熊野速玉神社祭 (御船祭)	新宮市, 熊野速玉大社	10月15日(16日)
	熊野本宮例大祭	東牟婁郡本宮町	4月13日(～15日)
	高野山御影供	和歌山県伊都郡高野町, 金剛峯寺	3月20日～21日(旧)
粉河祭	那賀郡粉河町, 粉河産土神社	7月最終土・日	
丹生社笑祭 (笑祭り)	日高郡川辺町, 丹生神社	10月10日	
島	◎因幡の菖蒲綱引き	気高郡気高町宝木, 水尻, 青谷町青谷及び岩美郡岩美町大羽尾	(旧) 5月5日の近くの土・日
	○越路の雨乞踊	鳥取市越路	不定
取	○大和佐美命神社の獅子舞	鳥取	10月20日の後の日曜
	流し籠	八頭郡用瀬町	3月3日(旧)
島根	◎大元神楽	邑智郡, 那賀郡及び江津市	秋
	◎隠岐国分寺蓮華会舞	隠岐郡西郷町大字池田	4月21日
	◎佐陀神能(御座替祭)	八東郡鹿島町大字佐陀宮内, 佐太神社	9月25日
	○青榮垣神事	八東郡美保岡町, 美保神社	4月7日
	○隠岐の牛突き(の習俗)	隠岐郡都万村, 五箇村, 西郷町	3月～10月
	○鶯舞	鹿足郡津和野町, 弥栄神社	7月20日(～27日)
	○島後久見神楽	隠岐郡五箇村久見, 伊勢命神社	7月25日(26日)
	○櫻の屋神楽	大原郡木次町, 加茂神社	11月10日ほか
	○日吉神社の庭の舞	隠岐郡西ノ島町大字浦郷	(旧) 9月9日
	○益田の糸あやつり人形	益田市喜阿弥	不定
○美田八幡宮の田楽	隠岐郡西ノ島町大字美田	9月15日(隔年)	
島根	出雲大社大祭	簸川郡大社町	5月14日(～16日)
	出雲大社涼殿祭	簸川郡大社町	6月1日
	出雲大社例大祭	〃	5月14日(～16日)
	古伝新嘗祭	島根, 出雲大社	11月23日
	福神祭	簸川郡大社町, 出雲大社	(旧) 1月1日
	松江天神祭	松江, 天満宮	7月25日
	諸手船神事	八東郡美保岡町, 美保神社	12月3日
安来月の輪神事	安来市, 糺神社	8月14日(～17日)	
◎白石踊	笠岡市	8月13日(～15日)・14日(～16日)	

岡	◎備中神楽	川上郡, 阿哲郡, 小田郡, 後月郡, 上房郡, 新見市, 総社市, 高梁市	不定		
	山	○大宮踊	真庭郡八束村, 川上村	8月13日(～18日)	
		○唐子踊と大刀踊	邑久郡牛窓町, 御霊社	10月第4日曜	
		○吉備津彦神社の御田植祭	岡山	8月2日(3日)	
		○千屋代城のとうや行事	新見市大字千屋小字代城	(旧) 9月19日	
		○ヒツタカ	笠岡市	(旧) 5月5日に近い土曜	
	県	○布施神社のお田植祭	苫田郡富村, 布施神社	5月5日	
		○美作の護法祭	久米郡中央町	(旧) 7月14日	
		西大寺会陽 (裸まつり)	岡山, 西大寺観音院	2月第3土曜	
		七十五躰祭 (御勝据祭)	岡山市, 吉備津神社	5月第2日曜	
広		◎比婆の荒神神楽	比婆郡東城町	6月第1日曜	
	◎壬生の花田植	山県郡千代田町	10月19日に近い日曜		
	島	○久井稲荷神社の御当	御調郡久井町	10月15日近くの土曜	
		○阿刀神楽	広島市安佐南区沼田町	又は日曜	
		○大山供養田植	比婆郡東城町大字塩原	不定期	
	県	○新庄のはやし田	山県郡大朝町新庄	6月～7月	
		○はやし田	高田郡高宮町大字原田	6月10日前後	
		○本地の花笠踊	山県郡千代田町本地	6月第2日曜	
		○弓神楽	甲奴郡上下町井永	1月1日(～15日)	
		蔽島鎮火祭	広島, 蔽島神社	12月31日	
尾道吉和踊		尾道市, 浄土寺	8月7日		
管絃祭		広島, 蔽島神社	(旧) 6月17日		
山	白神神社祭	広島	10月29日		
	玉取祭	広島, 蔽島神社	(旧) 7月18日		
	桃花祭	広島, 蔽島神社	4月15日(～18日)		
	べっちゃ祭	尾道市, 一宮神社	11月3日		
	◎岩国行波の神舞	岩国市	4月2・3日, 10月14日		
	口	◎周防祖生の柱松行事	玖珂郡周東町	8月15日(19・23日)	
		○赤崎神社奉納芸能 (赤崎祭・南条祭)	長門市, 赤崎神社	9月10日	
		○岩国南条踊	岩国市, 吉香神社	10月第2日曜	
		○蓋井島「山の神」神事	山口県		
		○八代の花笠踊	熊毛郡熊毛町八代	8月26日	
県	御島喰神事	下松市, 鷲頭寺(妙見宮)	2月9日		
	先帝祭	下関市, 赤間神宮	5月3日(4日)		
	防府天満祭り	防府市, 防府天満宮(松崎神社)	11月13日		
徳島県	◎西祖谷の神代踊	三好郡西祖谷山村, 天満神社	(旧) 6月25日		
	○阿波の人形芝居	徳島市伊賀町	8月, 不定		
	○曾我氏神社神踊	名西郡石井町	(旧) 7月20・21日		

香	阿波踊り	徳島	8月15日			
	川	◎綾子踊	仲多度郡仲南町佐文	8月		
		◎滝宮の念仏踊	綾歌郡綾南町, 滝宮天満神社	8月25日		
		お田植祭	仲多度郡琴平町, 金刀比羅宮	4月15日		
		蹴鞠	仲多度郡琴平町, 金刀比羅宮	5月5日・7月7日		
		金刀比羅宮桜花祭	仲多度郡琴平町	4月10日		
	県	金刀比羅宮大祭 (御大祭)	仲多度郡琴平町	10月9日(～11日)		
		虫送り	小豆郡, 小豆島	7月2日		
		◎伊予神楽	宇和島市・北宇和郡	4月23日		
		○興居島の船踊	松山市	10月6日		
○窪野のハツ鹿踊		東宇和郡城川町窪野, 三滝神社	4月17日			
愛媛	○増田の花取踊	南宇和郡一本松町, 安養寺	(旧) 7月11日			
	宇和津彦神社祭	宇和島市	10月28日(29日)			
	大山祇一人角力	越智郡大三島町, 大山祇神社	(旧) 5月5日			
	和霊神社夏祭	宇和島市	7月23日(24日)			
	高	◎吉良川の御田祭	室戸市	5月3日(隔年)		
◎土佐の神楽(池川) (津野山) (本川)		香川郡池川町, 池川神社 高岡郡樽原町, 三島神社 土佐郡本川村	11月22日 11月10日 11月～12月	土佐の神楽は左記のほかに, 香美郡物部村, 長岡郡大豊村, 高岡郡東津野村, 幡多郡十和村にある。		
知		○秋葉祭	高岡郡仁淀村, 秋葉神社	(旧) 1月16日(～18日)		
		○シットロト踊り	室戸市	(旧) 6月10日		
		○手結のつんつく踊	香美郡夜須町	(旧) 9月26日(～30日)		
県		お城まつり	高知	3月20日(～4月7日)		
		よさこい祭り	高知	8月9日(～11日)		
福		◎幸若舞	山門郡瀬高町大字大江, 天満宮	1月20日		
		岡	◎戸畑祇園大山笠行事	北九州市戸畑区	7月13日(～15日)	
			◎博多祇園山笠行事 (追い山)	福岡, 櫛田神社	7月15日	
	◎八幡古表神社の傀儡子の舞と相撲	築上郡吉富町大字小太丸	8月10日(～12日)			
	◎八女福岡の燈籠人形	八女市, 福岡八幡宮	9月秋分の日			
	◎志賀瀬神社神幸祭の芸能	福岡市東志賀町	(旧) 9月8・9日			
	県	○感応楽	豊前市四郎丸, 大富神社	4月30日・5月1日		
		○等覚寺の松会	京都府刈田町大字木谷, 白山多賀神社	4月19日		
		○博多松ばやし	福岡市博多区上川端町	5月3日(4日)		
	○はんや舞	八女郡星野村, 麻生神社	9月18日			

福岡県	うそ替え(追儺祭) 小倉祇園祭 (祇園太鼓)	太宰府市, 太宰府天満宮 北九州市, 八坂神社	1月7日 7月10日(～12日)	
	御田祭 香椎宮祭 久留米高良祭 (高良ぐんち)	田川郡添田町, 英彦山神宮 福岡 久留米市, 高良神社	3月15日 10月29日 10月9日	
	さつき大祭 太宰府天満宮大祭 玉取祭(玉せせり) 博田どんたく (※松囃子)	福岡, 宮崎宮 太宰府市 福岡, 宮崎宮 福岡	5月28日 9月22日(23日) 1月3日 5月3日(4日)	
	英彦山神社祭 放生会 宗像秋祭	田川郡添田町 福岡, 宮崎宮 宗像郡玄海町田島, 宗像大社	9月28日 9月15日(～18日) 10月1日(～3日)	
	◎唐津くんちの曳山行事 ◎竹崎観世音寺修正会 鬼祭 ◎武雄の荒踊	唐津市, 唐津神社 藤津郡太良町大浦 武雄市(松尾神社), (正一位神社), (八幡神社)	11月2日(～4日) 1月5日(6日) 9月23日	
	◎四阿屋神社の御田舞 ◎音成の面浮立 ◎川原狂言 ◎白鬚神社の田楽 ◎高志の狂言 ◎府招の浮立 ◎佐賀松原神社祭	栖市牛原町 鹿島市 藤津郡太良町大字多良字川原 佐賀 神崎郡千代田町高志 伊万里市 佐賀, 佐嘉神社・松原神社	10月20日近くの日曜 9月第3土・日曜 9月15日(16日) 10月18日(19日) 10月13日 10月10日 10月12日	
	◎下崎山のヘトマト行事 ◎長崎くんちの奉納踊 ◎平戸神楽 ◎壱岐神楽	福岡市 長崎, 諏訪神社 平戸市 壱岐郡郷之町, 勝本町芦辺町 及び石田町	1月16日 10月7日(～9日) 10月26日・11月15日 10月14日・12月20日	
	◎大島須古踊 ◎大村の神田踊 ◎大村の寿古踊 ◎オーモンデー ◎北松浦の収穫儀礼 (きねかけ祭り) " (お蔵入れ) ◎黒丸踊 ◎下五島大宝郷の砂打ち ◎野母浦祭(※盆踊) ◎対馬美津島の盆踊り	北松浦郡大島町 大村市沖田郷 " 寿古郷 南松浦郡三井楽町鏡織島 北松浦郡江迎町・吉井町 " 大村市 南松浦郡玉之浦町, 言代主神社 西彼杵郡野母崎町野母 下県郡美津島町	11月3日(3年に1回) " (旧)7月15日 10月28日 12月10日 不定 (旧)9月29日 (旧)7月15日 (旧)7月14日～15日	

長崎県	◎対島の亀卜習俗 ◎平戸じゃんがら	長崎県 平戸市	8月18日	
	軍越神事 精霊船(精霊流し) 中国盂蘭盆会	壱岐郡 長崎, 崇福寺	1月17日 8月15日 (旧)7月26日～28日	
	長崎べ(べ)ーロン 長崎港祭り (べーロン競争) 平戸おくんち	長崎 長崎 平戸市, 亀岡神社	6月(～7月) 4月27日(～29日) 10月23日(～25日)	
	◎御田植祭	阿蘇郡一の宮町, 阿蘇神社	7月28日(29日)	
	◎菊池の松囃子 ◎球磨神楽 ◎古代踊 ◎中江の岩戸神楽	菊池市 人吉市及び球磨郡 八代郡泉村大字久連子 阿蘇郡波野村大字中江	10月12日(13日) 秋 9月15日 4月1日・9月31日 8月27・28日	
	◎吉原の岩戸神楽 ◎長野岩戸神楽 ◎早尾のスッキョウ行事 八代妙見祭	" 南小国町満願寺字吉原 阿蘇郡長陽村大字長野 八代郡宮原町大字早尾 八代市, 八代神社	9月13日・9月20日 5月20日・10月27日 1月 11月18日	
	◎古要神社の傀儡子の舞と相撲 ◎修正鬼会	中津市大字伊藤田字洞ノ上 豊後高田市, 天念寺 東国東郡国東町, 成仏寺 " 岩戸寺	10月12日 (旧)1月7日 (旧)1月5日 (奇数年) (旧)1月7日 (偶数年)	
	◎国東のとうや行事	西国東郡大田村大字永松 岡村大字沓掛	(11月13日～20日 9月25日～10月19日)	白鬚田原神社どぶろく祭もこれに含まれる。
	◎鶴崎踊 ◎吉弘楽 鶴来社ケベス祭 神幸祭(けんか祭) 白鬚田原神社のどぶろく祭 石仏火祭り 鳩替祭	大分市鶴崎 東国東郡武蔵野町吉弘 東国東郡国見町 宇佐市, 宇佐神宮 西国東郡大田村 白杵市 宇佐市, 宇佐神宮	8月盆の土・日 (旧)6月13日 10月14日 7月31日(～8月2日) 10月18日 9月3日 3月18日	
	◎五ヶ瀬の荒踊 ◎高千穂の夜神楽 ◎米良神楽	西臼杵郡五ヶ瀬町 西臼杵郡高千穂町, 高千穂神社 西都市, 銀鏡神社	9月29日(30日) 12月～2月 12月14日に近い土・日	
◎椎葉の神楽 ◎下水流の白太鼓踊 ◎高鍋神楽	東臼杵郡椎葉村 西都市南方字下水流 児陽郡高鍋町, 木城町, 川南	(旧)11月 (旧)8月1日 11月17日・19日 (旧)12月2日		

V 地域活動

宮	○畷川の神舞	町及び都農町 西諸県郡高原町大字蒲牟田字 畷川	ほか 12月第2土曜	
崎	鶴戸神宮大祭	日南市	2月1日	
県	西都原古墳祭 〔※日太鼓踊り〕	宮崎県西都市	11月1日	
鹿	◎秋名のアラセツ行事	大島郡龍郷町	(旧) 8月の初めの丙 の日	
	◎市来の七夕踊	日置郡市来町	8月5日～11日の間 の日曜	
	◎諸鈍芝居(十五夜祭)	大島郡瀬戸内町、大鈍神社	(旧) 8月15日	
	◎飯島のトシドン	薩摩郡下飯村	12月31日	
	◎南薩摩の十五夜行事	枕崎市・川辺郡知覧町・坊津町	(旧) 8月15日	
児	○大浦町の抱齋踊	川辺郡大浦町宮園及び永田	2月11日	
	〃	川辺郡大浦町越後	4月3日	
	○吉左右踊・太鼓踊	始良郡加治木町西別府	8月16日(17日)	
	○薩摩の水からくり	川辺郡知覧町、豊玉姫神社	7月9日	
	〃	加世田市、竹田神社	7月23日	
	○十五夜踊	大島郡与論町城	(旧) 8月15日	
	○種子島大踊	西之表市現和	3月27日・10月27日	
	○種子島宝満神社のお 田植祭			
島	大隅八幡社祭 (大隅弥五郎どん祭)	噌嶺郡大隅町	11月5日	
	御田植祭り	始良郡霧島村、霧島神宮	3月11日	
	おはら祭	鹿児島	11月2日(3日)	
県	八坂神社祭 (鹿児島祇園祭)	鹿児島、八坂神社	7月24日(25日)	
沖	◎竹富島の種子取	八重山郡竹富町	(旧) 10月前後の甲 申の日から10日間	
	◎多良間の豊年祭	宮古郡多良間村	(旧) 8月12日～13 日	
	◎安田のシスダ	国頭郡国頭村	(旧) 7月の初亥の 日	
組	○伊江島の村踊	国頭郡伊江村	11月の日曜	
	○西表島祖内・星立の 節祭	八重山郡竹富町字西表	8月～9月	
	○勢理客の獅子踊	浦添市勢理客	(旧) 8月15日	
	○那覇安里のフェース シマ	那覇、安里八幡宮	(旧) 9月9日	安里八幡大 まつり10/9
	○野原のマストリヤー	宮古郡上野村	(旧) 8月15日	
県	○宮古のパーントゥ	平良市宇島尻	9月(旧)上旬	
	〃	宮古郡上野村野原	(旧) 12月の最後の 丑	

VII マスメディア

## ① 出版, 新聞

＊ 我が国の文化の多様性を反映して、書籍及び雑誌は多種多様なものが数多く出版されている。

書籍及び雑誌の発行部数の年次別推移を見てみると、昭和61年に「書籍」が約13億冊、「雑誌」が約38億冊発行されており、昭和51年に比して「書籍」が約1.5倍に、「雑誌」が約1.6倍に増加している(①)。

また、昭和61年の実売総金額は「書籍」が約7,200億円、「雑誌」が約1兆800億円であり、昭和51年のそれぞれ約1.3倍、約2.0倍であり、特に「雑誌」の売上げが急増している(②)。

書籍のうち文学関係の新刊書籍の出版数は、昭和60年で約6,600点であり、このうち約5,000点が日本文学関係である。日本文学関係の書籍が占める割合は約77%である(③)。

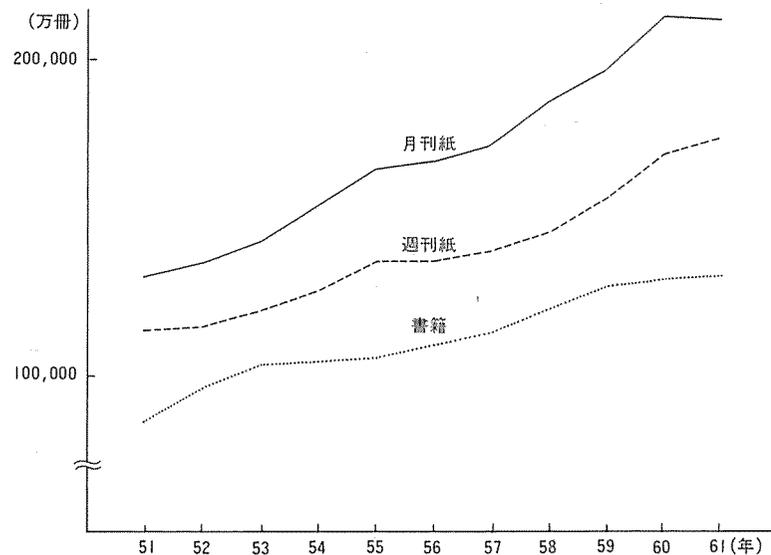
雑誌のうち同人雑誌は、昭和62年で約3,000点発行されており、このうち「詩誌」が最も多く約38%を占め、次いで「俳誌」が約25%、「短歌誌」が約19%、「小説・評論他」が約18%となっている。近年、特に「詩誌」の増加が著しい(④)。

新聞は昭和62年で約5,000万部が発行されており、緩やかな増加傾向にある(⑤, ⑥)。

＊ 読書時間を曜日別に見ると、「新聞」では平日、土曜日、日曜日の順に短くなる傾向があるのに対し、「雑誌・本」では逆に平日、土曜日、日曜日の順に長くなる。読書時間を年次別に見ると、昭和45年から昭和50年、55年にかけて増加してきたが昭和60年には若干減少している(⑦)。

総務庁の調査によると、読書に関する1世帯の年間支出額は、「新聞」では増加しているが「雑誌・週刊誌・書籍等」では逆に若干減少傾向にある(⑧)。

① 書籍雑誌発行部数年次別推移



(資料) 出版ニュース社「出版年鑑」

② 書籍雑誌売上総金額

年	書籍 億円	雑誌 億円
51	5,335	5,327
52	5,769	5,635
53	6,259	6,035
54	6,642	6,654
55	6,874	7,667
56	6,908	7,905
57	7,031	8,413
58	7,079	8,885
59	6,978	9,407
60	7,123	10,295
61	7,157	10,829

(注) 雑誌は、月刊紙、週刊紙である。  
(出典) 出版ニュース社「出版年鑑」

③ 文学関係新刊書籍年間出版数の推移

年	出版数	うち 日本文学関係
50	4,973	4,011
51	5,029	3,990
52	5,240	4,032
53	5,516	4,327
54	5,505	4,315
55	5,571	4,321
56	5,822	4,534
57	5,993	4,775
58	6,505	4,933
59	6,290	4,870
60	6,610	5,063

(資料) 出版ニュース社「出版年鑑」

④ 全国同人雑誌発行状況

年	小説・ 評論他	詩誌	短歌誌	俳誌	計
44	540	253	458	551	1,802
49	467	686	517	681	2,351
55	524	710	494	621	2,349
62	542	1,120	557	747	2,966

(出典) (社)日本文芸家協会「文芸年鑑」  
44年12月調 1970年版, 49年12月調 1975年版  
55年1月調 1980年版, 62年1月調 1987年版

⑤ 我が国の新聞の発行部数

各年10月	昭和41年	50年	60年	61年	62年
発行部数(万部)	3,094	4,051	4,823	4,856	4,983

(注) 発行部数は朝夕刊セットを各1部として計算  
(出典) 日本新聞協会「日本新聞年鑑」

⑥ 各国の日報新聞発行部数

国 別	発 行 部 数			
	調 査 年 点	数	総数 (万部)	千人当たり(冊)
カナダ	1984	112	554	220
アメリカ	"	1,687	6,326	268
フランス	"	101	1,160	212
イギリス	"	108	2,321	414
ソ 連	"	724	11,610	422
西ドイツ	1982	368	2,510	408
イタリア	"	79	463	82

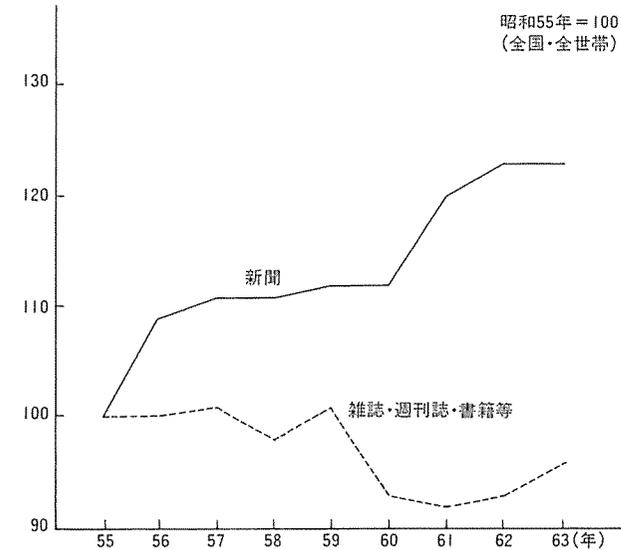
(資料) ユネスコ「ユネスコ文化統計年鑑 1986」  
 ユネスコ「ユネスコ文化統計年鑑 1985」

⑦ 読書時間の変化

年 度	平 日				土 曜 日				日 曜 日			
	45	50	55	60	45	50	55	60	45	50	55	60
全員平均時間	30分	32	36	35	27	35	37	35	31	34	40	36
行為者率	53%	58	61	60	47	56	59	57	46	51	58	54
行為者平均時間	56	55	1.00	58	56	1.02	1.03	1.01	1.07	1.06	1.09	1.06
新 聞	全 員 平均時間	19分	20	21	20	15	20	20	18	15	17	16
	行為者率	44%	50	50	47	37	45	48	45	35	40	40
雑 誌	全 員 平均時間	11分	12	15	15	12	15	17	17	16	16	20
	行為者率	—%	20	24	27	—	21	24	24	—	21	25
本	行為者平均時間	—	1.01	1.02	56	—	1.11	1.10	1.09	—	1.20	1.21

(資料) NHK世論調査所「国民生活時間調査」昭和61年

⑧ 1世帯平均年間書籍支出額



(資料) 総務庁「家計調査年報」昭和63年

## ② テレビ、レコード、ビデオ等

＊ テレビ番組は、民間放送では1日平均18時間45分放送されており、そのうち「娯楽」番組が最も多く半数近くを占めている。次いで「教養」「報道」「教育」番組の順である。NHKでは、「総合」テレビ、「教育」テレビとも1日平均18時間放送されている。「総合」テレビでは4割近くが「報道」番組であるのに対し、「教育」テレビでは「教育」番組が8割弱を占めている(①)。

また、ラジオ番組は、民間放送では1日平均21時間59分放送され、その6割以上が「娯楽」番組である。他方、NHKの1日平均の放送時間は、民間放送に比べて若干短く、18～19時間である。NHK第1ラジオは「報道」番組が最も多く、同第2ラジオ及び同FMラジオはそれぞれ「教育」「教養」番組を中心に放送している(②)。

近年では、テレビ・ラジオ等による芸術公演の放映が次第に多く行われるようになってきているが、NHKについてみるとオペラ公演の関東地区におけるテレビ平均視聴率は、昭和58年に0.51%であったものが昭和63年には1.27%に上昇するなど、着実に高まってきている(③)。

＊ 文化関係機器の普及率は、昭和63年で「テレビ」が99%、「ラジオカセット(テープレコーダ)」が73%、「ステレオ」と「VTR」がそれぞれ50%を超えている。特に近年では、「VTR」や「CDプレーヤー」の普及率の伸びが著しい(④、⑤)。

オーディオソフトの新譜タイトル数の推移を見ると、CDの増加が著しく、これと対照的にレコードは減少している。ジャンル別では、「歌謡曲」「ポピュラー」が大幅に増加しており、「カラオケ」は減少している(⑥)。

ビデオカセットの発売タイトル数は年々増加しており、その4割以上を「劇映画(洋画)」が占める。次いで「劇映画(邦画)」、「アニメーション」の順である。他方、ビデオディスクの発売タイトル数は同じく「劇映画(洋画)」が最も多いが、次いで「カラオケ」「音楽(洋楽)」の順となっている(⑦)。

① テレビ番組の種類と放送時間

(7) 民間放送 (昭和62年1～3月民放103社平均)

1日平均 放送時間	番組別割合 (%)					
	報 道	教 育	教 養	娯 楽	広 告	そ の 他
18時間45分	17.5	12.0	24.3	44.5	0.8	0.9

(資料) 日本民間放送連盟調べ

(イ) NHK (東京) (昭和62年4月度)

1日平均放送時間		番組別割合 (%)			
		報道	教育	教養	娯楽
総合	18時間	39.4	13.6	25.9	21.1
教育	18時間	2.0	77.9	20.1	0

(資料) NHK調べ

② ラジオ番組の種類と放送時間

(7) 民間放送 (昭和62年1～3月民放70社平均)

1日平均 放送時間	番組別割合 (%)					
	報 道	教 育	教 養	娯 楽	広 告	そ の 他
21時間59分	13.0	6.1	18.3	61.5	0.8	0.3

(資料) 日本民間放送連盟調べ

(イ) NHK (東京) (昭和62年4月度)

1日平均放送時間		番組別割合 (%)			
		報道	教育	教養	娯楽
第1	19時間	43.2	1.4	30.4	25.0
第2	18時間30分	12.3	69.6	18.1	0
FM	18時間	14.1	4.2	42.1	39.6

(資料) NHK調べ

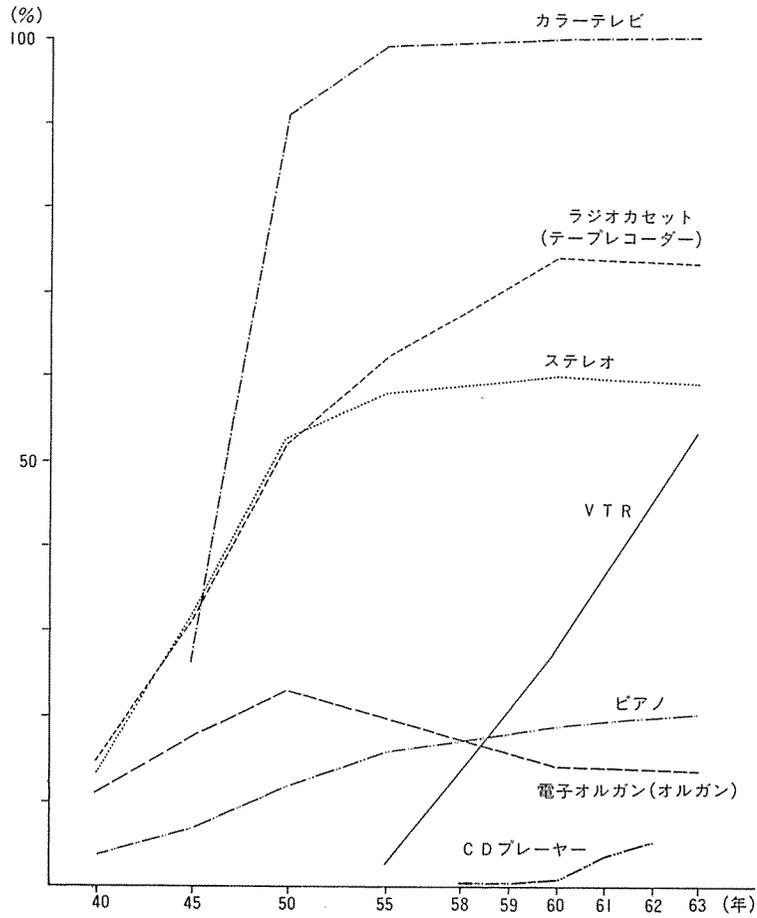
③ オペラTV視聴率 (関東地区)

年次	58年	59年	60年	61年	62年	63年
平均視聴率 (%)	0.51	0.59	0.40	0.51	0.76	1.27
視聴者世帯 (世帯)	6万	7万	5万	6万	9万	16万

(資料) NHK番組についての視聴率調査

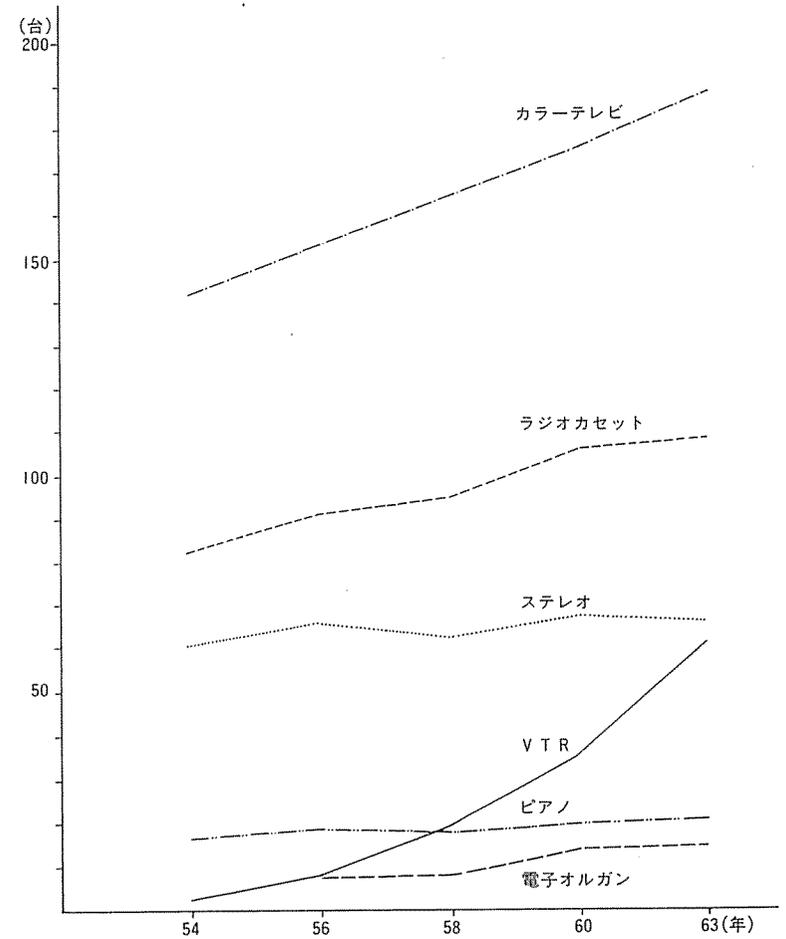
④ 文化関係機器の普及状況

(ア) 普及率



(注) 1 CDプレーヤー以外は、「消費動向調査」(経済企画庁)。各年とも3月現在の値。  
 2 CDプレーヤーに関しては、日本レコード協会の推定。各年とも12月末現在の推定値。

(イ) 保有数量 (100世帯当たり)



(資料) 経済企画庁「消費動向調査」

⑤ 再生機器生産高

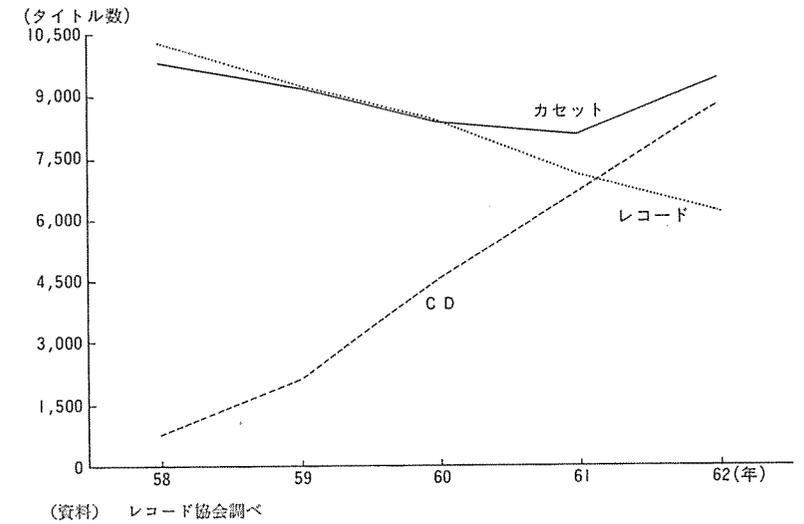
(昭和61年)

品 目	数量 (万台)	前年比 (%)	金額 (億円)	前年比 (%)
カラーテレビ	1,296	77	7,117	82
ビデオテープレコーダー	3,128	111	15,793	88
ビデオディスクプレーヤー	52	104	497	92
ラジオ付カセット	1,386	64	1,630	59
テーブデッキ	547	73	1,105	72
ヘッドホンステレオ	2,162	175	986	113
カラオケプレーヤー	47	77	175	70
カーステレオ	1,457	89	2,621	99
ステレオセット	280	104	1,326	155
レコードプレーヤー	557	78	512	69
C Dプレーヤー	735	178	1,996	132

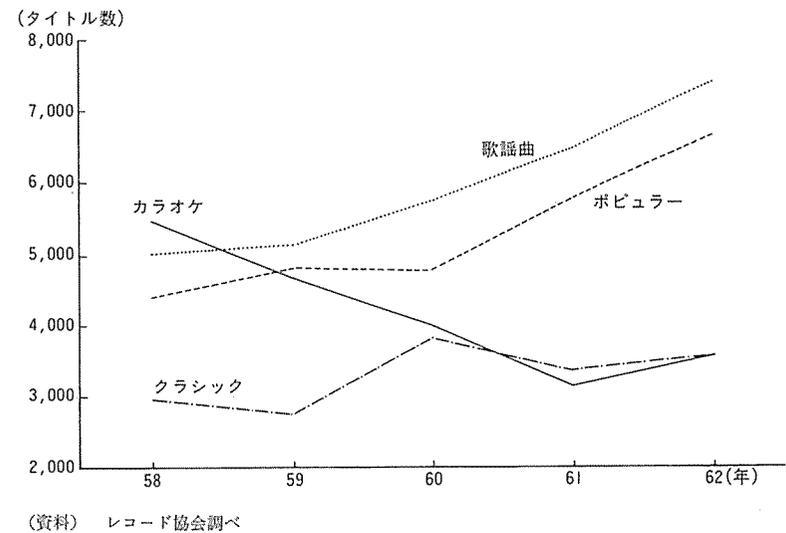
(注) 通産省機械統計による。輸出を含む総生産。

⑥ オーディオソフト新譜タイトル数の推移

(ア) ソフト別



(イ) ジャンル別



⑦ ビデオ・カセット、ビデオ・ディスクジャンル別発売タイトル数の推移

年 度	ビ デ オ カ セ ッ ト						
	56	57	58	59	60	61	62 (全体比)
劇 映 画 (邦画)	} 189	} 185	224	229	240	295	399 (11.8%)
劇 映 画 (洋画)			73	173	387	759	1,184 (41.2%)
ア ニ メーション			67	179	188	206	231 ( 8.0%)
子 供 向 け	31	49	60	54	126	86	151 ( 5.3%)
音 楽 (邦楽)	} 103	} 190	} 180	} 348	203	} 205	141 ( 4.9%)
音 楽 (洋楽)					198		107 ( 3.5%)
ビ デ オ カ ラ オ ケ			—	—	30	—	0 ( 0.0%)
イ メ ー ジ ビ デ オ			—	—	100	—	30 ( 1.0%)
芸 能 娯 楽	48	24	49	77	40	85	45 ( 1.6%)
成 人 娯 楽	245	249	147	155	61	105	128 ( 4.5%)
ス ポ ー ツ	126	51	83	111	174	85	63 ( 2.1%)
記 録 報 道	60	25	39	64	65	68	25 ( 0.9%)
趣味・教養・暮らしの知恵	130	97	96	81	178	119	111 ( 3.9%)
医学・保健衛生	2	13	16	27	23	62	58 ( 2.0%)
学 校 教 育	121	70	78	108	56	125	122 ( 4.2%)
企 業 産 業 教 育	18	52	43	33	60	49	69 ( 2.4%)
そ の 他		—	—	30	7	26	16 ( 0.6%)
計	1,073	1,007	1,155	1,669	2,136	2,275	2,875
会 社 数				37	39	44	43

年 度	ビ デ オ デ ィ ス ク				
	58	59	60	61	62 (全体比)
劇 映 画 (邦画)	8	46	122	148	128 ( 7.2%)
劇 映 画 (洋画)	878	169	365	587	556 (31.3%)
ア ニ メーション	7	33	137	164	115 ( 6.5%)
子 供 向 け	—	—	9	5	6 ( 0.3%)
音 楽 (邦楽)	1,212	} 976	154	} 392	111 ( 6.2%)
音 楽 (洋楽)	—		304		176 (11.0%)
ビ デ オ カ ラ オ ケ	—		554		413 (23.2%)
イ メ ー ジ ビ デ オ	—	—	59	—	60 ( 3.4%)
芸 能 娯 楽	—	9	9	539	4 ( 0.2%)
成 人 娯 楽	17	8	15	50	79 ( 4.4%)
ス ポ ー ツ	4	27	44	23	17 ( 1.0%)
記 録 報 道	—	2	44	26	40 ( 2.3%)
趣味・教養・暮らしの知恵	1	19	26	31	21 ( 1.2%)
医学・保健衛生	—	2	1	0	0 ( 0.0%)
学 校 教 育	—	13	5	13	9 ( 0.5%)
企 業 産 業 教 育	—	—	4	0	0 ( 0.0%)
そ の 他	—	—	23	68	23 ( 1.3%)
計	245	1,304	1,875	2,046	1,778
会 社 数	7	22	28	30	33

(資料) 日本ビデオ協会「ビデオソフト統計」



---

VIII 子供文化

---



## ① 小学生の生活習慣

＊ 小学生の生活習慣の形成状況を見ると、朝食をとること、外出のあいさつは9割以上の児童がほぼ習慣化している。これに続いて、朝の洗顔、食事のあいさつ、トイレ後の手洗い、衣服の準備、お客へのあいさつ、約束を守ること、遊び道具を買うことを我慢することを8割以上の児童が行っている。

これに対し、空かん拾い、けんかの仲裁、親にいていねいな言葉を使うこと、自分の運動靴の洗濯は5割以上の児童がほとんどしていない。さらに食事の後片づけ、辞書を引くこと、掃除の手伝い、朝一人で起床すること等は4割以上の児童がほとんど行っていない状況にある(①)。

また、生活技能の程度を見ると、タオルを絞ること、卵を割ること、蝶結びをすることは、6割以上の小学生がうまくできる。

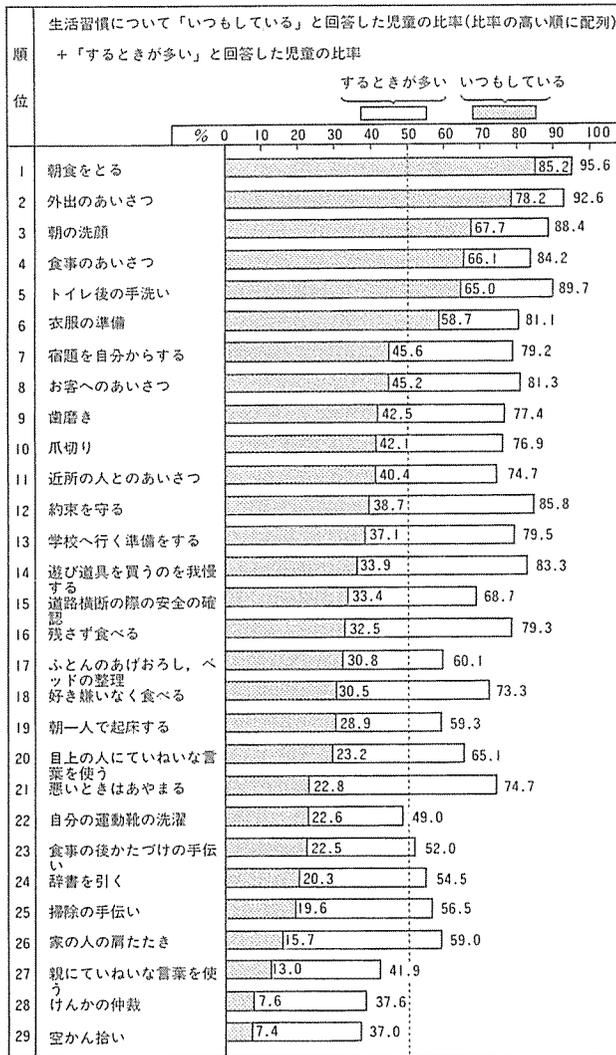
逆に、ボタン付け、道をきちんと教えること、小刀使用の鉛筆削り、花の首飾り作り、果物の皮むきがうまくできる小学生は、3割以下であり、果物の皮むき、花の首飾り作り、ボタン付け、ハンを正しく持つこと、たこあげ、鉛筆削り、魚とりは約1割の児童がほとんどできない状況にある(②)。

このように小学生は、日常の基本的習慣は比較的できるようになっているが、家事の手伝い等は親にまかせている傾向がみられる。生活技能についても、刃物を使うような、やり方によっては危険にみえる技能は比較的修得していないように考えられる。

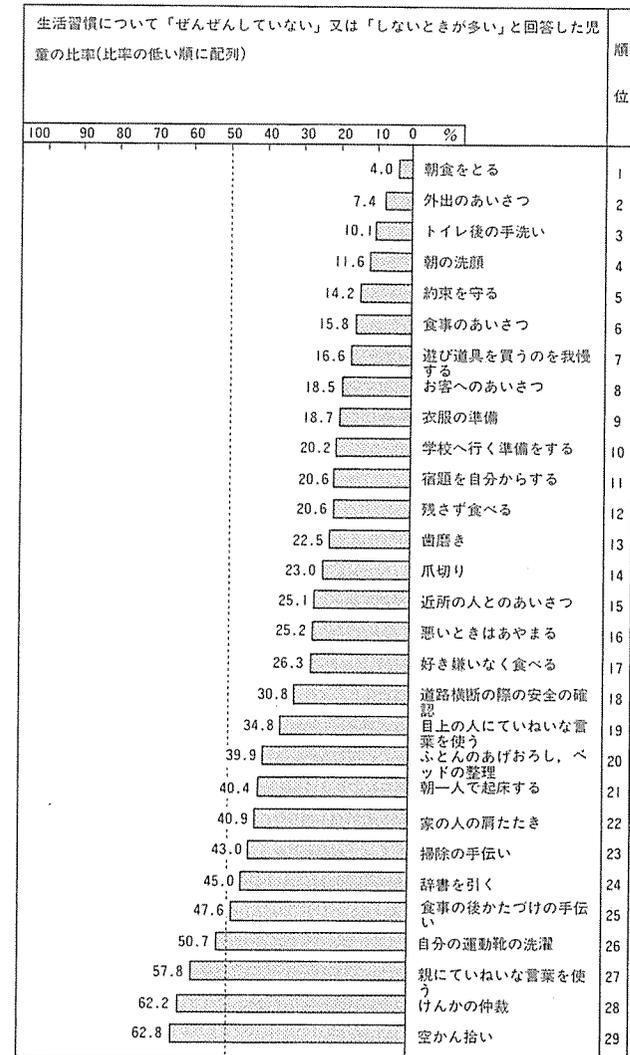
＊ 小学生の1日当たりのテレビ視聴時間は、3時間ぐらいが、全児童のうち29.3%と最も多く、4時間以上の児童も28.3%と多いが、ほとんど見ない子は3.8%と極めて少ない。

小学生の家庭での1日当たりの学習時間は、1時間ぐらいが32.4%と最も多く、30分ぐらいが27.2%となっている。また、ほとんどしない小学生も7.6%を占め、2時間以上の小学生も10.1%を占めている(③)。

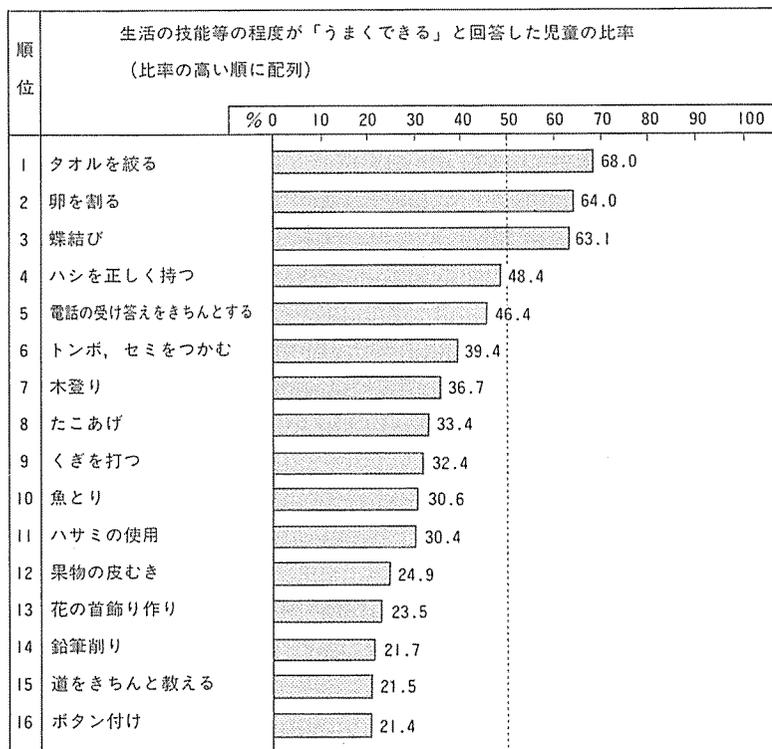
① 小学生の生活習慣の形成の度合い



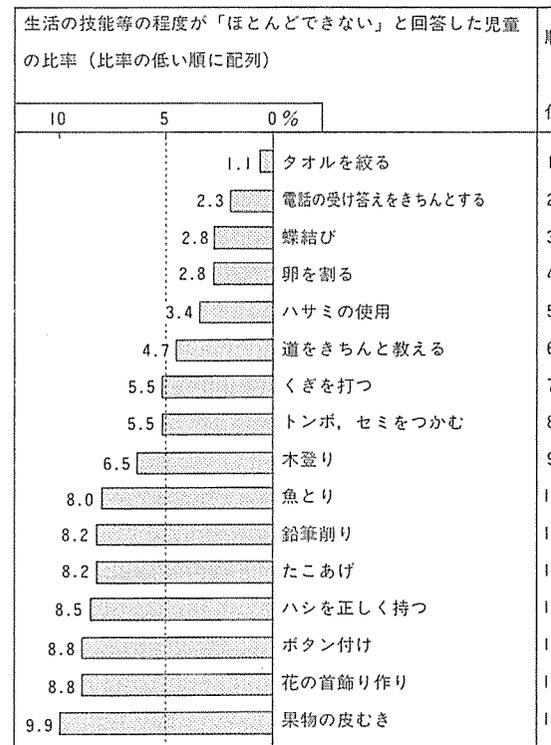
(出典) 文部省「児童の日常生活に関する調査」昭和59年



② 小学生の生活技能の程度



(出典) 文部省「児童の日常生活に関する調査」昭和59年



③ 小学生のテレビ視聴時間と家庭での学習時間割合

	テレビの視聴時間				
	ほとんど見ない	1時間くらい	2時間くらい	3時間くらい	4時間より長い
全児童数に占めるそれぞれの回答児童の比率 (%)	3.8	12.8	25.5	29.3	28.3

(出典) 文部省「児童の日常生活に関する調査」昭和59年

	家庭での学習時間				
	ほとんどしない	30分くらい	1時間くらい	1時間30分くらい	2時間より長い
全児童数に占めるそれぞれの回答児童の比率 (%)	7.6	27.2	32.4	22.3	10.1

## ② 児童生徒の学校外の学習状況

＊ 小学生，中学生の学校外の学習塾，けいごと等の学習活動は，小学生の男子のうち70.2％が学習しており，女子では82.0％，中学生男子では57.6％，女子で67.8％となっている。

小学生では，けいごとを学習する比率が高いが，中学生では学習塾で学習する比率が高くなる(①)。

学習者の比率を市町村の人口別で見ると，人口が多いほど，比率が高い。

また，昭和50年と昭和60年を比べると，小学生で8.5％，中学生で6.3％増加している(②)。

けいごとの学習者の都道府県別の比率では，小学生は滋賀県が82.8％と最も高く，次いで山梨県82.5％，岐阜県81.2％，群馬県81.0％，三重県80.7％の順となっている。低い順では，沖縄県45.4％，鹿児島県54.7％となっている。

中学生は京都府が42.7％と最も高く，次いで東京都34.5％，佐賀県32.8％の順となっている。低い順では沖縄が14.9％であり，次いで和歌山16.1％，秋田16.3％となっている(③)。

＊ けいごと学習者の学年別推移は，小学校1年で69.6％であり，学年進行とともに増加し，4年で84.4％となり最高となるが，その後は減少し，特に中学に入ると大幅に減り，中学3年では，29.6％となる(④)。

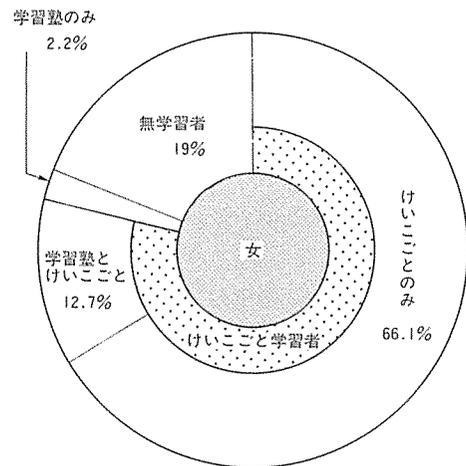
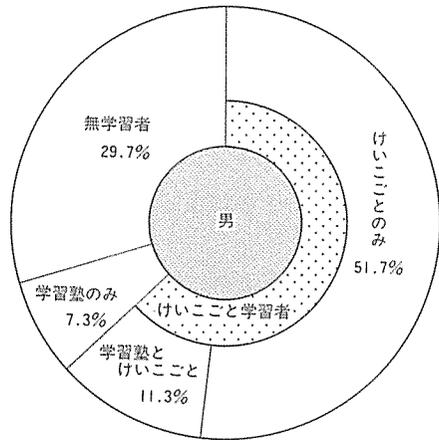
けいごとの内訳は，男子では体育スポーツ，習字，そろばん，音楽関係の順で多く，女子では音楽関係，習字，そろばん，体育スポーツの順で多い。音楽関係では特にピアノ学習者が多いことが注目される(⑤)。

曜日別けいご学習日は，土曜日が多く，日曜日は最も少なく，週当たりの学習日数は，平均2.2日となっている(⑥)。

一人当たりのけいごとを支払った月謝の総額は，平均5,500円であるが，種目別ではバイオリンが8,100円と高く，電子オルガン，フルートが5,700円，ピアノ5,500円の順となっている(⑦)。

① 小中学校別「けいごと」等，学校外学習者の比率

(ア) 小学校

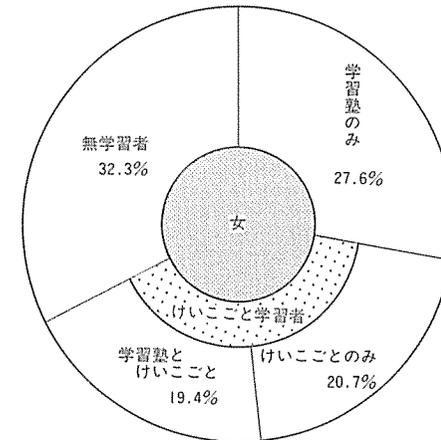
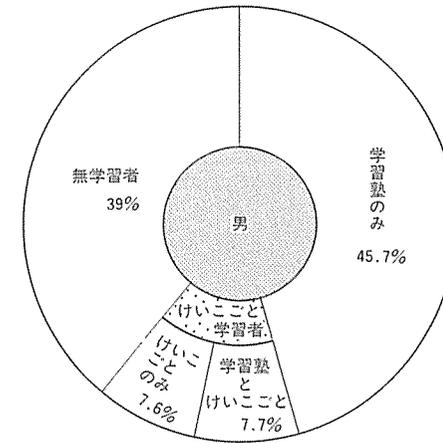


(注) 1 「けいごと」とは，音楽・舞蹈等の文化関係，体育スポーツ関係，習字・そろばん等を習うことをいう。

2 「学習者のみ」には，家庭教師による学習者も含む。

(出典) 文部省「児童・生徒の学校外学習活動に関する実態調査報告書」

(イ) 中学校



(注) 1 「けいごと」とは，音楽・舞蹈等の文化関係，体育スポーツ関係，習字・そろばん等を習うことをいう。

2 「学習者のみ」には，家庭教師による学習者も含む。

(出典) 文部省「児童・生徒の学校外学習活動に関する実態調査報告書」

② 学習塾、家庭教師及び「けいこごと」の組み合わせ別学習者の比率

●昭和60年度調査

(%)

区 分		小 学 校			中 学 校		
		計	男	女	計	男	女
計	計	76.0	70.2	82.0	62.5	57.6	67.6
	学習塾のみ	4.9	6.8	2.9	31.4	37.7	24.8
	家庭教師のみ	0.3	0.4	0.2	2.8	3.4	2.1
	けいこごとのみ	58.7	51.7	66.1	14.0	7.6	20.7
	学習塾と家庭教師	0.1	0.1	0.1	1.0	1.2	0.7
	学習塾とけいこごと	11.3	10.8	11.9	11.7	6.8	16.9
	家庭教師とけいこごと	0.5	0.4	0.6	1.3	0.7	1.9
学習塾・家庭教師・けいこごと	0.1	0.1	0.2	0.4	0.2	0.6	
市 町 以上	計	78.4	73.2	83.9	66.7	61.9	71.7
	学習塾のみ	5.9	8.1	3.5	33.5	40.2	26.5
	家庭教師のみ	0.4	0.5	0.2	3.1	3.7	2.4
	けいこごとのみ	58.0	51.1	65.3	13.3	7.0	19.8
	学習塾と家庭教師	0.1	0.1	0.1	1.1	1.5	0.7
	学習塾とけいこごと	13.4	12.8	14.0	13.4	8.0	18.9
	家庭教師とけいこごと	0.5	0.4	0.6	1.8	1.1	2.5
学習塾・家庭教師・けいこごと	0.2	0.2	0.3	0.6	0.3	0.9	
村 の 人 未 満	計	75.3	69.7	81.1	63.0	59.4	66.8
	学習塾のみ	4.5	6.4	2.5	33.9	40.8	26.6
	家庭教師のみ	0.2	0.3	0.1	2.6	3.4	1.8
	けいこごとのみ	59.6	53.0	66.6	13.8	8.1	19.8
	学習塾と家庭教師	—	—	—	0.7	0.9	0.4
	学習塾とけいこごと	10.3	9.6	11.2	11.1	5.8	16.6
	家庭教師とけいこごと	0.5	0.4	0.6	0.6	0.3	1.0
学習塾・家庭教師・けいこごと	0.1	0.1	0.2	0.3	0.1	0.6	
人 口 未 満	計	71.3	64.2	78.8	52.0	45.8	58.4
	学習塾のみ	3.0	3.8	2.1	24.2	28.9	19.3
	家庭教師のみ	0.2	0.3	0.2	2.4	2.9	1.8
	けいこごとのみ	60.0	52.2	68.2	15.8	8.7	23.3
	学習塾と家庭教師	0.0	0.1	—	0.8	0.7	0.9
	学習塾とけいこごと	7.6	7.3	7.8	8.3	4.5	12.2
	家庭教師とけいこごと	0.5	0.5	0.5	0.5	0.1	0.9
学習塾・家庭教師・けいこごと	—	—	—	0.0	0.1	—	
規 模 未 満	計	65.4	57.9	73.4	43.0	35.5	50.9
	学習塾のみ	2.3	2.7	1.8	17.0	20.2	13.6
	家庭教師のみ	0.1	0.1	0.1	1.1	1.4	0.8
	けいこごとのみ	58.4	50.9	66.2	18.7	9.9	27.8
	学習塾と家庭教師	—	—	—	0.3	0.3	0.4
	学習塾とけいこごと	4.5	4.0	5.0	5.4	3.3	7.6
	家庭教師とけいこごと	0.2	0.1	0.2	0.4	0.4	0.5
学習塾・家庭教師・けいこごと	0.0	0.0	0.1	0.1	—	0.2	

●昭和51年度調査

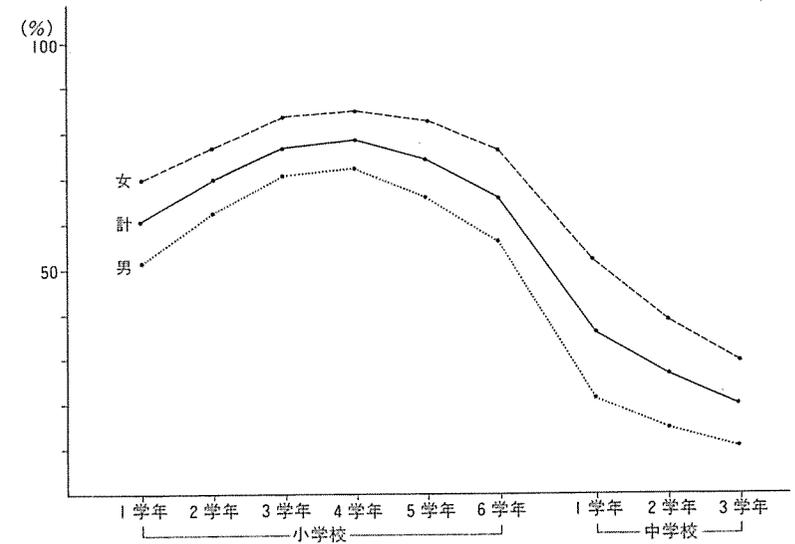
(%)

区 分		小 学 校			中 学 校		
		計	男	女	計	男	女
計	計	67.5	60.1	75.3	56.2	52.8	59.7
	学習塾のみ	4.2	5.7	2.6	26.6	32.7	20.3
	家庭教師のみ	0.4	0.5	0.2	3.3	4.0	2.6
	けいこごとのみ	54.4	45.6	63.6	13.9	7.7	20.4
	学習塾と家庭教師	0.2	0.3	0.1	1.2	1.6	0.8
	学習塾とけいこごと	7.5	7.1	7.8	9.6	6.0	13.3
	家庭教師とけいこごと	0.7	0.7	0.7	1.0	0.6	1.6
学習塾・家庭教師・けいこごと	0.2	0.2	0.3	0.6	0.3	0.9	
市 町 以上	計	71.5	65.0	78.4	63.8	61.1	66.6
	学習塾のみ	5.0	6.9	3.0	29.9	37.1	22.3
	家庭教師のみ	0.5	0.8	0.2	4.7	5.9	3.5
	けいこごとのみ	55.7	47.0	64.9	13.0	6.5	19.8
	学習塾と家庭教師	0.3	0.4	0.1	1.9	2.6	1.2
	学習塾とけいこごと	8.9	8.7	9.1	11.9	7.7	16.4
	家庭教師とけいこごと	1.0	1.0	0.9	1.5	0.8	2.3
学習塾・家庭教師・けいこごと	0.2	0.2	0.3	0.8	0.5	1.1	
村 の 人 未 満	計	65.4	57.3	74.0	54.4	51.6	57.3
	学習塾のみ	3.8	5.0	2.6	28.6	35.3	21.6
	家庭教師のみ	0.2	0.2	0.3	2.0	2.1	1.8
	けいこごとのみ	53.5	44.6	62.7	13.7	8.0	19.5
	学習塾と家庭教師	0.1	0.2	0.1	0.3	0.3	0.3
	学習塾とけいこごと	7.1	6.7	7.5	8.8	5.3	12.4
	家庭教師とけいこごと	0.4	0.4	0.4	0.6	0.3	1.0
学習塾・家庭教師・けいこごと	0.3	0.2	0.4	0.5	0.2	0.7	
人 口 未 満	計	61.6	52.9	70.7	45.8	40.9	51.0
	学習塾のみ	2.8	3.5	2.1	21.0	24.3	17.5
	家庭教師のみ	0.2	0.2	0.2	1.7	2.0	1.5
	けいこごとのみ	52.9	43.9	62.3	15.0	9.4	20.8
	学習塾と家庭教師	0.1	0.2	—	0.6	0.8	0.4
	学習塾とけいこごと	4.9	4.3	5.6	6.7	3.9	9.6
	家庭教師とけいこごと	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	0.6
学習塾・家庭教師・けいこごと	0.1	0.2	0.1	0.3	0.1	0.5	
規 模 未 満	計	51.3	42.3	60.6	32.0	25.4	38.8
	学習塾のみ	1.3	2.0	0.7	9.3	12.6	5.9
	家庭教師のみ	0.3	0.5	—	1.1	0.7	1.5
	けいこごとのみ	47.6	38.6	56.9	18.8	10.6	27.3
	学習塾と家庭教師	0.0	0.1	—	0.2	0.3	—
	学習塾とけいこごと	1.8	1.0	2.6	2.3	1.2	3.5
	家庭教師とけいこごと	0.3	0.1	0.5	0.3	—	0.7
学習塾・家庭教師・けいこごと	—	—	—	—	—	—	

③ 都道府県別「けいごと」の全児童生徒に占める学習者の比率

区 分	小 学 校			中 学 校
	合 計	低 学 年	高 学 年	
	けいごと	けいごと	けいごと	
計	70.7	68.8	72.4	27.4
北海道	63.2	54.2	71.3	32.0
青森県	56.6	54.6	58.3	24.2
岩手県	56.2	46.8	64.8	22.9
宮城県	66.4	58.5	73.9	24.0
秋田県	59.8	61.9	57.8	16.3
山形県	63.1	51.0	74.5	21.7
福島県	56.3	52.8	59.6	23.8
茨城県	74.9	73.4	76.2	26.2
栃木県	73.7	75.2	72.3	21.6
群馬県	77.9	74.4	81.0	24.8
埼玉県	73.6	68.8	77.7	24.3
千葉県	73.2	75.2	71.4	27.9
東京都	74.1	74.7	73.7	34.5
神奈川県	73.0	71.9	74.0	31.5
新潟県	60.4	52.3	67.9	23.1
富山県	68.5	63.5	72.9	21.2
石川県	69.1	65.9	71.9	25.3
福井県	70.2	63.2	76.5	23.1
山梨県	79.5	76.4	82.5	28.5
長野県	64.0	57.6	69.8	24.7
岐阜県	80.3	79.2	81.2	27.0
静岡県	72.1	74.1	70.4	21.8
愛知県	81.0	82.1	79.9	28.9
三重県	78.5	76.1	80.7	27.8
滋賀県	76.4	69.3	82.8	27.7
京都府	71.1	67.7	74.1	42.7
大阪府	76.2	75.4	76.9	31.2
兵庫県	75.4	77.7	73.3	30.7
奈良県	83.1	88.0	78.8	30.9
和歌山県	73.8	75.8	72.2	16.1
鳥取県	60.8	55.5	65.4	20.8
島根県	70.7	69.3	71.9	25.2
岡山県	75.3	74.0	76.4	27.3
広島県	72.5	75.0	70.4	25.7
山口県	68.5	65.3	71.3	26.6
徳島県	63.4	57.3	68.8	16.8
香川県	73.8	73.6	74.0	26.0
愛媛県	72.4	71.8	72.9	29.0
高知県	54.9	47.0	61.9	19.2
福岡県	71.4	72.6	70.4	29.4
佐賀県	69.0	70.8	67.3	32.8
長崎県	73.1	75.1	71.3	25.5
熊本県	55.8	53.3	58.2	26.7
大分県	66.0	57.8	73.4	24.7
宮崎県	59.0	54.3	63.4	30.2
鹿児島県	55.4	56.1	54.7	21.1
沖縄県	48.2	51.3	45.4	14.9

④ 小中学校学年別「けいごと」学習者の比率



⑤ 「けいごと」の種目別学習者の構成

(%)

区分	計	習字	そろばん	音楽関係								
				計	ピアノ	オルガン	琴	バイオリン	コーラス	ギター	声(民謡)	
計	計	100.0 (55.5)	43.9	24.3	41.5	32.3	7.2	0.4	0.6	0.3	0.1	0.1
	小学校	100.0 (70.0)	46.0	26.2	40.5	31.6	7.0	0.4	0.5	0.3	0.1	0.1
	低学年	100.0 (68.5)	47.6	15.2	44.7	34.9	8.3	0.2	0.5	0.1	0.0	0.1
	高学年	100.0 (72.4)	44.7	35.3	37.0	28.7	6.0	0.4	0.5	0.4	0.1	0.1
中学校	100.0 (27.4)	33.4	15.1	46.5	36.0	7.7	0.4	0.7	0.4	0.3	0.0	
男	計	100.0 (46.3)	42.3	23.2	15.3	10.5	3.2	0.0	0.6	0.1	0.2	—
	小学校	100.0 (63.0)	43.6	24.3	15.3	10.7	3.3	0.0	0.5	0.1	0.1	—
	低学年	100.0 (61.5)	47.6	14.9	18.8	13.2	4.4	—	0.6	—	0.0	—
	高学年	100.0 (64.3)	40.3	32.2	12.4	8.5	2.3	0.0	0.5	0.2	0.2	—
中学校	100.0 (15.3)	32.2	14.7	14.6	9.2	2.3	—	1.1	0.2	0.7	—	
女	計	100.0 (65.2)	45.0	25.1	61.1	48.6	10.1	0.6	0.5	0.4	0.1	0.1
	小学校	100.0 (78.5)	48.1	27.8	61.6	49.1	10.2	0.6	0.5	0.4	0.0	0.1
	低学年	100.0 (76.5)	47.7	15.5	66.6	53.3	11.6	0.5	0.4	0.3	—	0.1
	高学年	100.0 (80.8)	48.4	38.0	57.4	45.6	9.1	0.8	0.6	0.5	0.1	0.2
中学校	100.0 (40.6)	33.9	15.3	59.4	46.7	9.9	0.6	0.6	0.4	0.2	0.0	
区分	音楽関係(つづき)			邦洋舞	美術関係			外国語	体育関係	その他		
	フルート	太鼓	他の音楽		計	絵画	他の美術			茶道	華道(生花)	
計	計	0.1	0.1	0.5	1.6	1.9	1.9	0.0	4.0	34.5	0.2	0.1
	小学校	0.1	0.1	0.5	1.6	2.2	2.1	0.0	4.1	37.8	0.1	0.1
	低学年	0.0	0.0	0.4	1.9	3.0	3.0	0.0	3.2	40.1	0.1	0.0
	高学年	0.1	0.1	0.5	1.4	1.4	1.4	0.0	4.8	35.9	0.2	0.1
中学校	0.2	0.0	0.7	1.7	0.9	0.8	0.0	3.7	18.9	0.2	0.4	
男	計	0.1	0.1	0.5	0.1	2.1	2.1	0.0	4.3	55.6	0.0	0.0
	小学校	0.0	0.1	0.4	0.1	2.2	2.2	0.0	4.2	57.0	0.0	0.0
	低学年	—	0.1	0.4	0.0	3.2	3.2	—	3.7	59.1	—	0.0
	高学年	0.1	0.1	0.4	0.1	1.4	1.4	0.0	4.7	55.2	0.0	—
中学校	0.3	—	0.7	0.3	0.9	0.9	—	4.6	45.5	—	—	
女	計	0.1	0.1	0.5	2.8	1.8	1.8	0.1	3.8	18.8	0.3	0.2
	小学校	0.1	0.0	0.5	2.9	2.1	2.0	0.1	3.9	21.7	0.3	0.1
	低学年	0.0	0.0	0.4	3.4	2.8	2.8	0.0	2.8	24.1	0.2	0.0
	高学年	0.1	0.1	0.5	2.5	1.5	1.4	0.1	4.9	19.8	0.3	0.1
中学校	0.2	0.1	0.7	2.3	0.8	0.8	0.1	3.3	8.2	0.3	0.5	

(注) 1 1人で2種目以上の「けいごと」を習っている者がいるため、比率の合計は100%を超える。

2 ( )内は全小学生または中学生に占める比率である。

⑥ 「けいごと」の学習日数及び学習曜日別学習者の構成

(%)

区分	週当たり平均学習日数	学習曜日別構成							不定		
		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日			
計	(日)	2.2	28.7	29.5	33.8	29.5	31.0	47.1	19.8	3.0	
	計	2.3	29.1	30.9	34.2	30.8	32.1	48.0	24.5	3.0	
	男女	2.1	28.4	28.5	33.5	28.6	30.2	46.5	16.2	3.0	
小学校	計	男女	2.3	30.6	31.4	36.0	31.3	33.0	48.6	19.7	2.9
		男女	2.4	30.1	32.0	35.0	31.7	33.0	48.8	24.5	2.8
	低学年	男女	2.3	31.1	30.9	36.9	31.0	33.0	48.3	15.6	2.9
		男女	2.1	25.9	27.8	33.4	28.6	28.8	44.2	15.5	2.4
	高学年	男女	2.1	25.3	28.0	32.3	28.9	28.9	44.0	19.7	2.3
		男女	2.0	26.5	27.6	34.3	28.4	28.7	44.4	11.9	2.5
中学校	計	2.6	34.5	34.5	38.2	33.6	36.5	52.2	23.2	3.2	
	男女	2.6	34.1	35.4	37.2	34.1	36.4	52.9	28.5	3.1	
中学校	計	2.5	34.9	33.7	39.1	33.1	36.6	51.6	18.7	3.2	
	男女	1.7	19.5	20.4	23.3	21.2	21.5	40.4	20.2	3.6	
中学校	計	2.0	22.0	22.1	28.1	23.7	25.2	42.2	24.6	4.7	
	男女	1.6	18.5	19.7	21.3	20.2	20.0	39.6	18.5	3.2	

(注) 「週当たり平均学習日数」とは、学習曜日が定まっている者についての1週間の平均学習日数である。

⑦ 「けいこごと」の種目別にみた1人当たり月謝(昭和60年6月分) (千円)

区分	計	習字	そろばん	音楽関係							
				計	ピアノ	電子オルガン	琴	バイオリン	コーラス	ギター	
計	5.5	2.3	3.2	5.5	5.5	5.7	4.1	8.1	2.0	4.9	
小学校	5.7	2.3	3.2	5.4	5.4	5.5	3.9	7.6	2.0	5.2	
低学年	5.8	2.3	3.2	5.2	5.3	5.2	3.7	7.5	2.1	4.0	
高学年	5.6	2.3	3.2	5.5	5.5	5.9	4.0	7.6	1.9	5.2	
中学校	5.0	2.4	3.0	6.1	6.0	6.5	4.9	10.0	1.9	4.7	
区分	音楽関係(つづき)			邦洋舞	美術関係		外国語の会話	体育関係	その他		
	声楽(民謡)	フルート	太鼓		計	絵画			茶道	華道(生花)	
計	3.6	5.7	0.3	5.1	3.1	3.1	4.8	3.0	2.6	3.1	
小学校	3.3	6.3	0.4	5.0	3.1	3.1	4.6	3.0	2.3	2.4	
低学年	3.2	7.0	—	4.7	3.0	3.1	4.5	3.6	2.8	4.0	
高学年	3.3	6.2	0.5	5.3	3.2	3.2	4.7	2.5	2.2	2.1	
中学校	8.0	4.9	—	5.4	3.4	3.5	5.7	2.7	3.5	3.6	

(注) 計欄は、学習者一人当たりの月謝総額

### ③ 芸術教育(小・中・高・大学)

＊ 小学校、中学校、高等学校における芸術教育は、小学校においては、各学年音楽週2時数、図画工作2時数行われ、中学校においては、音楽は1、2年2時数、3年1時数、美術は1、2年2時数、3年1時数となっている。

高等学校においては、全体として普通教科、科目の中で音楽Ⅰ、美術Ⅰ、工芸Ⅰ、書道Ⅰのうち1科目(2単位70単位時間)を選択により必修することとされているが、学科により異なり、例えば普通科は芸術については3単位必要とされている。

芸術教育に携わる教員は小学校で457,556人、中学校266,918人、高等学校251,136人となっている(①)。

＊ 大学における芸術専攻学生数は、大学学部で昭和35年と昭和63年を比較すると約5倍になるなど、ほぼ毎年増加しており、昭和63年で学部45,813人、短大20,259人、修士課程1,378人、博士課程93人となっている。

このうち約9割が私立大学生であり、約4分の3が女子である。

また、卒業生は大学学部で64.1%就職しているが、卒業直後の無業者等も3割近くいる(②)。

＊ 舞台芸術の実演家が教育訓練を受けた機関を調べると全般的に高学歴であり、特に、オーケストラ団員、ソリスト等は、大学以上の教育を受けた者の比率が8割から9割と高い。

さらに、舞台芸術実演家は、個人教授、各種学校教育を受けて養成される場合も多いことも留意すべきである(③)。

＊ 大学における芸術関係学科数は、学部で、美術関係20、デザイン関係18、音楽関係65、その他25の計128である。

短大は美術関係22、デザイン関係12、音楽関係37、その他5である。

これらの大学別学科名は芸術関係学科一覧のとおりである(④)。

また、設置者別にみると学部では国公立24、私立104、短大では国公立4、私立72となっており、私立が約9割弱を占める。

Ⅷ 子供文化

3 芸術教育

① 初等中等教育における芸術教育

(ア) 芸術科目担当教員数 (昭和58年度)

	小 学 校				中 学 校				高 等 学 校			
	総 数 (人)	授業担任状況別 本務教員割合(%)		総 数 (人)	担任別本務教員 割 合 (%)		総 数 (人)	担任教科別本務教員割合 (全日制・定時制・通信制) (%)				
		音楽	図画 工作		音楽	美術		音楽	美術	工芸	書道	
計	457,556	8.4	16.6	266,918	6.1	7.4	251,136	0.9	0.9	0.1	1.1	
男	204,830	5.1	21.2	179,858	4.3	4.6	206,282	0.7	0.9	0.1	1.0	
女	252,726	11.1	12.9	87,060	9.9	7.6	44,854	2.3	0.7	0.0	1.6	

(注) 中学校、高等学校で2教科以上担任している教員はそれぞれの教科に計上した。また、高等学校の音楽・美術には専門教科担任教員数を含む。  
(出典) 文部省「昭和58年度学校教員統計調査」

(イ) 芸術科目の年間授業時数

(a) 小学校

(1 単位時間=45分)

学年 教科	1	2	3	4	5	6	計
	音 楽	(2) 68	(2) 70	(2) 70	(2) 70	(2) 70	
図画工作	(2) 68	(2) 70	(2) 70	(2) 70	(2) 70	(2) 70	418

(注) ( ) 内は年間35週換算での週当たり授業時数

(b) 中学校

(1 単位時間=50分)

学年 教科	1	2	3	計
	音 楽	(2) 70	(2) 70	
美 術	(2) 70	(2) 70	(1) 35	175

(注) ( ) 内は年間35週換算での週当たり授業時数

(c) 高等学校

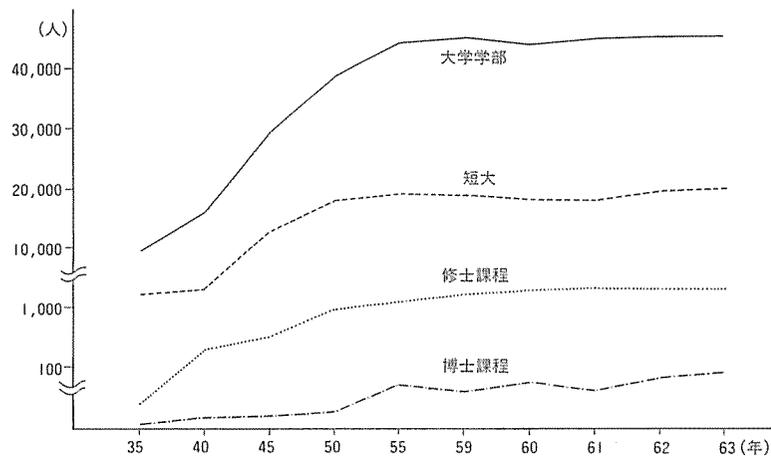
(1 単位 = 1 個学年35単位時間)  
(1 単位時間 = 50分)

普通 科 ・ 科 目	各教科に属する科目	標準単位数	摘 要		
				音 楽	美 術
普通 科 ・ 科 目	音 楽	I	「音楽I」「美術I」「工芸I」「書道I」のうち1科目(2単位70単位時間)選択必修。但し専門教科・科目で代替可能。普通科は芸術について3単位。105単位時間必修。		
	"	II			
	"	III			
	美 術	I			
	"	II			
	"	III			
	工 芸	I			
	"	II			
	"	III			
	書 道	I			
	"	II			
	"	III			
専 門 教 科	音 楽 理 論	学校設置者が定める	専門教科を主とする学科においては30単位1,050単位時間必修。但し普通教科・科目で5単位まで代替可能。		
	音 楽 史				
	ソ ル フ ェ ー ジ ュ				
	声 器 楽 曲				
	作 曲				
	音楽に関するその他の科目				
	美 術 概 論			"	"
	美 術 史				
	基 本 造 形				
	絵 画 画 像				
	彫 塑				
	ビジュアルデザイン				
クラフトデザイン					
図 法 ・ 製 図					
映 像 形					
術 総 合 造 形					
美術に関するその他の科目					

(注) 学校教育法施行規則による。なお高等学校は学習指導要領による。

② 高等教育における芸術教育

(7) 芸術専攻学生数の年次別推移



(出典) 文部省「学校基本調査報告書」

(7) 芸術専攻学生入学者・在学者数

(昭和63年度)

区分	入学者	在学者	
大学 (学部)	国立	589人	2,393人
	公立	544	2,141
	私立	10,366	41,279
	計	11,499	(16,315) 45,813
短大	公立	234	473
	私立	9,927	19,786
	計	10,161	(1,751) 20,257
大学院	修士課程	663	(660) 1,378
	博士課程	26	(62) 93

(注) ( ) 内は男子学生数で内数

(出典) 文部省「学校基本調査報告書」

(7) 芸術専攻学生卒業後進路

(昭和63年度)

区分	卒業者数	進学者	就職者	無業者その他	就職率
大学	10,474人	691人	6,715人	3,068人	64.1%
短大	9,243	1,303	5,666	2,274	61.3%
修士課程	622	24	226	372	36.3%
博士課程	17	—	6	11	35.3%

●就職者内訳再掲

区分	建設業	製造業	卸売・小売業、飲食店	金融・保険業	サービス業		公務	その他
					業	うち教育		
大学	235人	1,421人	733人	139人	3,926人	1,434人	105人	156人
短大	214	1,111	924	250	2,868	670	83	215
修士課程	6	20	3	2	182	109	11	2
博士課程	—	—	—	—	6	5	—	—

(出典) 文部省「学校基本調査報告書」

(参考) 東京芸術大学部昭和61年度卒業生有職状況 (昭和62年4月1日現在)

○音楽学部

卒業生数 228人 有職者数 37人 (16%) 進学者数 39人 (17%)

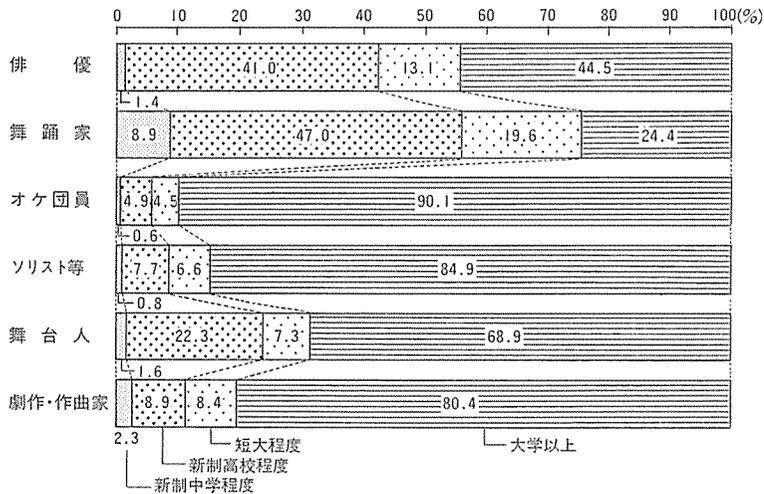
○美術学部

卒業生数 217人 有職者数 34人 (16%) 進学者数 104人 (48%)

Ⅷ 子供文化

③ 芸術家の教育訓練機関

(ア) 舞台芸術家の最終学校



(イ) 芸術活動の教育・訓練を受けた場所 (国内)

順位	俳優	舞踊家	オケ団員	ソリスト	舞台人	劇作・作曲
1位	各種学校等のみ 55.2%	個人教授のみ 40.5%	公的学校と個人教授 45.2%	公的学校と個人教授 40.9%	その他 24.6%	公的学校と個人教授 24.7%
2位	各種学校と公的学校 11.2%	各種学校のみ 19.6%	公的学校のみ 31.7%	公的学校のみ 22.0%	各種学校のみ 19.8%	公的学校のみ 22.3%
3位	その他 10.5%	各種学校と個人教授 7.7%	個人教授のみ 9.3%	個人教授のみ 9.6%	公的学校のみ 16.8%	その他 17.5%
4位	公的学校のみ 5.4%	個人教授と父母 5.4%	公的学校と個人教授と父母 5.7%	公的学校と個人教授と父母 7.5%	個人教授のみ 9.6%	個人教授のみ 6.6%

(出典) 「日本の芸術家 4,000 人調査」

④ 芸術関連学科数

(昭和63年度)

	学科区分	学 科 数			
		国立	公立	私立	小計
大学 (学部)	美術関係	2	4	14	20
	デザイン関係	1	2	15	18
	音楽関係	6	2	57	65
	その他	4	3	18	25
	計	13	11	104	128
短期大学	美術関係		1	21	22
	デザイン関係	1	1	10	12
	音楽関係		1	36	37
	その他			5	5
	計	1	3	72	76

⑤ 芸術関係学科一覧

(7) 大学学部

(a) 美術関係

区 分	大 学 名	学 部	学 科
国 立 大 学	東京芸術大学	美術学部	絵画科
			彫刻科
公 立 大 学	金沢美術工芸大学	美術工芸学部	美術学科
	愛知県立芸術大学	美術学部	美術科
	京都市立芸術大学	美術学部	美術科
	沖縄県立芸術大学	美術工芸学部	美術学科
私 立 大 学	女子美術大学	芸術学部	絵画科
	多摩美術大学	美術学部	絵画科
			彫刻科
			美術学科
	日本大学	芸術学部	美術学科
	東京造形大学	造形学部	美術学科
	武蔵野美術大学	造形学部	日本画学科
			油絵学科
			彫刻学科
	名古屋芸術大学	美術学部	絵画学科
			彫刻学科
	京都精華大学	美術学部	造形学科
	大阪芸術大学	芸術学部	美術学科
宝塚造形芸術大学	造形学部	美術学科	
九州産業大学	芸術学部	美術学科	

(b) デザイン関係

区 分	大 学 名	学 部	学 科
国 立 大 学	東京芸術大学	美術学部	デザイン科
公 立 大 学	金沢美術工芸大学	美術工芸学部	産業美術学科
	京都市立芸術大学	美術学部	デザイン科
私 立 大 学	北海道東海大学	芸術工学部	デザイン学科
	道都大学	美術学部	デザイン学科
	女子美術大学	芸術学部	産業デザイン科
	多摩美術大学	美術学部	デザイン科
	東京造形大学	造形学部	デザイン学科
	武蔵野美術大学	造形学部	視覚伝達デザイン学科
			空間演出デザイン学科
			芸能デザイン学科
			工芸工業デザイン学科
			基礎デザイン学科
	名古屋芸術大学	美術学部	デザイン学科
	京都精華大学	美術学部	デザイン学科
	大阪芸術大学	芸術学部	デザイン学科
宝塚造形芸術大学	造形学部	産業デザイン学科	
九州産業大学	芸術学部	デザイン学科	

(c) 音楽関係

区分	大学名	学部	学 科	
国立大学	東京芸術大学	音楽学部	作曲科	
			声楽科	
			器楽科	
			指揮科	
			楽理科	
			邦楽科	
公立大学	愛知県立芸術大学	音楽学部	音楽科	
	京都市立芸術大学	音楽学部	音楽学科	
私立大学	宮城学院女子大学	学芸学部	音楽科	
	東邦音楽大学	音楽学部	音楽学科	
	上野学園大学	音楽学部	音楽学科	
			器学科	
			声楽学科	
	東京音楽大学	音楽学部	音楽学科	
	日本大学	芸術学部	音楽学科	
	武蔵野音楽大学	音 楽 学 部	(1・2年次)	器楽学科
				声楽学科
				作曲学科
				音楽学科
				音楽教育学科
			(兼)	器楽学科
				声楽学科
				作曲学科
				音楽学科
				音楽教育学科
	国立音楽大学	音楽学部	声楽学科	
			器楽学科	
			作曲学科	
楽理学科				
教育音楽学科				
桐朋学園大学	音楽学部	演奏学科		
		作曲理論学科		
フェリス学院大学	音楽学部	声楽学科		
		器楽学科		
		楽理学科		

区分	大学名	学部	学 科
私立大学	洗足学園大学	音楽学部	音楽学科
	昭和音楽大学	音楽学部	器楽学科
			声楽学科
			作曲学科
	名古屋音楽大学	音楽学部	器楽学科
			声楽学科
			作曲学科
			音楽教育学科
	名古屋芸術大学	音楽学部	声楽科
			器楽科
			音楽教育学科
	相愛大学	音楽学部	作曲学科
			声楽学科
			器楽学科
	大阪音楽大学	音楽学部	作曲学科
			声楽学科
			器楽学科
	大阪芸術大学	芸術学部	音楽学科
			演奏学科
			音楽教育学科
神戸女学院大学	音楽学部	音楽学科	
武庫川女子大学	音楽学部	声楽学科	
		器楽学科	
作陽音楽大学	音楽学部	音楽学科	
		教育音楽学科	
エリザベト音楽大学	音楽学部	音楽学科	
		宗教音楽学科	
		器楽学科	
徳島文理大学	音楽学部	声楽学科	
		音楽学科	

(d) その他

区 分	大 学 名	学 部	学 科
国 立 大 学	筑波大学	芸術専門学群	芸術専門学群
	東京芸術大学	美術学部	工芸科
			建築科 芸術科
公 立 大 学	愛知県立芸術大学	美術学部	デザイン工芸科
	京都市立芸術大学	美術学部	工芸科
	沖縄県立芸術大学	美術工芸学部	デザイン工芸学科
私 立 大 学	道都大学	美術学部	建築学科
	女子美術大学	芸術学部	芸術学科
	多摩美術大学	美術学部	建築科
			芸術科
	日本大学	芸術学部	写真学科
			映画学科
			演劇学科
			放送学科
	武蔵野美術大学	造形学部	建築学科
	大阪芸術大学	芸術学部	環境計画学科
			映像学科
			舞台芸術学科
			芸術計画学科
工芸学科			
建築学科			
写真学科			
放送学科			
九州産業大学	芸術学部	写真学科	

(イ) 短期大学

(a) 芸術・美術関係

区 分	短 期 大 学 名	学 科
公 立 大 学	大分県立芸術短期大学	美術科
私 立 大 学	札幌大谷短期大学	美術科
	北海道女子短期大学	工芸美術科
	宇都宮文星短期大学	美術学科
	高崎芸術短期大学	美術科
	青山学院女子短期大学	芸術学科
	女子美術短期大学	造形科
	東京純心女子短期大学	美術科
	桐朋学園大学短期大学	芸術科
	武蔵野美術大学短期大学	美術科
	トキワ松学園女子短期大学	造形美術科
	金城短期大学	美術科
	大垣女子短期大学	美術科
	名古屋造形芸術短期大学	造形芸術科
	成安女子短期大学	造形芸術科
	嵯峨美術短期大学	美術学科
	京都芸術短期大学	造形美術学科
	神戸山手女子短期大学	芸術科
	夙川学院短期大学	美術科
	奈良芸術短期大学	美術科
比治山女子短期大学	美術科	
九州造形短期大学	美術科	

(b) デザイン関係

区分	短期大学名	学 科
国立短期大学	筑波技術短期大学	デザイン学科
公立短期大学	福島県立会津短期大学	デザイン科
私立短期大学	桐生短期大学	生活デザイン科
	武蔵野美術大学短期大学部	デザイン科
		生活デザイン科
	稲沢女子短期大学	デザイン美術科
	大阪成蹊女子短期大学	デザイン美術科
	浪速短期大学	デザイン美術科
	関西女子美術短期大学	デザイン美術科
	明石短期大学	デザイン美術科
	兵庫女子短期大学	美術デザイン科
	九州造形短期大学	デザイン科

(c) 音楽関係

区分	短期大学名	学 科
公立短期大学	大分県立芸術短期大学	音楽科
私立短期大学	札幌大谷短期大学	音楽科
	青森明の星短期大学	音楽科
	聖霊女子短期大学	音楽科
	郡山女子大学短期大学	音楽科
	宇都宮短期大学	音楽科
	高崎芸術短期大学	音楽科
	尚美学園短期大学	音楽学科
		音楽情報学科
	上野学園大学短期大学	音楽科
	東邦音楽短期大学	音楽科
	東京純心女子短期大学	音楽科
	フェリス女学院短期大学	音楽科
	昭和音楽大学短期大学部	音楽科
	洗足学園魚津短期大学	音楽科
	仁愛女子短期大学	音楽学科
	大垣女子短期大学	音楽科
	名古屋自由学院短期大学	音楽科
	松坂女子短期大学	音楽科
	大阪音楽大学短期大学部	音楽科
	神戸山手女子短期大学	音楽科
	奈良文化女子短期大学	音楽学科
	作陽短期大学	音楽科
	中国短期大学	音楽科
	広島文化女子短期大学	音楽学科
	下関女子短期大学	音楽科
	山口芸術短期大学	音楽科
	四国女子大学短期大学	音楽科
	徳島文理大学短期大学部	音楽科
高松短期大学	音楽科	

区 分	短 期 大 学 名	学 科
私立短期大学	聖カタリナ女子短期大学	音楽科
	九州女子短期大学	音楽科
	福岡女子短期大学	音楽科
	活水女子短期大学	音楽科
	熊本音楽短期大学	音楽科
	宮崎女子短期大学	音楽科
	鹿児島短期大学	音楽科

(d) その他

区 分	短 期 大 学 名	学 科
私立短期大学	郡山女子大学短期大学部	生活芸術科
	尚美学園短期大学	音楽ビジネス学科
	跡見学園短期大学	生活芸術科
	宝仙学園短期大学	生活芸術科
	山口芸術短期大学	生活芸術科

〔参考〕 学校数, 在学者数, 教職員数

(昭和63年度)

区 分	学校数	在 学 者 数			職 員 数 (本務者)	女の割合(%)	
		計	男	女		在学者	教員
計	65,724	27,087,146	14,086,368	13,000,778	449,281	48.0	41.9
幼稚園	15,115	2,041,820	1,039,452	1,002,368	20,656	49.1	93.8
小学校	24,901	9,872,520	5,056,424	4,816,096	107,488	48.8	56.9
中学校	11,266	5,896,080	3,017,363	2,878,717	42,011	48.8	35.1
高等学校	5,512	5,533,393	2,787,641	2,745,752	65,317	49.6	19.6
盲学校	70	6,257	4,018	2,239	2,037	35.8	39.8
聾学校	107	8,538	4,764	3,774	2,331	44.2	50.0
養護学校	754	81,030	51,000	30,030	10,838	37.1	51.9
高等専門学校	62	50,934	47,937	2,997	3,486	5.9	1.0
短期大学	571	450,436	41,340	409,096	12,035	90.8	38.1
大 学	490	1,994,616	1,486,559	508,057	160,390	25.5	8.9
(大学院)	(294)	(82,476)	(70,323)	(12,153)	...	(14.7)	(3.8)
専修学校	3,191	699,534	323,772	375,762	14,004	53.7	51.2
各種学校	3,685	451,988	226,098	225,890	8,688	50.0	38.6
通 信 制							
高等学校	85(72)	156,222	77,668	78,554	363	50.3	25.6
短期大学	10(10)	20,796	7,484	13,312	80	64.0	6.3
大 学	13(12)	118,818	64,555	54,263	502	45.7	7.9
盲・聾・養護学校	931	95,825	59,782	36,043	15,206	37.6	50.8
高 等 教 育	1,123	2,463,947	1,545,987	917,960	175,911	37.3	12.6

(出典) 文部省「学校基本調査報告書」